第十八輯・第五號・昭和十年五月一日

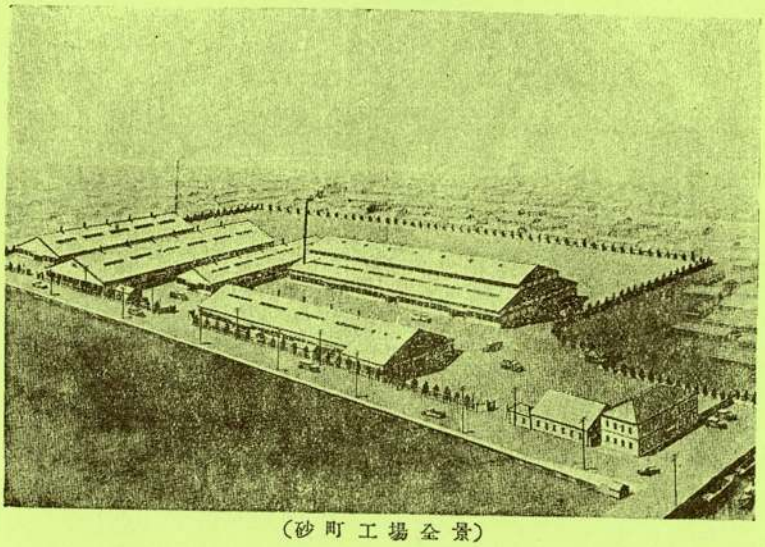
大正六年九月十四日第三種郵便物認可 ・ 昭和十年四月二十五日印刷納本 ・ 昭和十年五月一日發行(每月一回一日發行)

建築と住宅

日本建築協會

商標 建 登録

良品廉價



（砂町工場全景）

直接販賣

製品種目

瀬川式特許スチールサツシ
瀬川式特許スチールドアー
瀬川式特許スチールシヤター
瀬川式スチールパーチション
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地（高麗橋野村ビル内）
電話本局（23）4714・4715・5226（4）

本社　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地（丸ノ内ビル内）
電話丸ノ内（23）679・876

工場　東京市城東區北砂町三丁目一二番地
電話本所（73）5979・1821

出張所　名古屋市中區南大津町一丁目九ノ二（共濟ビル内）
電話中 2776・2777

登録 OHNO SHUTTER PATENTED 商標

日英米特許三一個・實用新案登錄六三個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式**シヤッター**
大野式**ルーブルシヤッター**
大野式融金付自働閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉・鋼製建具類

日英米佛獨特許三七個・實用新案登錄八四個併用

特許不二サッシ

東京市大森區新井宿七丁目
株式會社不二サッシ製作所提携

合資會社 **大野製作所**

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七五七 三七五八

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二・電話福島(45)五八八

會　　告

コンクリート夜間講習會

近來コンクリート及鐵筋コンクリートが建築土木の各方面に亘つて極めて廣く應用せられてゐる事は申すまでもありませんが其使用の方法に於て完全ならざる事實の間々存する事を聞くのは誠に遺憾であります。これは恐らく實地に携れる技術者に於て餘りに之等に關して無關心なるが爲であると思はれますのでコンクリートに關する常識を涵養し其正しき取扱方法を宣傳する事は目下の急務であると信じます今回當會主催大阪市立都島工業學校日本建築協會大阪市建築課長後援の下に現場で施工に當れる方々や工業學校學生諸君に適する程度のコンクリート夜間講習會を下記の通り開催することゝなりました、此等の方々は勿論のこと建築及建築材料に關係せらるゝ方々の多數御誘合せ御聽講あらん事を切望致します。

昭和十年五月

主催者　日本ポルトランドセメント同業會
後援者　大阪市立都島工業學校　日本建築協會　大阪市建築課長
講習會事務所　大阪市立都島工業學校建築科内

コンクリート夜間講習會プログラム

一、期間　自六月十八日至同二十六日
二、會場　大阪市立都島工業學校（市電澤上江町二丁目下車）
三、科目及講師

月　日	科　目　及　講　師　（6時―9時）		
6月18日（火） 19日（水）	コンクリート及鐵筋コンクリートの仕様	大阪府建築技師	淺野新一氏
20日（木）	實驗及活動寫眞映寫會	都島工業學校教諭 大阪府建築課	三浦尙史氏 菅陸二氏
21日（金）	鐵筋コンクリート構造計算理論	都島工業學校教諭	篠原太郎氏
22日（土）	鐵骨鐵筋コンクリート構造計算理論	神戸高等工業學校助教授	巽純一氏
24日（月） 25日（火）	コンクリートの施工法、施工設備及積算	大林組技師	渡部圭吾氏
26日（水）	ラーメンの解法	都島工業學校教諭	三浦尙史氏

四、聽講料　無料（但し聽講券及建築學會發行「コンクリート及鐵筋コンクリート標準仕様書及鐵筋コンクリート構造計算規準」携帶のこと
　右の書物を御希望の方は其旨聽講申込書に明示されゝば第一日會場で購入の便があります（定價五十錢）
　なほ聽講券は申込書と引替に送附致します
五、定員　三百名以内
六、申込期限　六月十日
七、申込期限前と雖も定員に滿ちたる節は締切ること
八、履物は靴又は草履のこと
九、全部御出席の方に限り講習會聽講證書を授與致します

コンクリート夜間講習會聽講申込書　（雛　形）

コンクリート夜間講習會聽講致度此段申込候也

1. 勤務先（又は住所）
2. 氏　名
3. 建築學會發行「コンクリート及鐵筋コンクリート標準仕様書及鐵筋コンクリート構造計算規準」要不要　（申込は大阪市立都島工業學校三浦尙史氏宛のこと）

（本申込書御入用の方は主催者又は本協會に御請求下さい御送付致します）

會　　告

建築學會は本年度大會を京阪神地方に於て擧行することになり其催中

1. 京都に於ける學術講演會は本協會員に限り御來聽を歡迎
   （但し協會胸章佩用なき方は御入場斷りあるやも不計必ず御佩用を願ひます）
2. 大阪、神戸の講演會は協會員のみならず一般の御來聽をも歡迎

致しますから御誘ひ合せ御來會下さる樣御披露致します。

昭和10年5月

日本建築協會

第1日　5月12日（日曜日）

◎學術講演會　時　第1部會……午前9時——5時15分
　　第2部會……午後1時——5時5分

會場・京都帝國大學講堂（左京區吉田町 市電東山線 東一條停留場下車東入る正門 百萬遍停留場下車東入る裏門）

第1部會

（○印は連名論文提出者中の講演者）

	開會の辭	大會京都委員長	正員 工學博士	藤井厚二君	開始時間
1	砂層地盤の載荷試驗報告		正員	加藤得三郎君	前 9.05
2	東京下町に於ける杭打地形の研究（第4編 杭の荷重試驗、第5編 杭の沈下曲線）	警視廳建築課長	正員	北澤五郎君	9.20
3	木造家屋の木材含水率に就て		正員	森　徹君	9.35
4	柱根の腐朽に關する研究	早稻田大學助教授	正員	十代田三郎君	9.50
5	セメント强度試驗法に關する研究	東京帝國大學助教授	正員 工學博士	濱田稔君	10.05
6	軟練モルタルの引張に關する研究（第2報）	東京工業大學講師	正員	狩野春一君	10.20
7	セメントモルタル及びコンクリート强度の短期推定に就て（第2報）　促進試驗法　其の1		正員	野村芳太郎君	10.35
8	混凝土の施工軟度試驗の結果得たる混凝土の最高限度に經濟的なる配合に就て		准員	秋田益雄君	10.50
9	コンクリートの收縮膨脹に關する研究		准員	大野和男君	11.05
10	高熱を受けたるモルタル、コンクリート及鐵筋コンクリートの强度に關する研究	東京工業大學助教授	正員 工學博士 准員 准員	谷口忠君○ 有馬愼一郎君 今井光雄君	11.20
11	繰返壓縮荷重を受くるコンクリートの疲勞過程の考察（疲勞假說の提案）	福井高等工業學校教授	正員	吉田宏彥君	11.35

（休　　憩）　　1時間10分（晝食）

12	歪模様觀測の新工夫とその應用	東京帝國大學教授	正員 工學博士	武藤　清君	後 1.00
13	リベットと鎔接と併用したる接手の研究（第2報）	早稻田大學教授	正員 工學博士 正員 正員	内藤多仲君 鶴田　明君○ 南　和夫君	1.15
14	側面隅肉鎔接に關する實驗		正員 准員 准員	仲威雄君○ 齋藤訢義君 菅澤英夫君 中田亮吉君	1.30
15	風壓に關する實驗的研究	警視廳技師	正員	池田　凌君	1.45
16	模型實驗に依る平版應力の測定に就て		正員	坪井善勝君	2.00
17	菱目配置の床梁をもつ鐵筋コンクリート床組に就て	京都帝國大學教授	正員 工學博士	坂靜雄君	2.15
18	耐震壁に關する研究（第4報）	東京工業大學教授	正員 工學博士 准員 准員	田邊平學君○ 勝田千利君 東東造君	2.30
19	高層多張間架構の撓度撓角方程式の實際的解法に關する考究（傳達モーメント法）	京都帝國大學助教授	正員	棚橋諒君	2.45
	（休　憩）　10分間				
20	不規則な剛節ラーメンに對する組織的解法		准員	齋藤謙次君	3.10
21	無限級數法に依るラーメン特殊解法に就て	混凝土專修學校教授	正員	田中悠君	3.25
22	矩形ラーメンの表示解法	東京市技師	正員	瀧本義一君	3.40
23	鉛直荷重を受けた矩形對稱ラーメンに於ける相反原理	東京工業大學助教授	正員	二見秀雄君	3.55
24	固定モーメント法の實用化	山下建築事務所員	准員	橋本眞平君	4.10
25	ラーメン架構の部材最大曲げモーメントにつきて	京都帝國大學助教授	正員	棚橋諒君	4.25
26	水平荷重を受くる矩形ラーメンの略解法	小笠原建築事務所員	正員	谷隆夫君	4.40
27	耐風、耐震的高層ラーメンに對する曲げモーメントの實用新公式と其應用（其1）	北海道帝國大學教授	特別員 工學博士	鷲部屋福平君	4.55
	閉會の辭	本會會長	正員 工學博士	内田祥三君	

第2部會

（○印は連名論文提出者中の講演者）

	開會の辭	大會京都委員長	正員 工學博士	藤井厚二君	開始時間
1	平安京復原土代	東京工業大學教授	正員 工學博士 准員	前田松韻君○ 藤岡通夫君	1.05
2	江戸時代の學校建築に就て	名古屋高等工業學校助教授	正員	城戸久君	1.20
3	江戸幕府作事方職制に就て	早稻田大學助教授	正員	田邊泰君	1.35
4	當麻寺草創と金堂との研究	東京帝國大學教授	正員 工學博士 准員	藤島亥治郎君○ 川上邦基君	1.50
5	音響透過に關する實驗（第2報）（單1材料の遮音効果）	早稻田大學助教授	正員 正員 正員	佐藤武夫君 川島定雄君○ 三木韶君	2.05
6	强度法による吸音係數の測定（第2報）	日本大學講師	正員	市浦健君	2.20

7	木材板の防濕効果に就て	早稲田大學助教授	特別員	宮部宏君	2.35
8	木造及コンクリート住宅の室内氣候に就て	東京帝國大學助教授	正員	一桝悦三郎君	2.50
	（休憩） 10分間				
9	室内空氣の自然對流に關する模型實驗（第1報）	東京工業大學助教授	正員	谷口吉郎君	3.15
10	晝光照明に於ける眩輝影響の一考察		准員	太宰二郎君	3.30
11	二三の材料の反射並に透過光の擴散性	日本大學教授	正員	渡邊要君	3.45
12	模型室に於ける擴散照度の實驗	早稲田大學講師	正員	木村幸一郎君	4.00
13	色度測定に就て（第2報）		正員	星野昌一君	4.15
14	色の識別時間に關する實驗（都市の對空僞裝に關する研究第1回報告）	警視廳技手	准員 准員	新海悟郎君 笹間一夫君	4.30
15	空港建築計畫に於ける Planning Chart		准員	笹間一夫君	4.45
	閉會の辭	本會會長	正員 工學博士	内田祥三君	

（注意） 1. 以上の發表論文は四月下旬發行の建築雜誌臨時增刊「大會論文集」に一括して其全文を掲載してありますから御出席の際御携帶願ひます。尙一論文に付討論を含めて15分の豫定ですが、講演者の事故又は質問の有無に依り多少講演開始時刻が繰上るかも分りません。

2. 質疑討論幅輳の虞がありますから、豫め質問御確定の方は御名刺に論文番號御記入の上當日會場受付に御提示願ひます。質疑權はその御申込順位に依ります。

第2日 5月13日（月曜日）

◎講演會（大阪） 午後6時30分開會（時間勵行 聽講無料）

會場・朝日會館（大阪市北區中之島3丁目 市電渡邊橋停留場際）

司會者 大會大阪委員長 竹腰健造君

開會の辭	本會會長	正員 工學博士	内田祥三君
我國板硝子工業の趨勢	旭硝子製造株式會社 尼崎工場長		森本貫一君
大阪市緑地問題の現狀及將來	大阪市土木部長		福留並喜君
法隆寺昭和大修理	法隆寺國寶保存工事 事務所長	正員 工學博士	武田五一君
工場の採光方法に就て	京都帝國大學教授	醫學博士	戸田正三君
閉會の辭	大會總委員長	正員 工學博士	片岡安君

第3日 5月14日（火曜日）

◎講演會（神戸） 午後6時30分開會（時間勵行 聽講無料）

會場・海員會館（神戸市湊東區相生町1丁目、市電元町6丁目停留場下車 三越又は省線神戸驛前）

司會者 大會神戸委員 宮本長治君

開會の辭	本會會長	正員 工學博士	內田祥三君
日本建築の文法	神戸高等工業學校教授	正員	瀧澤眞弓君
六十年來の體驗により私は如何なる家に住むべきか	都市計畫兵庫地方委員 山本病院長		山本治郎平君
建築と災害	日本大學工學部長	正員 工學博士	佐野利器君
商業と工業の關係に就て	神戸商業大學教授		福田敬太郎君
閉會の辭	大會神戸委員長	正員	古宇田實君

尙、活動寫眞を映寫致します。

會　　告

アスファルトに關する研究會開催に付協會員の隨意參加の件

本協會材料委員會に於てアスファルトに關し專門家を加へ意見の交換會を下記の通開催致しますから協會員各位の隨意御參加の上研究談を御洩し下さることを希望いたします。（追て夕食は準備いたして居りませんから御諒承を願ひます）

時　5月8日(水)午後正6時開會―9時閉會

所　建築倶樂部（北區中之島朝日ビル4階）

× × × ×

五　版

市街地建築物法令改訂版刊行

本書は六大都市施行細則その他關係命令を蒐め昭和8年刊行第四版を出し暫く絶版中のものであつたが今回同法及施行規則・施行細則の一部或は全部が改正發令されたのでこれを機會に改訂して第五版として刊行したものである。

定價は一部50錢、郵送料は6錢、その他體裁等は前版通りである。御希望の向は丸善本支店、柳々堂書店或は本會事務所で求めて下さい。

昭和10年5月

社團法人　日本建築協會

日本建築、保存、手入、

新築住宅に

お手入のいらぬ

美素加工請負

美素工業所

大阪市天王寺區生玉町一三二

電話天王寺四〇〇三番

◎**新築家屋美素加工**

新築落成と、同時に、本所獨特の**ビソ液**にて洗淨し木材變色の原因となる、樹液を取り、其の上を**ビソ**にて仕上の加工をすると完全なる變色防止加工となり優美な艶を有し水拭き掃除の勞を省き頗る經濟的です。

◎**古家屋新裝美素加工**

百年の古家も一度ビソ液にて洗淨すると新築同樣となる其の上を新築美素加工と同樣の加工をすると前者同樣の結果となる。

（特種技術を要しますから弊所の請負加工と致して居ります）

カタログ贈呈

建築と社會

第18輯第5號　昭和10年5月發行

住宅

目次

住宅寫眞集 ……（2）

O氏邸（京都）……藤井厚二（2）

米本氏邸（南海·高師濱）……大林組住宅部（8）

中島氏邸（阪急·東豐中）……阪急電鐵地所課（13）

岡氏邸（阪急·寶塚）……大林組住宅部（14）

佐藤氏邸（阪急·新伊丹）……阪急電鐵地所課（17）

今村氏邸（阪急·南鄕山）……石川純一郎（18）

黑正氏邸（阪急·夙川）……石川純一郎（22）

大森氏邸（阪急·東豐中）……阪急電鐵地所課（25）

岩倉氏邸（阪急·東豐中）……小林三造（26）

K氏邸（阪急·新伊丹）……阪急電鐵地所課（28）

水島氏邸（阪急·新伊丹）……阪急電鐵地所課（29）

足立氏邸（阪急·東豐中）……阪急電鐵地所課（30）

小川氏邸（阪急·櫻井谷）……小川安一郎（31）

都市發展に於ける交通機關の地位 ―住宅問題の準備的研究として― ……和田登／荒木正巳／西山卯三（36）

上代住宅建築雜考―萬葉集を讀みて― ……葛野壯一郎（44）

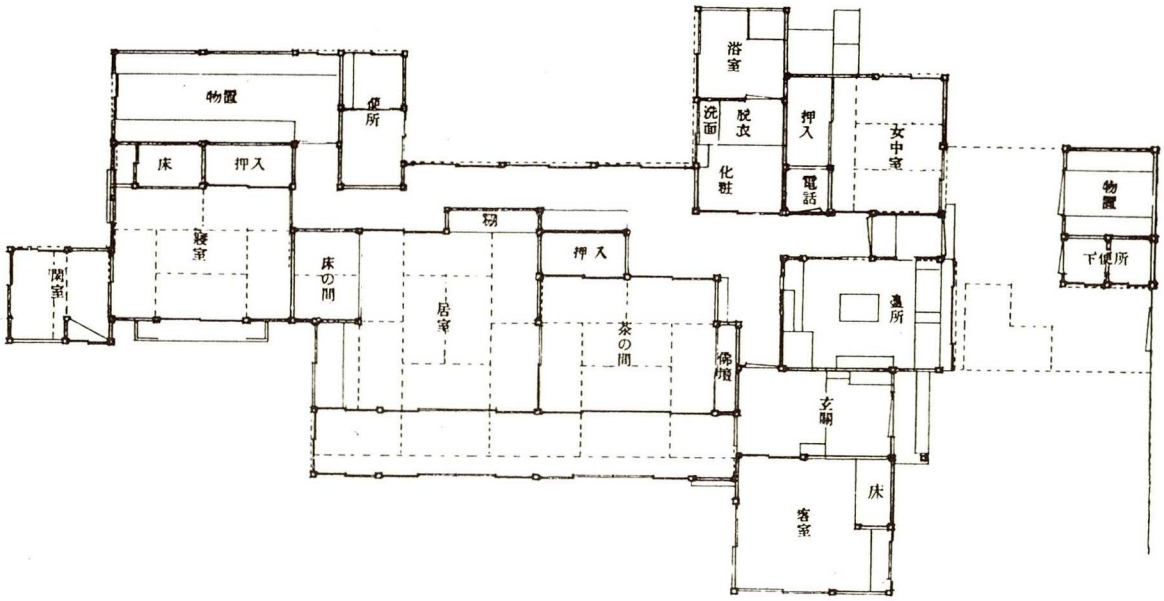
住宅の居室と間接の室との比較 ……松本儀八（49）

臺所の紙上展覽會 ……增山新平（53）

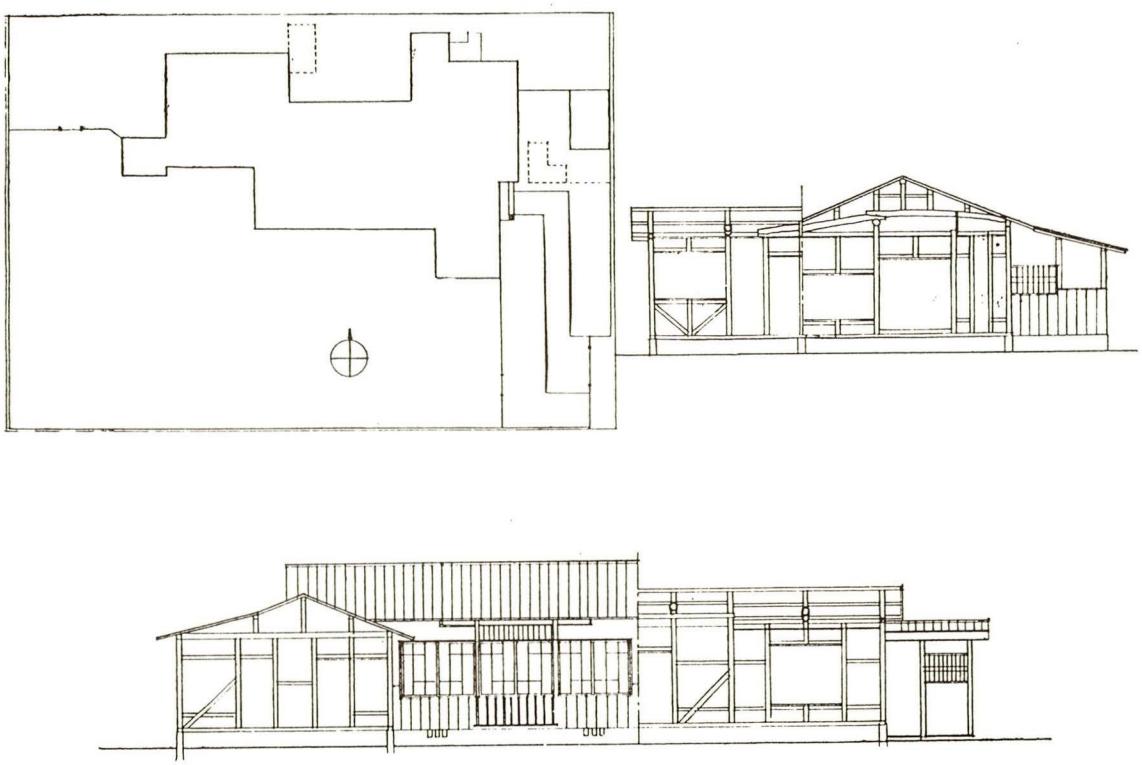
新建築 ……（61）

國際新建築集 ……（65）

會報 ……（79）



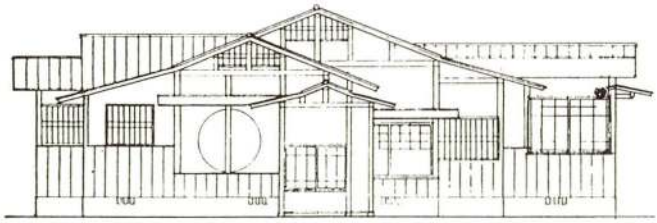
1



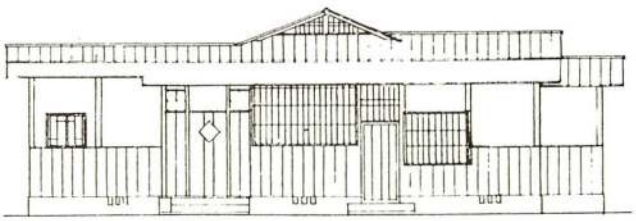
2

ヾ2　0 氏邸（京都）

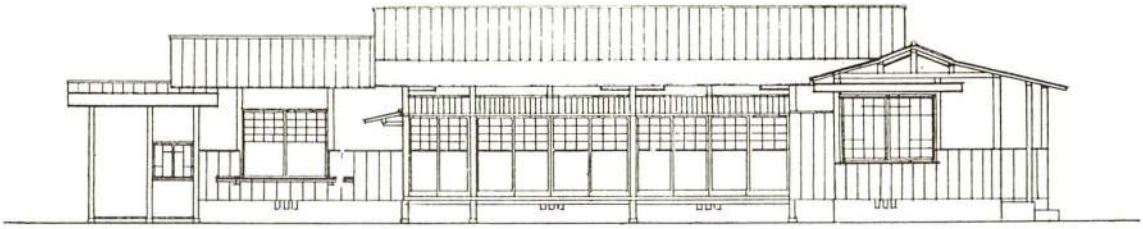
設計　工學博士　藤井厚二氏



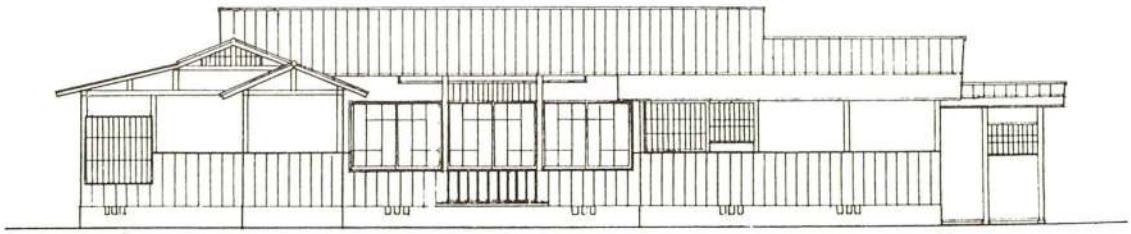
3



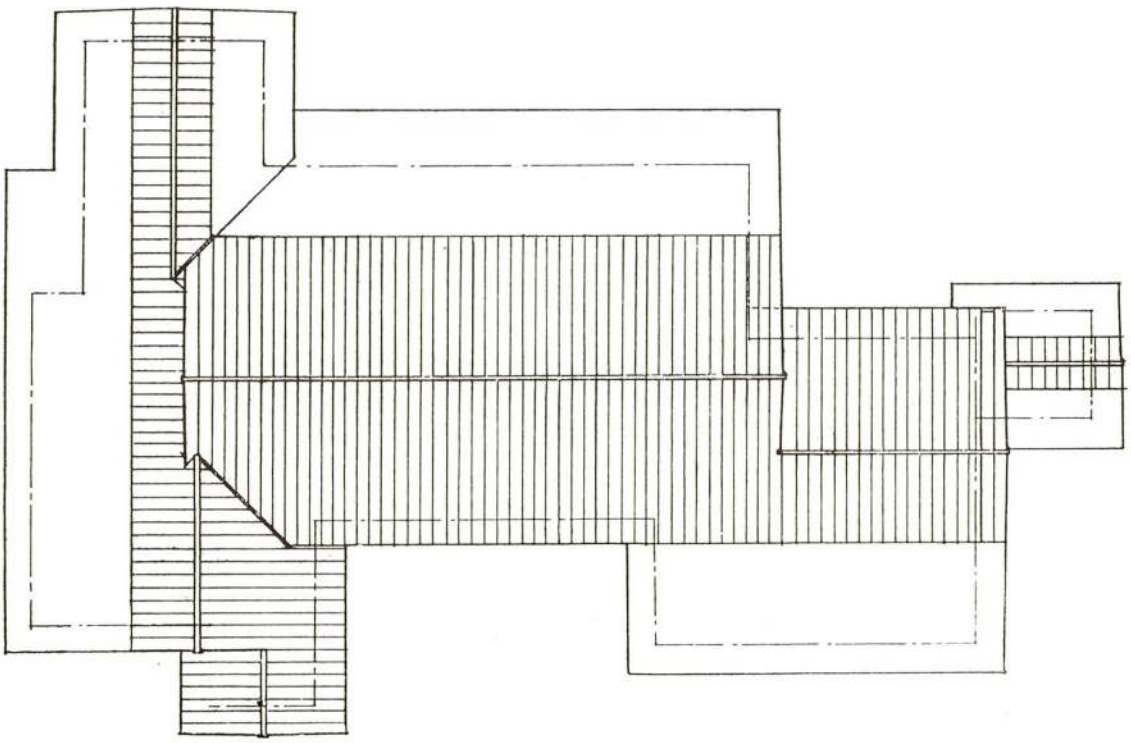
4



5



6

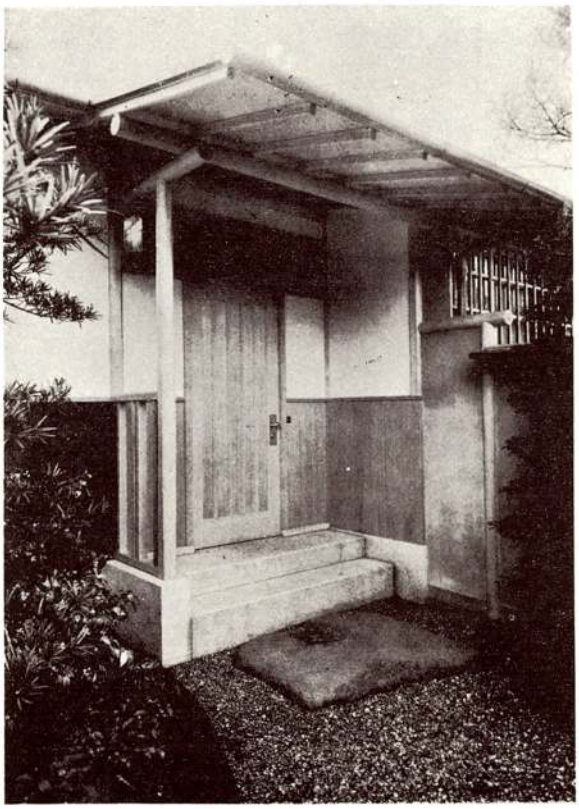


7

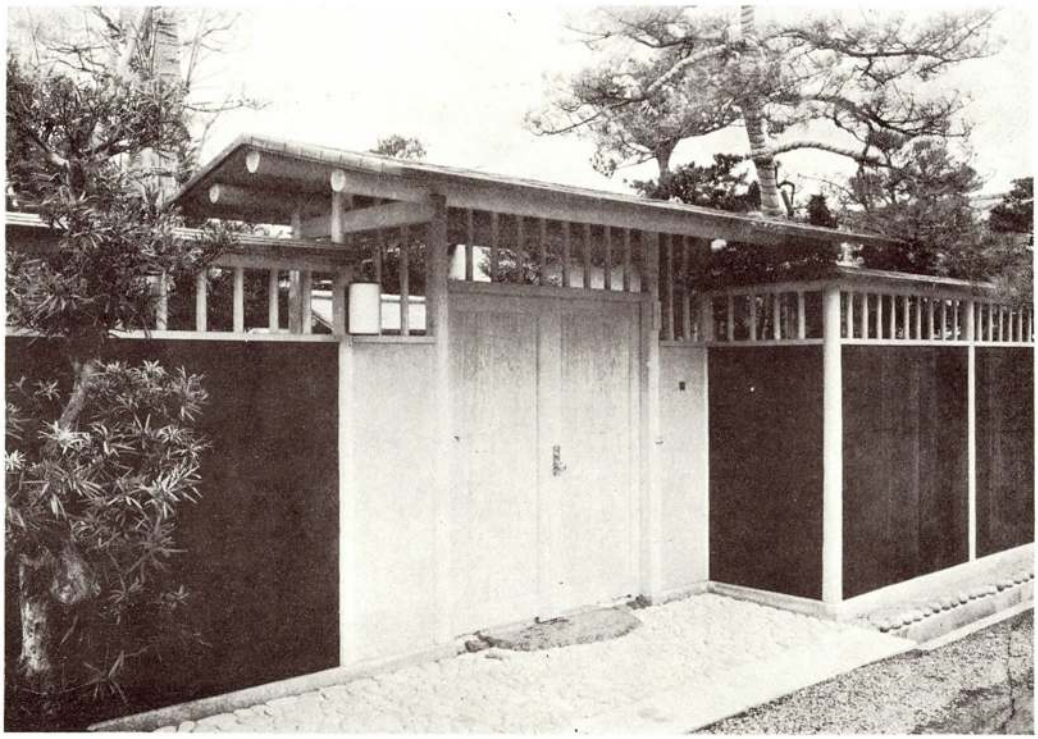
0 氏 邸 （京都）



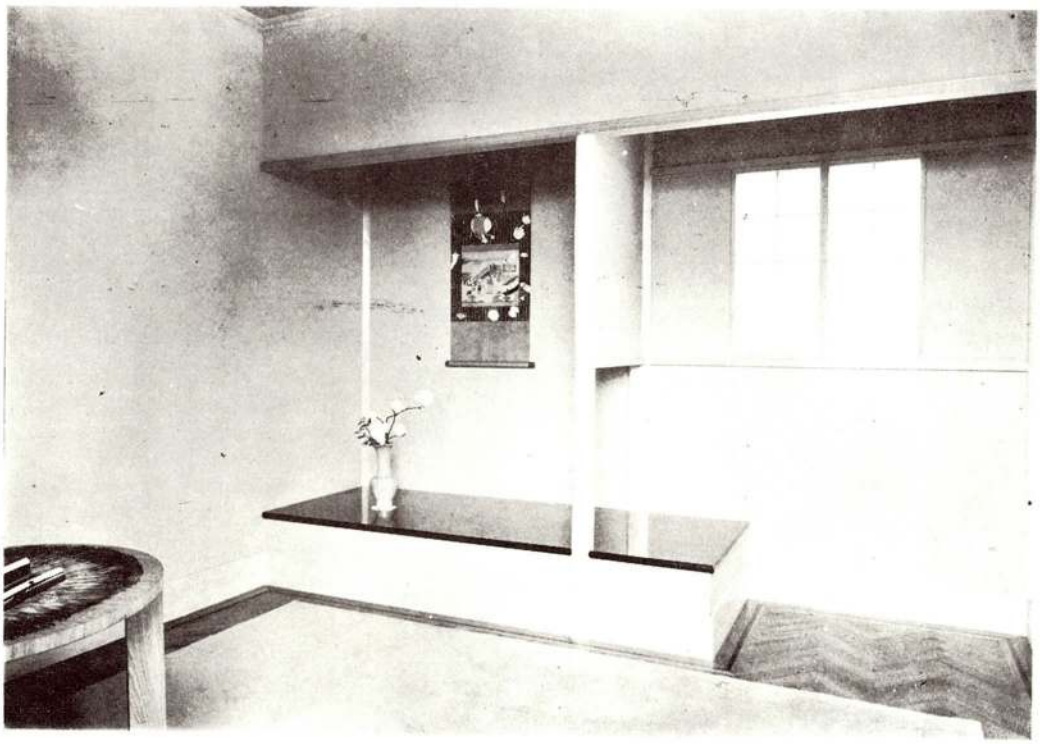
8· 外 觀 及 庭 園



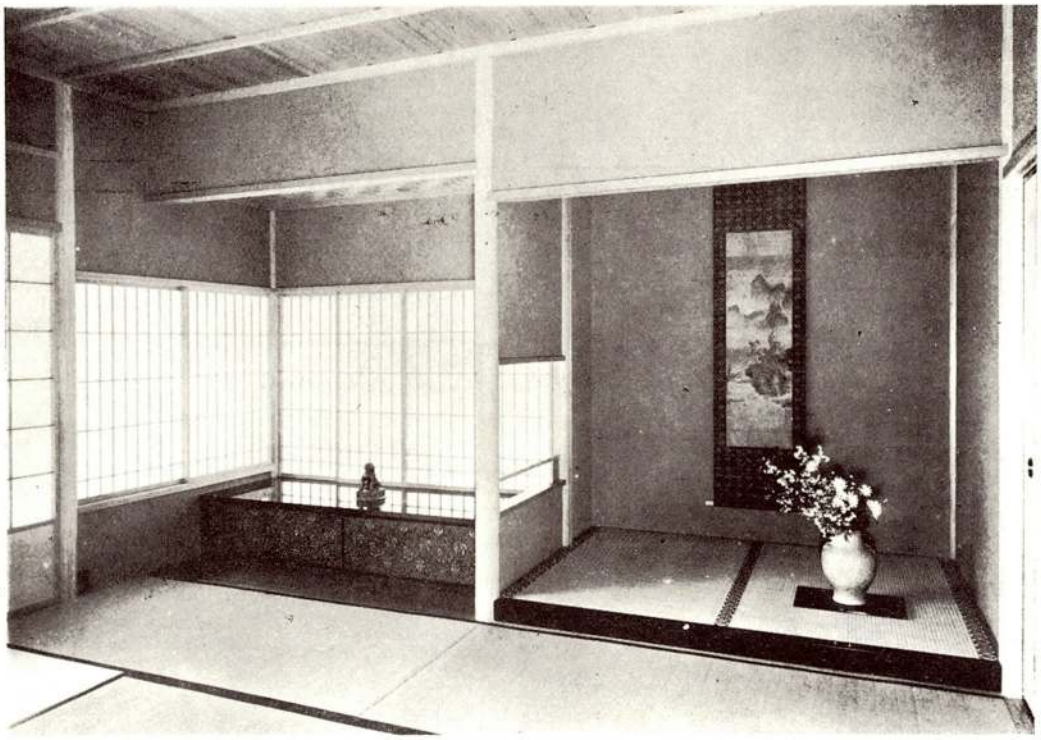
9· 玄 關



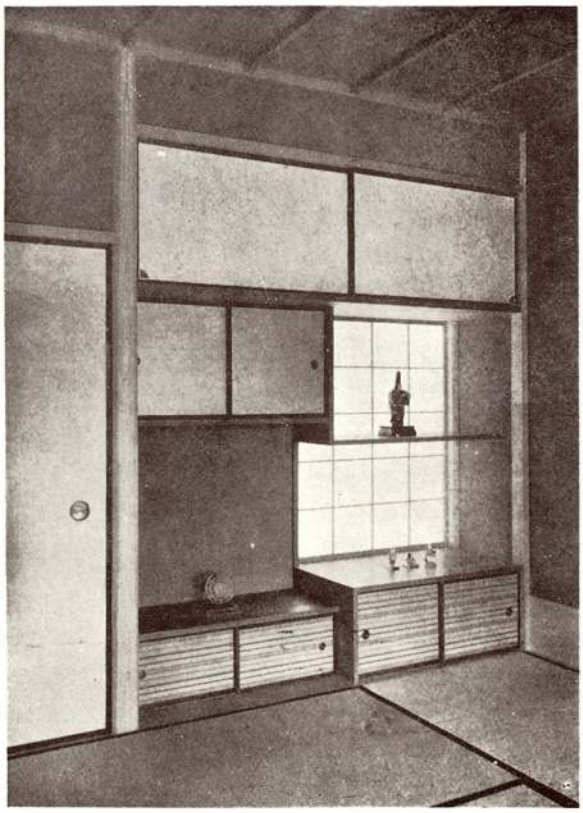
10· 門



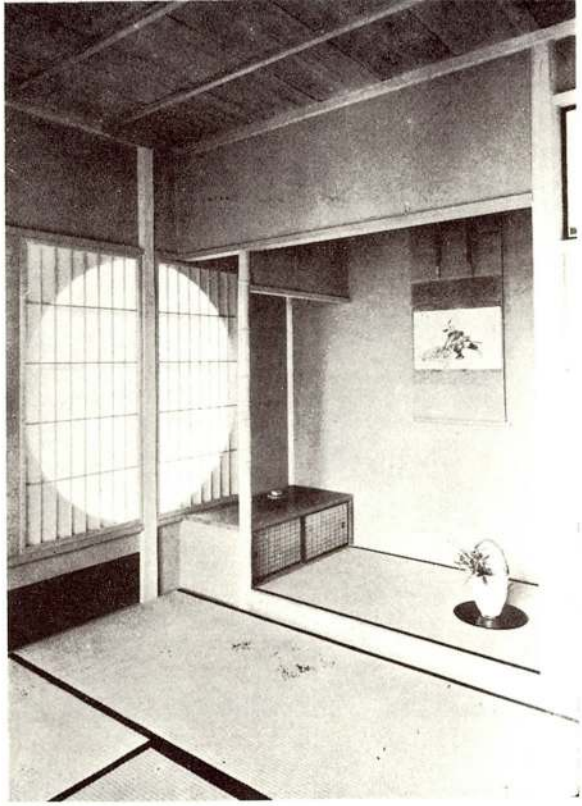
11· 客 室



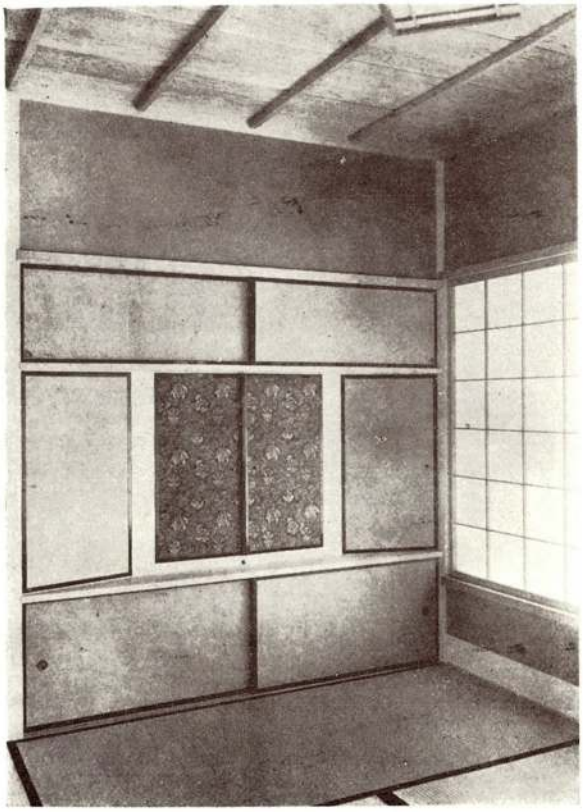
12· 居室の床の間



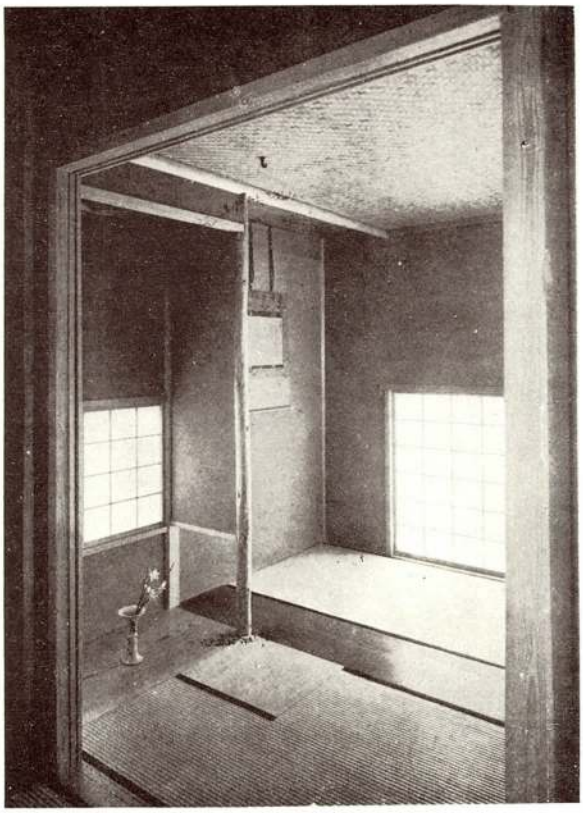
13· 居室の棚



14· 寢室の床



15· 佛壇

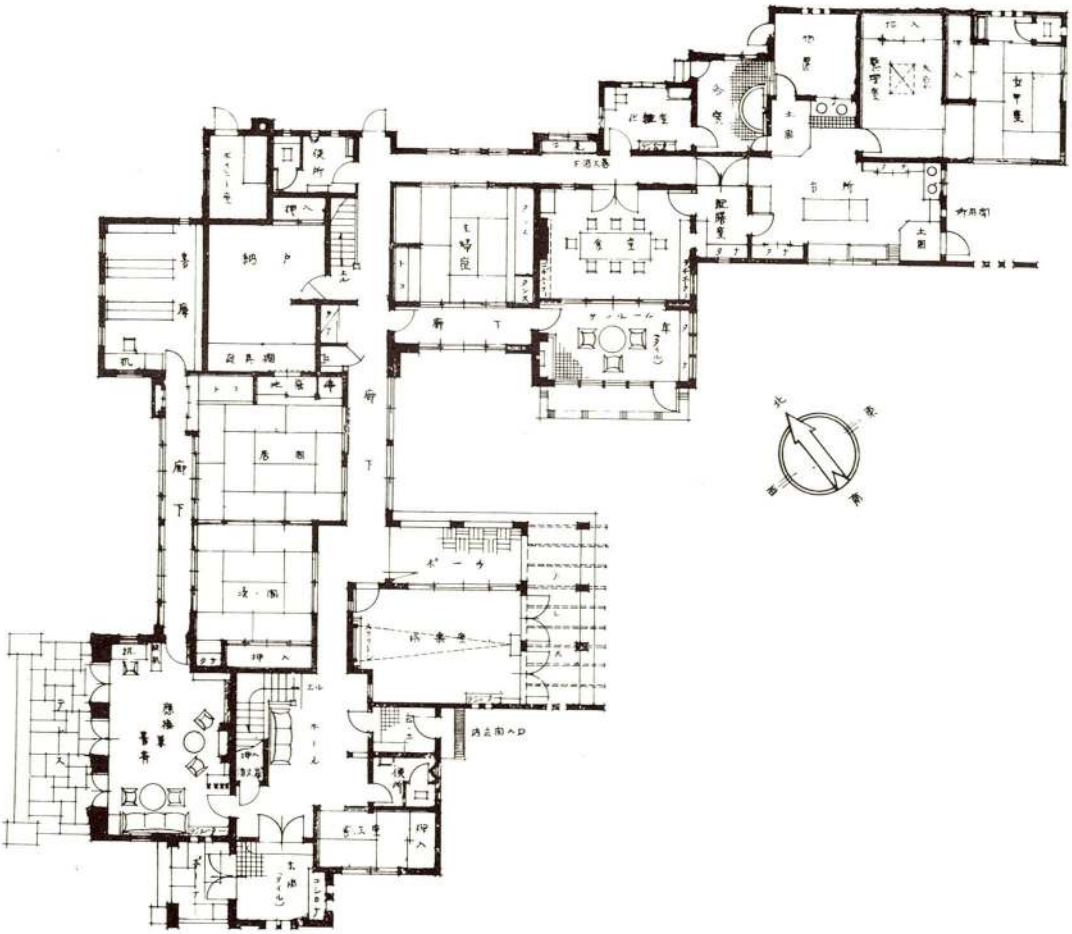


16· 閑室

0 氏邸 （京都）　　設計 工學博士 藤井厚二氏



1・ 娯樂室前のテレス前方のはサンポーチです



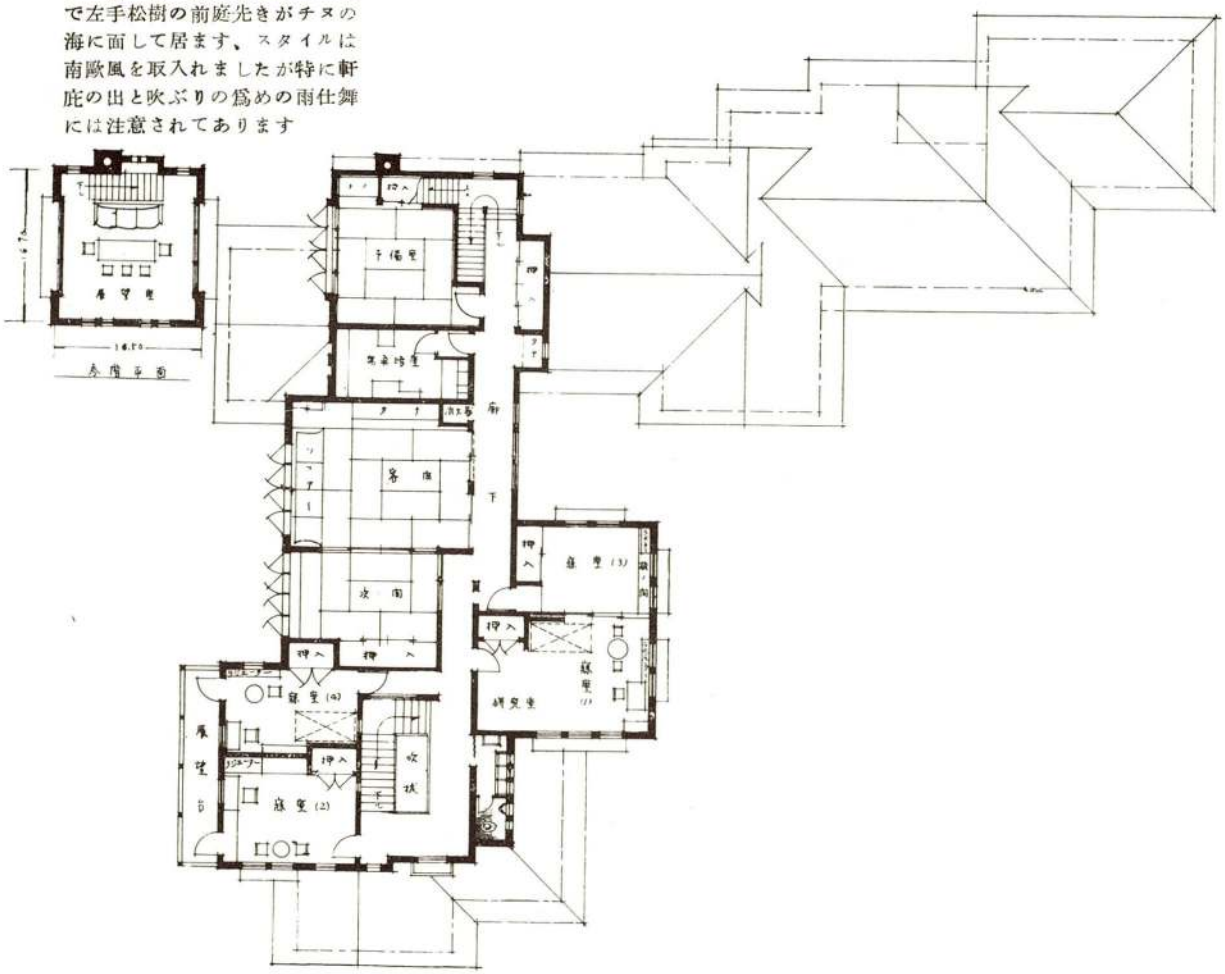
2

v 8　米 本 氏 邸（南海・高師濱）

設計・施工　大 林 組 住 宅 部



3· 背 面 西に面した方の姿で左手松樹の前庭先きがチヌの海に面して居ます、スタイルは南歐風を取入れましたが特に軒庇の出と吹ぶりの爲めの雨仕舞には注意されてあります



4

米 本 氏 邸 （南海・高師濱）



5· 應 接 室

スパニッシ趣味を基調として
出來上つた部屋であります



6· 玄關ホール

應接間同樣スパニッシ
好みに出發致しました



⬆ 7· **客　間**　座つて良し、掛けても使へる部屋にしたいと云ふので出來上つた部屋!!ソツファもある坐机もある、そうした心使から棚類も其趣に注意されてゐます

⬇ 8· **展　望　室**　位置は3階で近くはチヌの灣から、六甲紀州方面の山々まで手に取る如き視界をもつ部屋である、主として夏の部屋として使ひ度いのです。

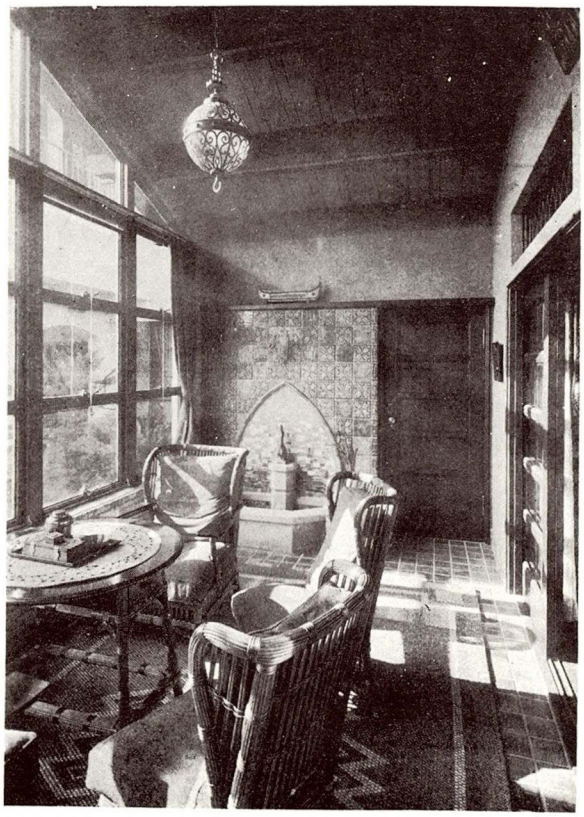


米　本　氏　邸（南海・高師濱）



⬆ 9· 食 堂

此部屋は南向であつて、南側の庭園を抱き込んで、サンポーチ越しになつてゐます、之は直かに庭園に面するよりは、夏の食堂として冬の食堂として、どちらにもより良い感じを持つ様にとの心組から、そして又食堂を場合によつてはサンポーチまで延長も出來ようと云ふので!!様式は可成スマートな好みを取入れたものです。

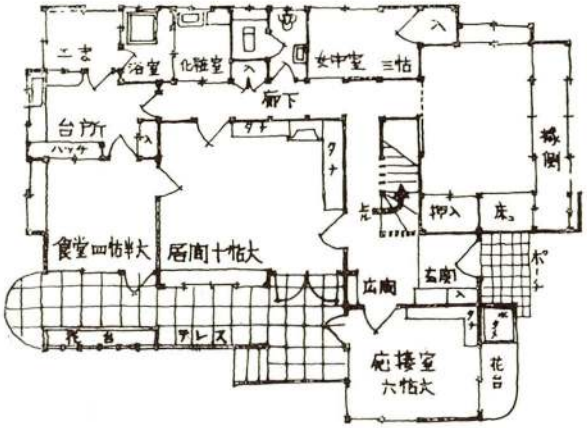


⬅ 10· サンポーチ

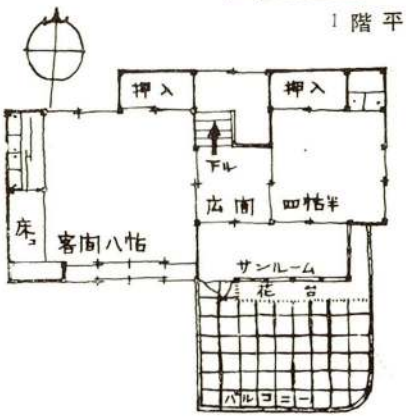
食堂の前のサンポーチ、肩の凝らない構へにして、夏によく、冬によくと云ふ心算で試みられたもの



1. 外　觀



1 階 平 面 圖



2.

2 階 平 面 圖

中島氏邸（阪急經營東豊中住宅地）

場所は阪急沿線東豊中住宅地、山に倚り池に臨む大自然地の一角小高い丘に建つ住宅

さへぎるものゝない青空にくつきり描き出された直截なスカイライン、純白な壁面が背後の緑樹に映へて均齊のとれたマツスを横へた姿は、フレツシュな機能的な新生活を包藏する總てを物語るであらう

門をぬけて緑樹に圍まれた坂道をのぼりきると大きく突き出たバルコンの庇にかくれて玄關を見る

感覺的なパーゴラの下にアームチエアーを横へて、三つの池の涼風をとり得らるゝ夏の午後の1日こそ、之又東豊中に誇り得る魅力の一つである事と思ふ（中川敬一記）



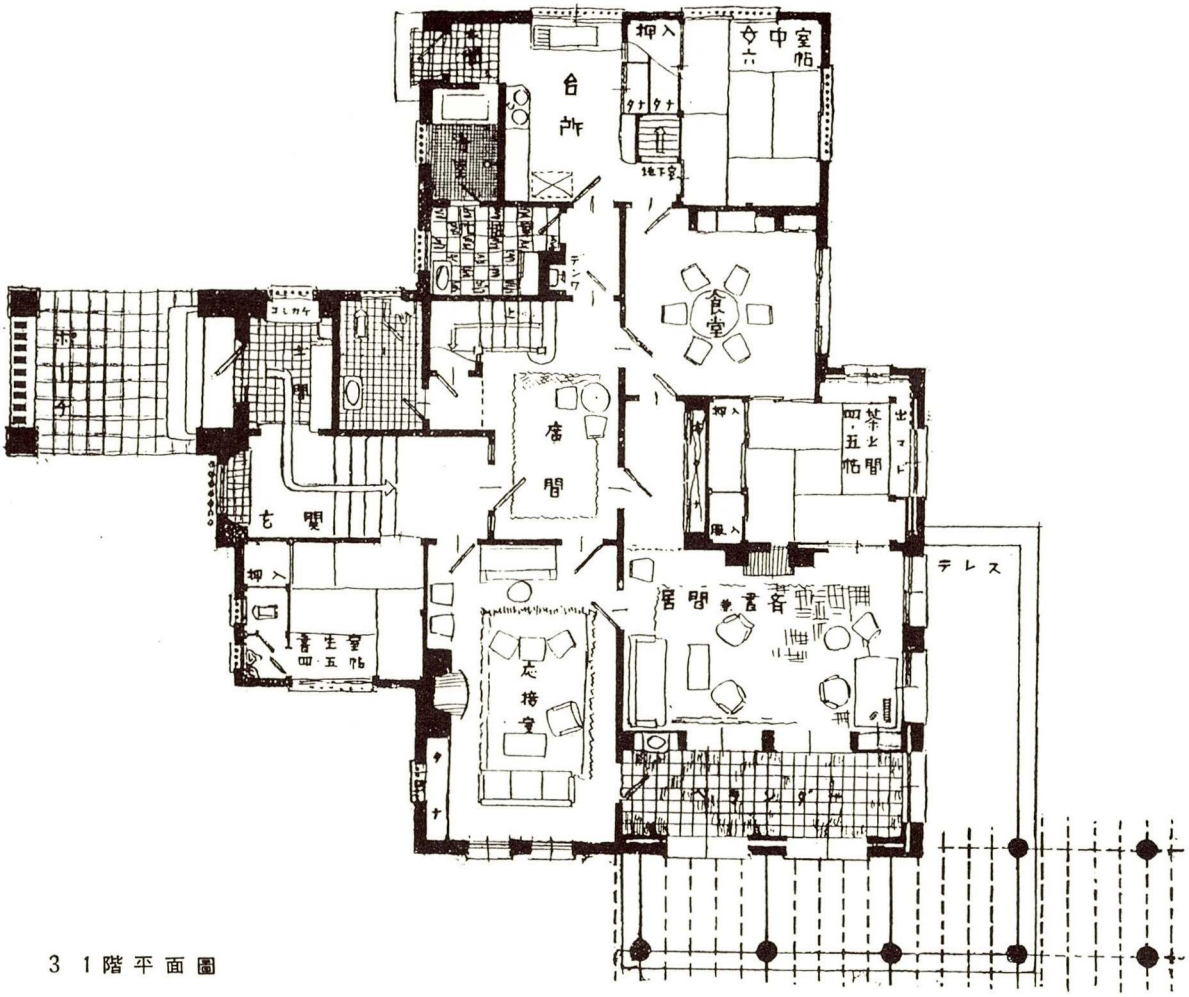
1· **正門より玄關**　もともと山莊氣分の家とし度いと云ふ出發で建てた家！寫眞で見る樣に野面亂積の石塀代用の土留を傳へば同じ野石積の門柱がある、夫れからドロドロ上りの緩勾配を持つ通路を辿れば突當りに吹拔式のポーチがある

2· **東南面の姿**　西寶塚の小高い丘(壽樂莊)に位置を占めて居る關係上、東も南も北も三方を眼下に見下し遮る何物もないと云つた、眺望に惠まれた場所で、樣式は和風趣味のハーフチンバーを取入れて居ます

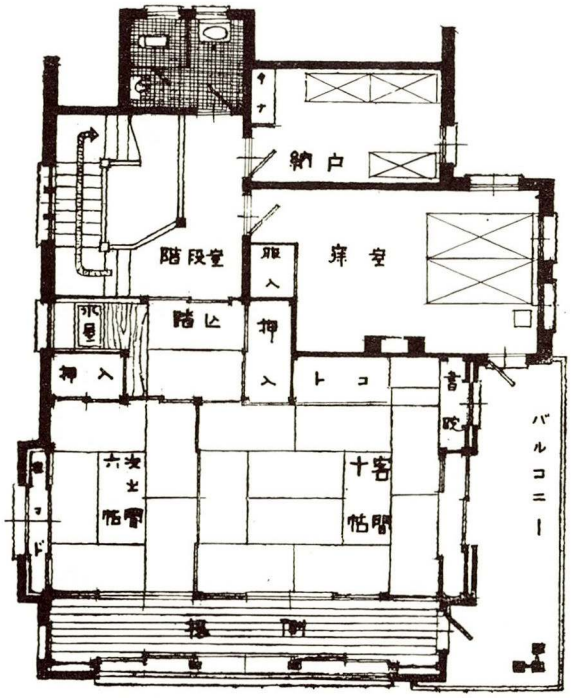


14　岡氏邸（阪急・寶塚）

設計・施工　大林組住宅部

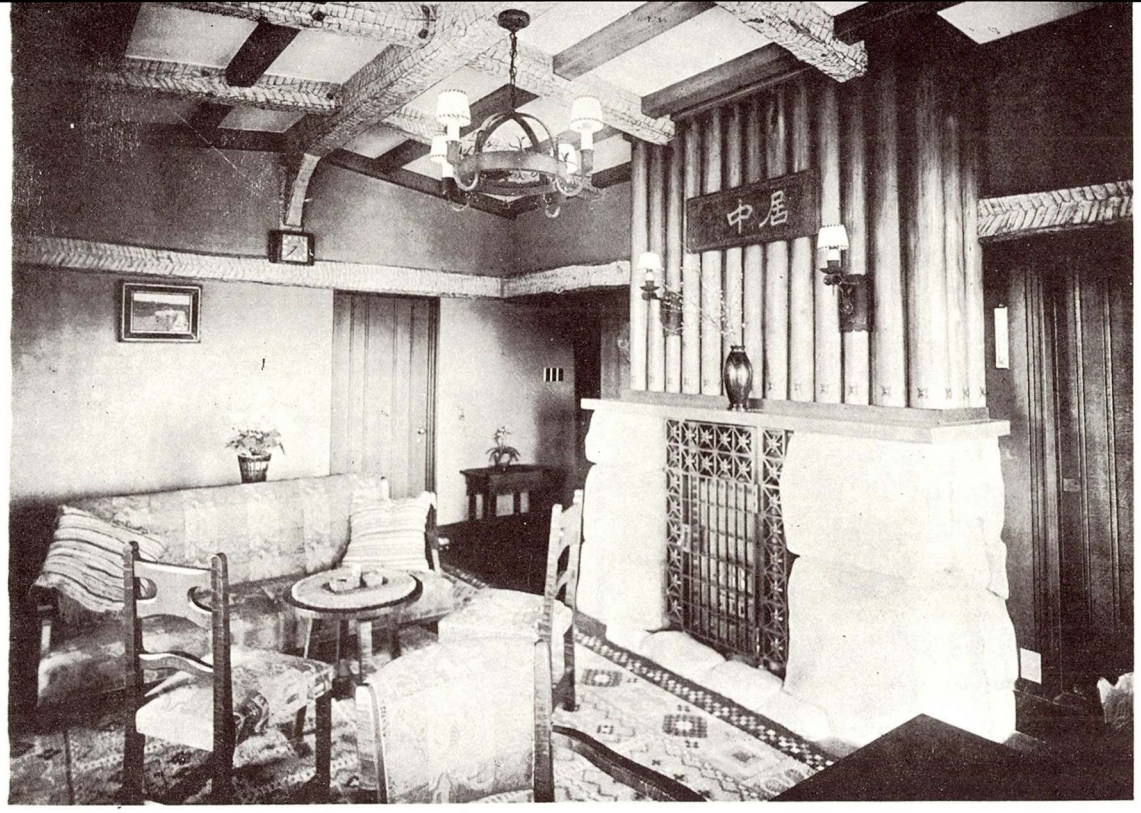


3 1階平面圖



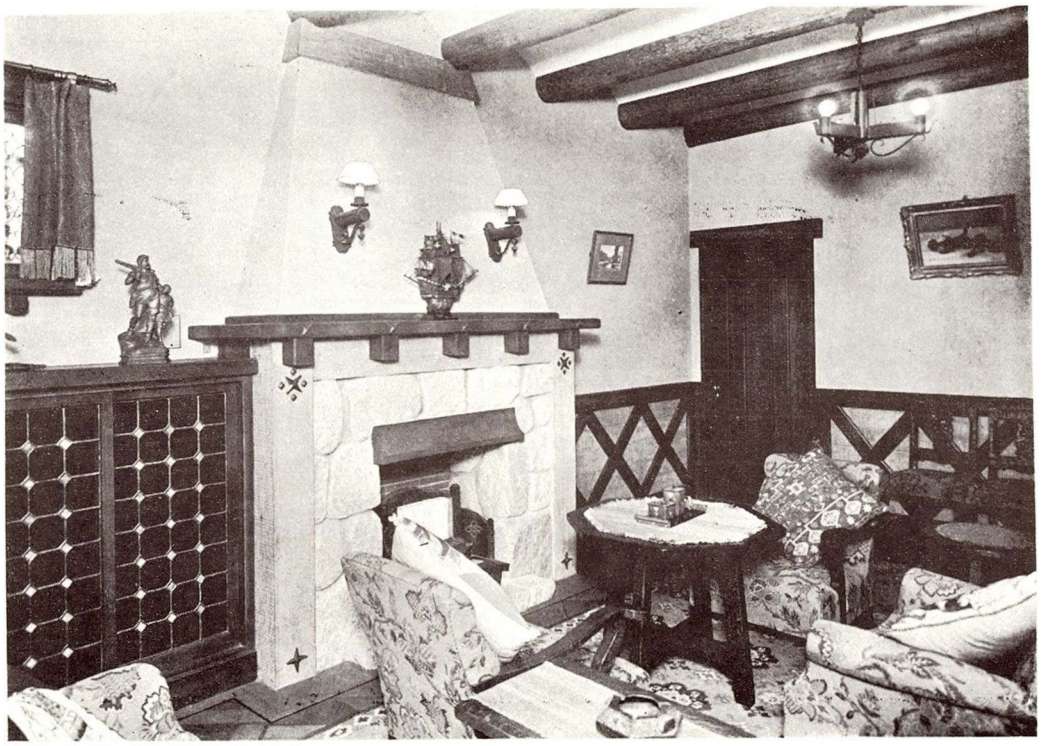
4 2階平面圖

岡氏邸（阪急·寶塚）



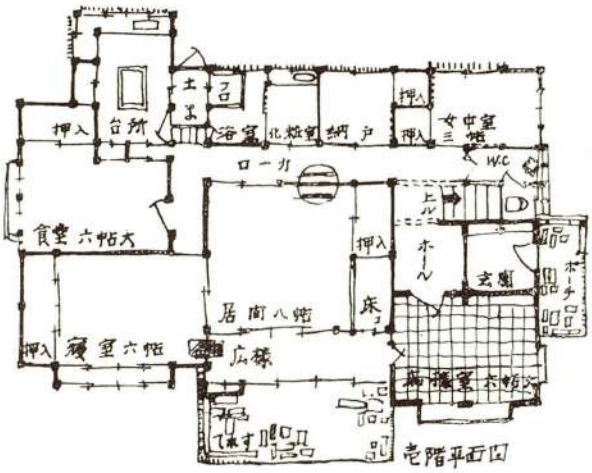
⬆ 5· 居 間　野趣味を存分に!!と云ふ處から天井廻りも、煖爐廻りも、家具類に至るまでそういつた手法を試みられて居ます

⬇ 6· 應 接 室　居間程ではないが此室もザングリとした山荘の氣分を取入れることに力めた

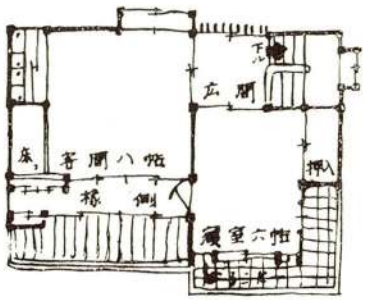




1. 外　観



一階平面図



二階平面図

佐藤氏邸（阪急經營新伊丹住宅地）

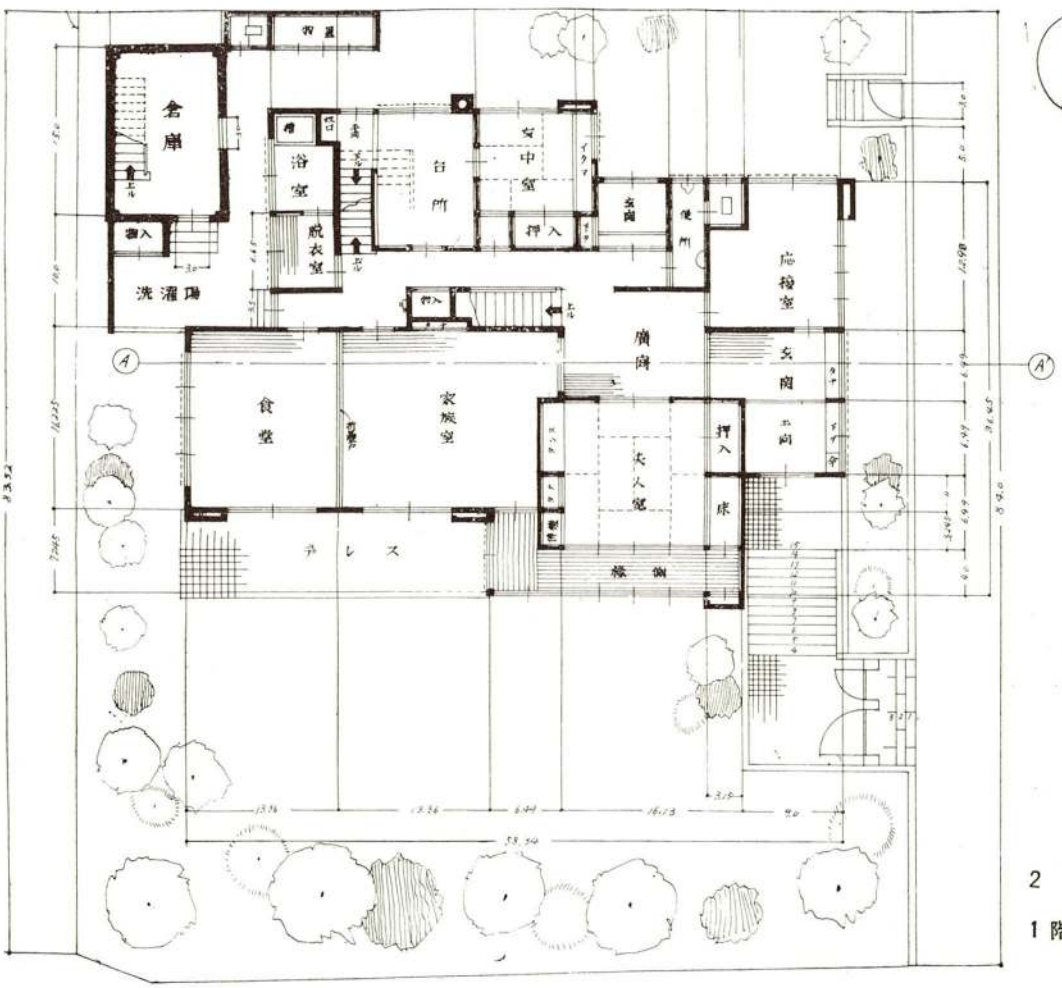
古來芳醇の美酒に知らるゝ伊丹町の南部に新設された阪急經營住宅地の第1回建設住宅の一つ

關西地方に住まれる紳士は落ち着きのあるスパニシュ系統の住宅を好まれる傾向が多い。黄褐色のS瓦と淡クリームの壁面が、芝生を基調とした廣い前庭に新緑のなごやかな空氣を漂はせてゐる事が、佐藤さんのお氣に召した事と作者は考へてゐる

學校出の若い建築家のやりそうな住宅と云はれるかも知れない。而し居住者の要求と條件にあてはまつた平面計畫と、之に描き出されるファーサードこそ平凡なる傑作であると信じる（中川敬一記）



1・西南外観



2

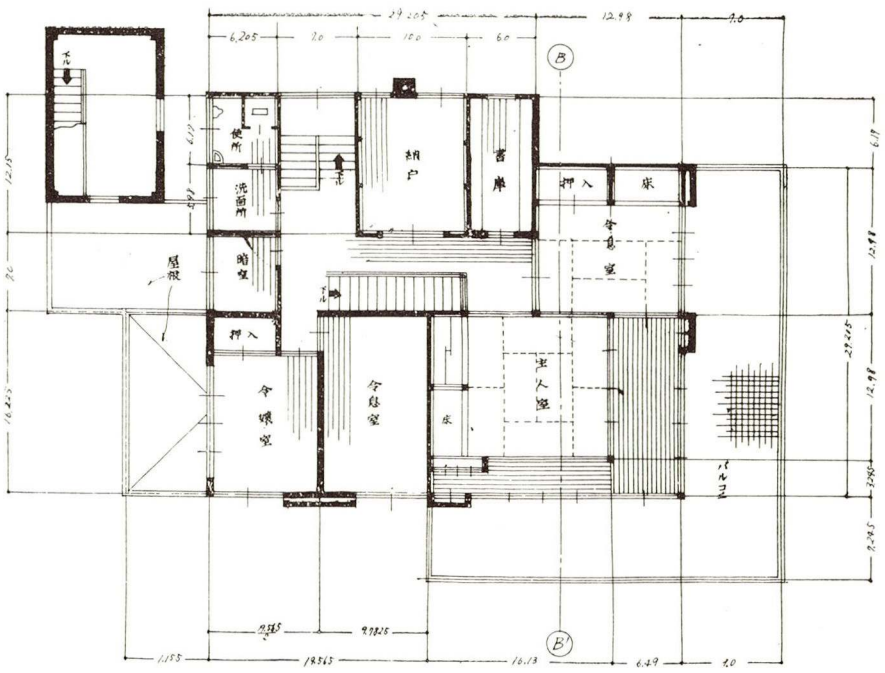
1階平面圖

今村氏邸（阪急・南郷山）

設計　石川純一郎氏
施工　竹中工務店

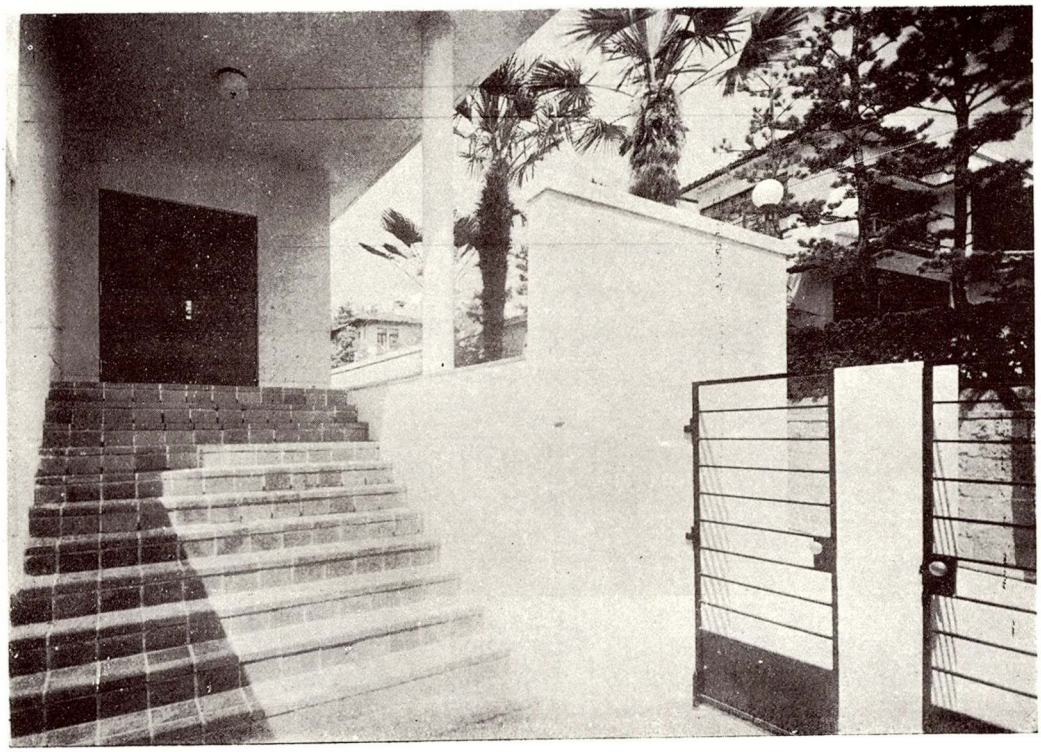


3. 東南外觀

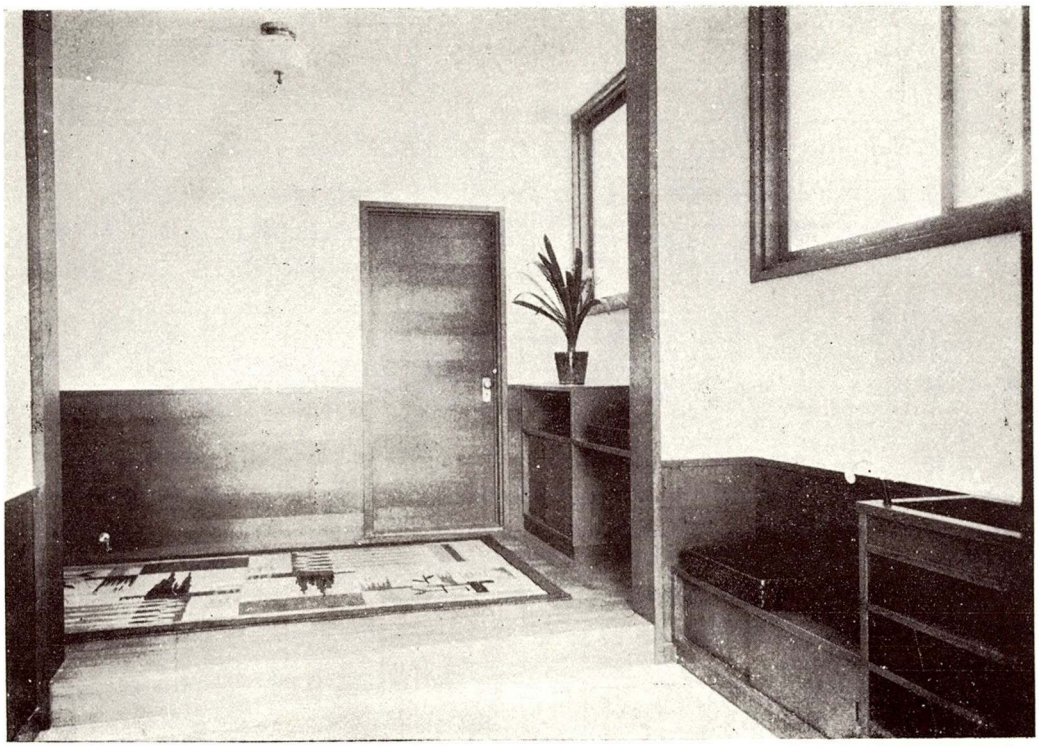


地階　2.218坪
1階　53.494
2階　39.227
倉庫　1階　4.16
　　2階　4.16
延坪　105.259
ポーチ　2.622
物置・便所　1.139
洗濯　3.81

4. 2階平面圖



5· 玄關階段



6· 玄關ホール



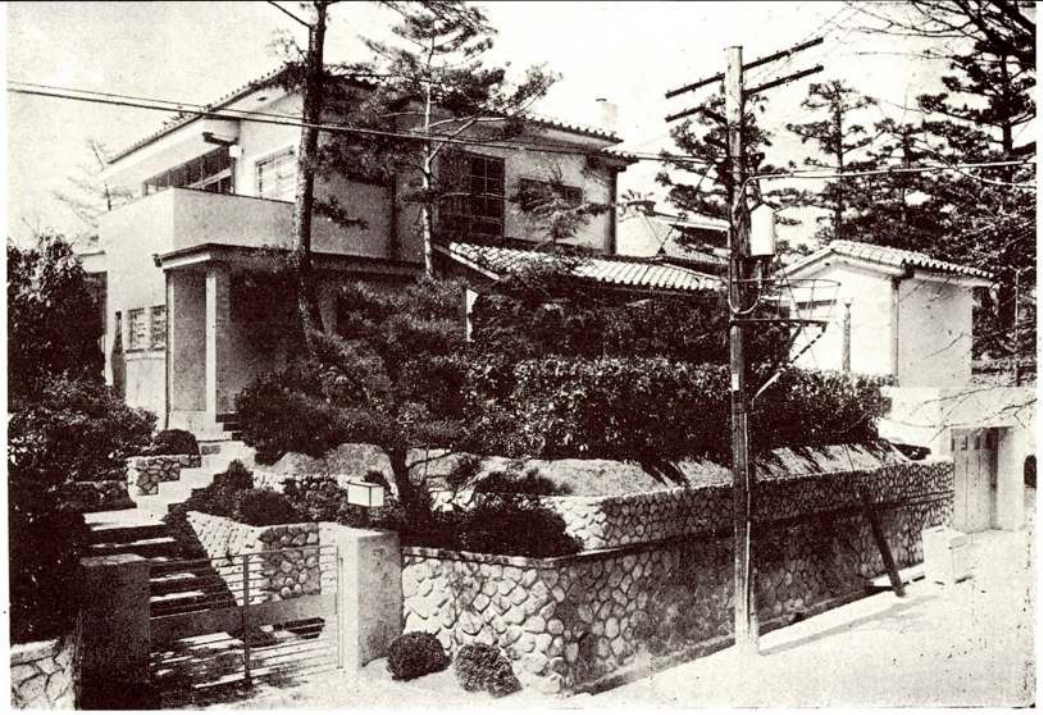
7· 客 室



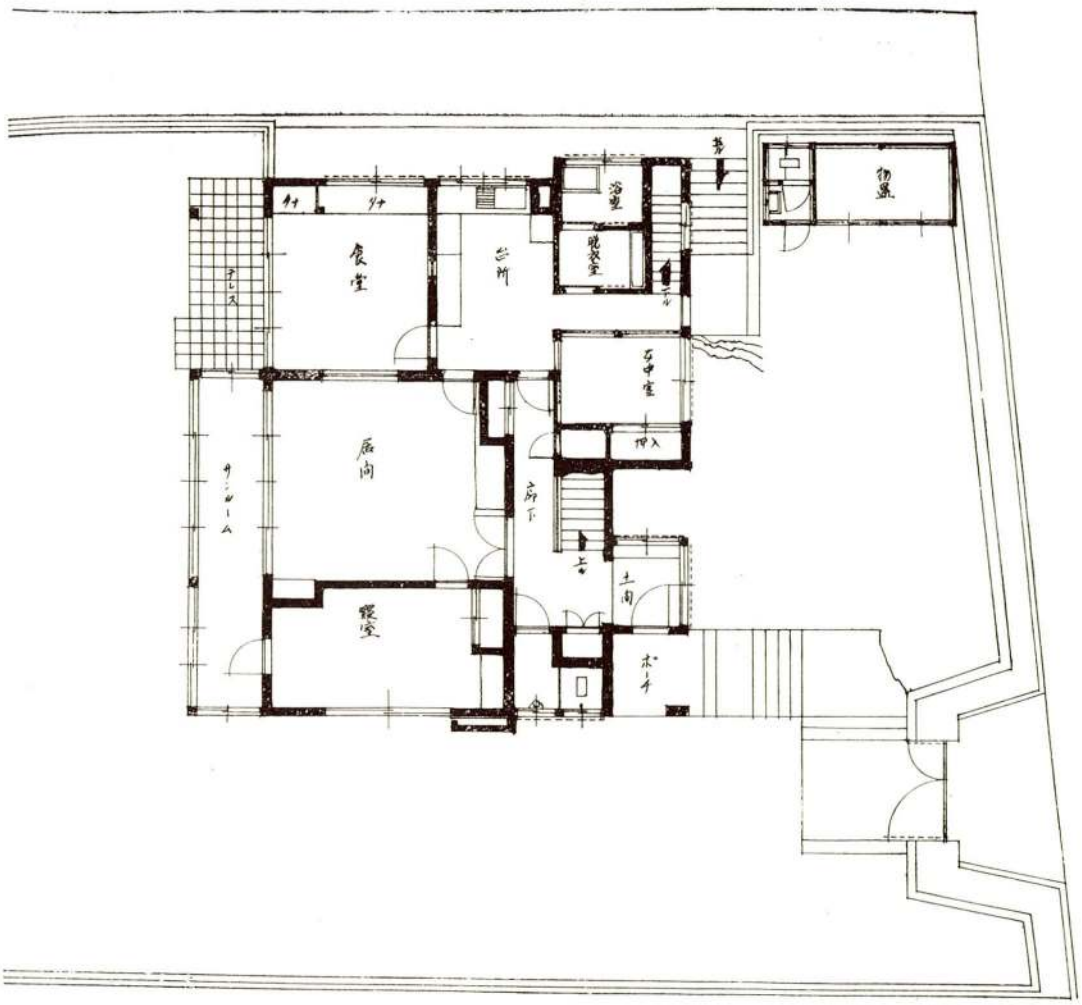
8· 玄關より夫人室·客室·階段を望む

今 村 氏 邸 (阪急·南郷山)

設計 石川純一郎氏事務所
施工 竹中工務店



1. 東北外観



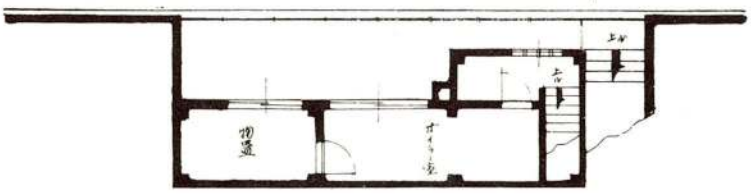
2. 1階平面図

v22　黒正氏邸（阪急・夙川）

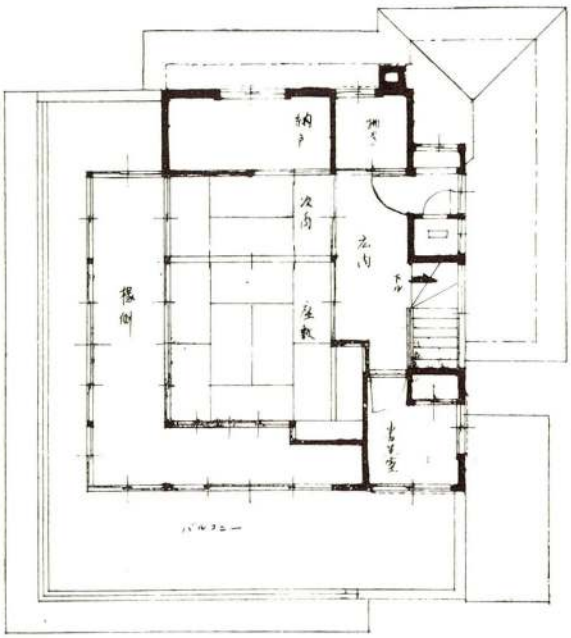
設計　石川純一郎氏
施工　竹中工務店



3· 南 面 外 觀



4 地　階



5 2階平面圖

敷地面積		209.79坪
地　階		6.74
第1階		39.31
第2階		22.96
延　坪		69.01
附屬家		
1階	自動車庫	7.00坪
2階	物　置	4.38
延坪		11.38



5· 客 室



6· 食 堂

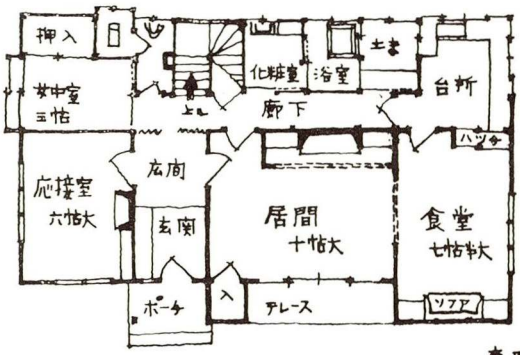
˅24 黒 正 氏 邸 (阪急・夙川)

設計 石川純一郎氏
施工 竹中工務店

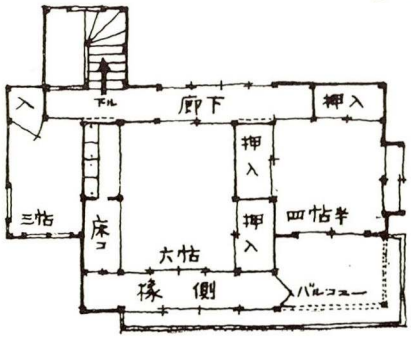


1· 外　觀

2.



壱階平面図



貳階平面図

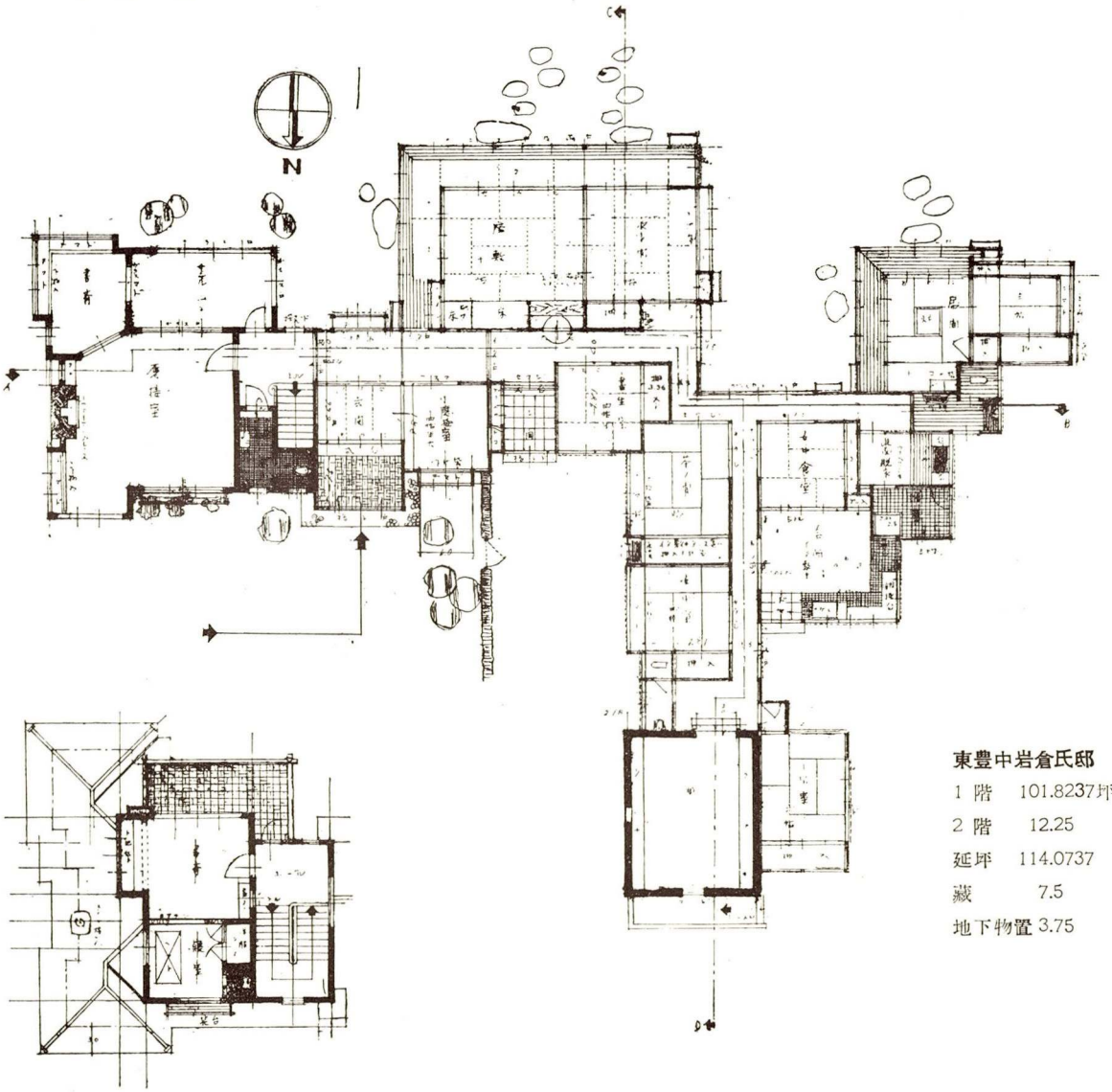
大森氏邸（阪急經營東豊中住宅地）

環境に恵まれた自然境東豊中住宅地の建設住宅の一つ。道路面から20尺程も上つた丘の中腹に建つ山荘住宅の氣分横溢せるスウイス・コテージ風の試作品

屋根は三州産鹽焼の黒味勝のもの、外壁は杉の背板張にオイルステインを塗布せるもの、白い壁面とのこの三つの對稱が渾然としてプロポーションの纏りを一層拍車づけてゐる、2階に大きくとられたバルコンからの遙か大阪灣を距てた紀州連山への展望は、この粗野な質朴な健康的な山荘住宅に於て始めて求め得らるゝ歡びの姿であらう。（中川敬一記）



1. 外　観



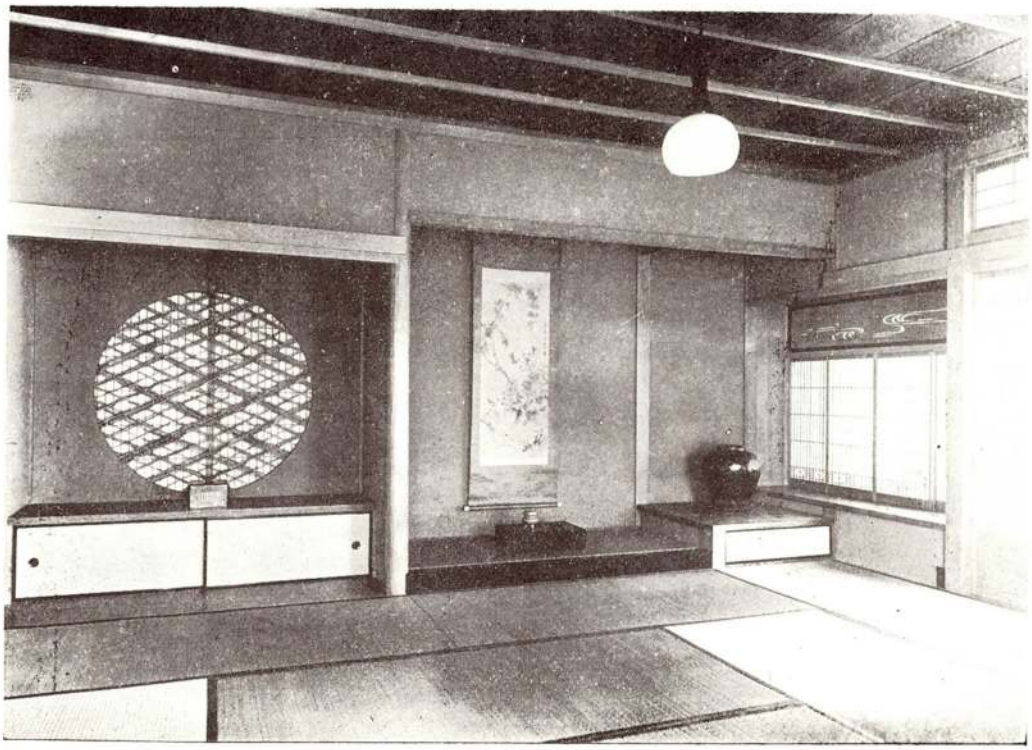
東豊中岩倉氏邸

1 階	101.8237坪
2 階	12.25
延坪	114.0737
藏	7.5
地下物置	3.75

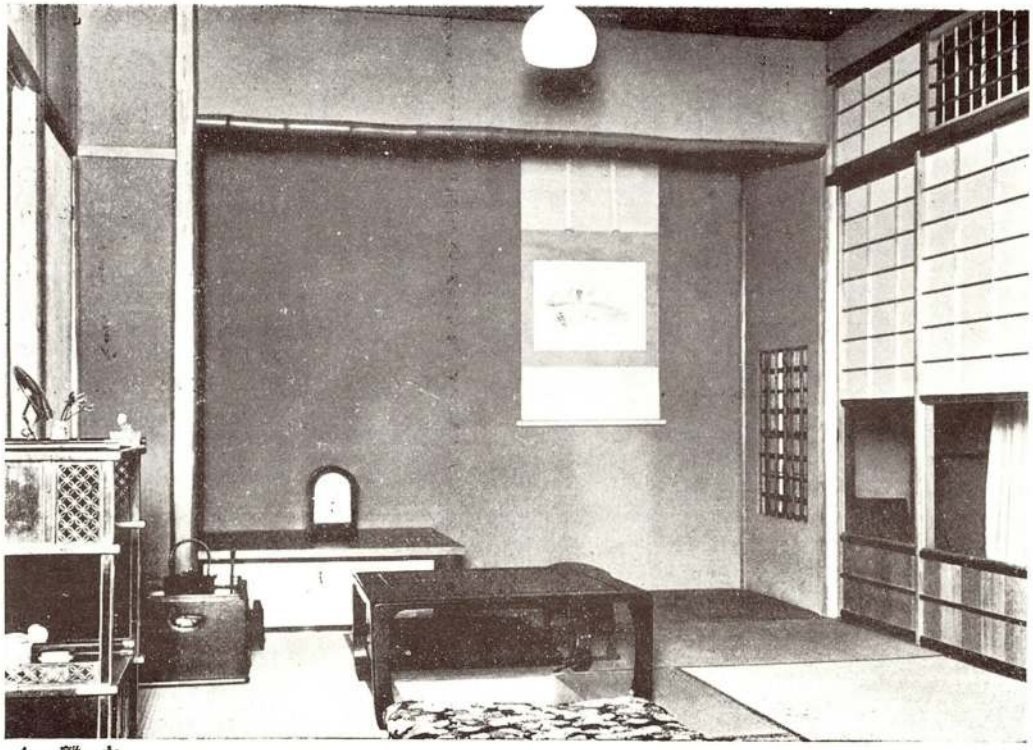
2. 上 1 階 平 面 圖
　下 2 階 平 面 圖

v 26　岩 倉 氏 邸（阪急・東豊中）

設計　小林三造氏
施工　竹中工務店



3· 座 敷



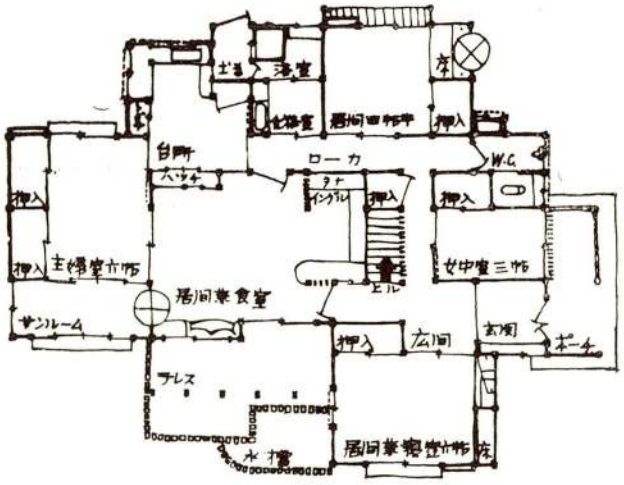
4· 離 れ

岩 倉 氏 邸 （阪急・東豊中）

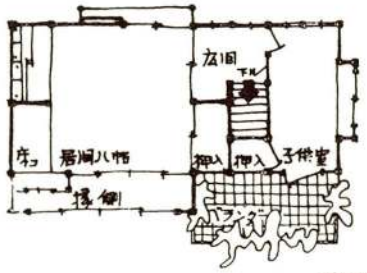
設施 計工 小竹 林中 三工 造務 氏店



1・外　観



壱階平面図



弐階平面図

K氏邸（阪急經營新伊丹住宅地）

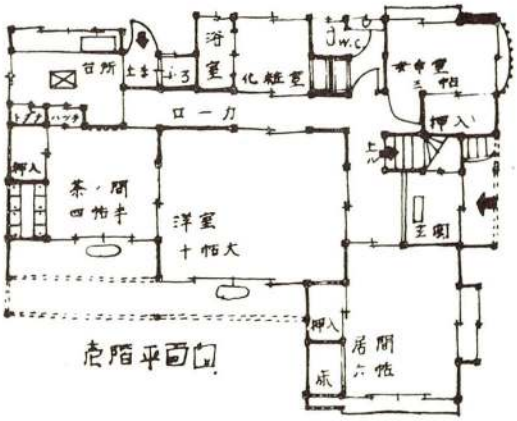
在來の古い日本住宅から脫して新日本住宅の建設への第一歩として試みたのが、この數寄屋風建築を基調として洋風化した小住宅である

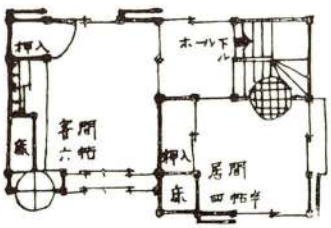
〃有馬山いなの笹原風吹けば〃の古歌にもその情景を偲ばれるこの平野に、銀黒色の瓦と白い壁、淡褐色の羽目板とがあたりの綠樹とよく調和して、小さい乍らも滋味と落ち着きと輕快さを充分現してゐる。10帖大の居間は應接にも食堂にも用ひられその融通性を極度に發揮しうる樣、他は全部坐式とした、この平面計畫は未だ二重生活から脫しきれないものゝ一つであるが、明日の生活戰線への飛躍がタヽミの上に於て充分なる休養を與へ得る事を信じたからである（中川敬一記）

2



1· 外[illegible]観





水島氏邸（阪急經營新伊丹住宅地）

西に六甲連山の翠らんを望み、背後に雲雀ケ丘、花屋敷のなだらかな北攝の丘陵を負つた閑却快適そのものゝ新伊丹住宅地の第1回建築住宅の一つ

濃味と落つきと派手ではない輕快さを失はぬ新日本住宅である。思ひきつて深く出した土庇は10帖大の洋室の明朗さを殺ぐ感じはするが、五月雨の物靜かな銀線が庭の築山にたれる小畫面が大きな硝子面を通して映るとき、誰もが味ひ得ぬ宸味を感じられるであらう事を信ずる。この作者の氣持にぴつたり當てはまつた性格の持主なる水島氏を得た事は一層の喜びである

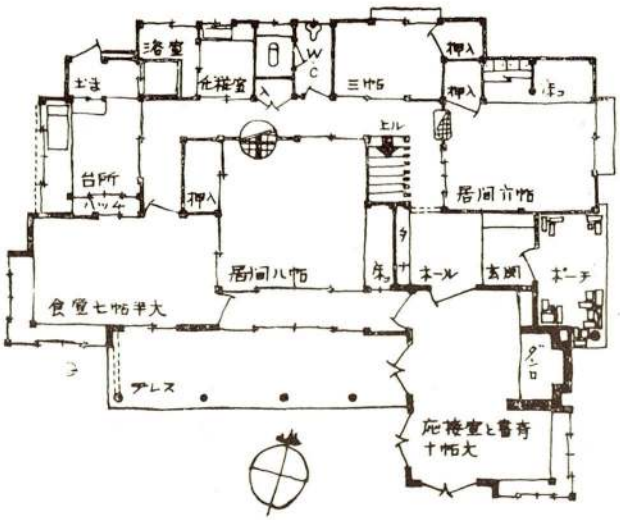
屋根に三州産銀黒色磨瓦、壁面は杉錆皮張

（中川敬一記）

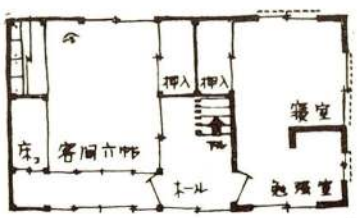
2



1· 外　觀



壹階平面圖



貳階平面圖

2

足立氏邸(阪急經營東豐中住宅地)

なだらかな坂道から仰ぎみるこの山莊住宅はスキー場のヒユツテの感がある、どつしりとして粗野な中にも嫌味のないフアサードを持つ好ましい作品の一つ

平面計畫は坐式本位であるが、6帖大の洋風食堂と10帖大の應接兼用の書齋を設けた事は、この山莊住宅の意味から云つても必然的な事と思ふ。應接室は杉の丸太の化粧天井と、荒い自由タイルで造られた煖爐を中心に山國氣分豐かなデザインで纏められてある。煤煙の大阪から僅か20有餘分にしてかゝる清澄なのんびりとして健康的な土地、そして之に調和せる住宅を求め得らる事を御紹介する事は敢へて筆者の職業意識からのみ出る事でない事を附加しておきたい

(中川敬一記)

我が住む家に就て

小川安一郎

自分が住む家に就て御話をする事は自分の設計と自分の家を紹介申す様な具合でどうも話にくい感じがしてならないが、實際に自分が住む家を自分で設計して住んで見て初めて御話をする方が實際的であらうと思ふのである。

住宅と云ふものは住む人の氣分と考へを充分取り入れて設計施工をせなければならないので、批判的の云ひ分で住宅の設計は斯すべきものであるとか之のスタイルにせなければならないとか、この様な敷地でなければならないと決定的に云ふべきものでない。そこで今回曲りなりにも自分の家が出來たので、自分の住む家に就て自分が家を建てる迄の行程を一言申した方が順序だと思ふ。

私が自分の住ひを建る事に就ては10年も前から考へて居つた。或時は市内の場末が好いだらう、或る時は郊外だと彼處此處だと種々考へたものである。或時は郊外でも此の土地が色々の方面より考へても最も好い場所だと思ひ、準備金迄して買込み設計も終り最早建てる所迄進んだ事もある。

これは又小供の學校の關係上其の方面に最も經濟的な便利で周圍の環境の宜しき土地をと、永い間物色したものである、そうこうする内に小供は學校を出る様な事になり、又自分も勤務先を轉ぜなければならない事になつて氣分も進まない様な時が來て中々物にならなかつたのである。

所が一昨年不思議にも少し驛には離れて居るが自分の氣持に適した土地が見當り讓り受ける事が出來たので、やつと建てる氣になり設計に取り掛り昨年2月から着手し8月に出來上り引越した様な事で其の間のプロセスが並大抵の事ではなかつたのである。

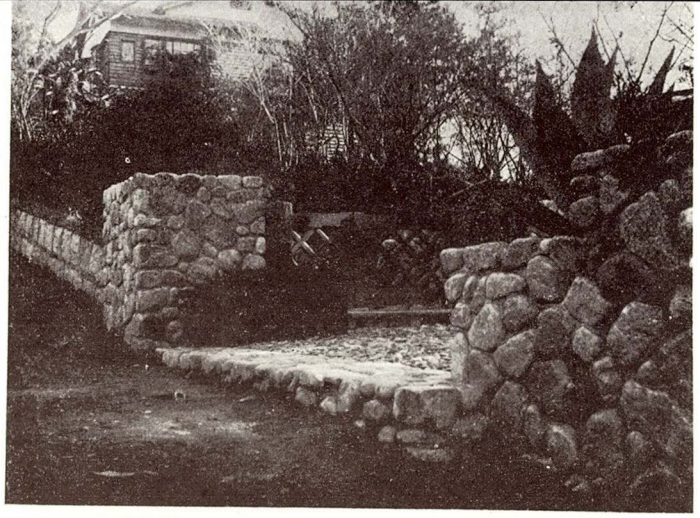
幸ひ只今勤める會社が木材に關する仕事をするので會社の不用材並に雜木より使用出來るものを選び出來る丈安價に仕上げる心算で夫々適當な場所に使用して出來上つたものである。

然し幸ひ敷地が丘の上で西に防風林があり東南が少し斜面になり100坪餘りの池があり自然に衛生的の土地の様に思はれる、將來近所に妨害の物が建てられない様な場所なので幸である。

設計の本旨としては前申した通り材料を選ばず通風と光線に注意し堅牢に明朗に經濟的を「モットー」とした。

然し是れは前申した通り自分のものとしての住家で他人様のでないから、其の邊の所は批判的立場で御判斷に預りて置くより外ないのである。

次に家の平面と寫眞を數葉御目に掛ける事に致します。

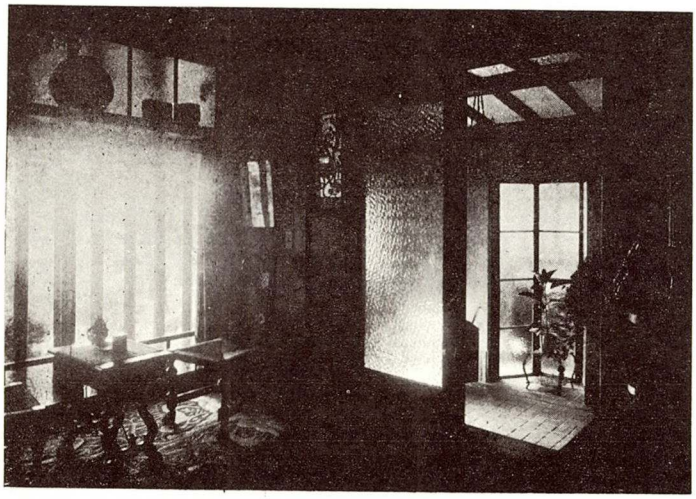


1・ 正門より西側面外觀

門柱はコンクリート主體にモルタルを塗り、自然木仕上、扉は米松材鋸肌、ペンキ拭取り天然色仕上、玄關へはゴロタ石積、踏面豆砂利洗出しの低い段による正面林は梅櫻樹

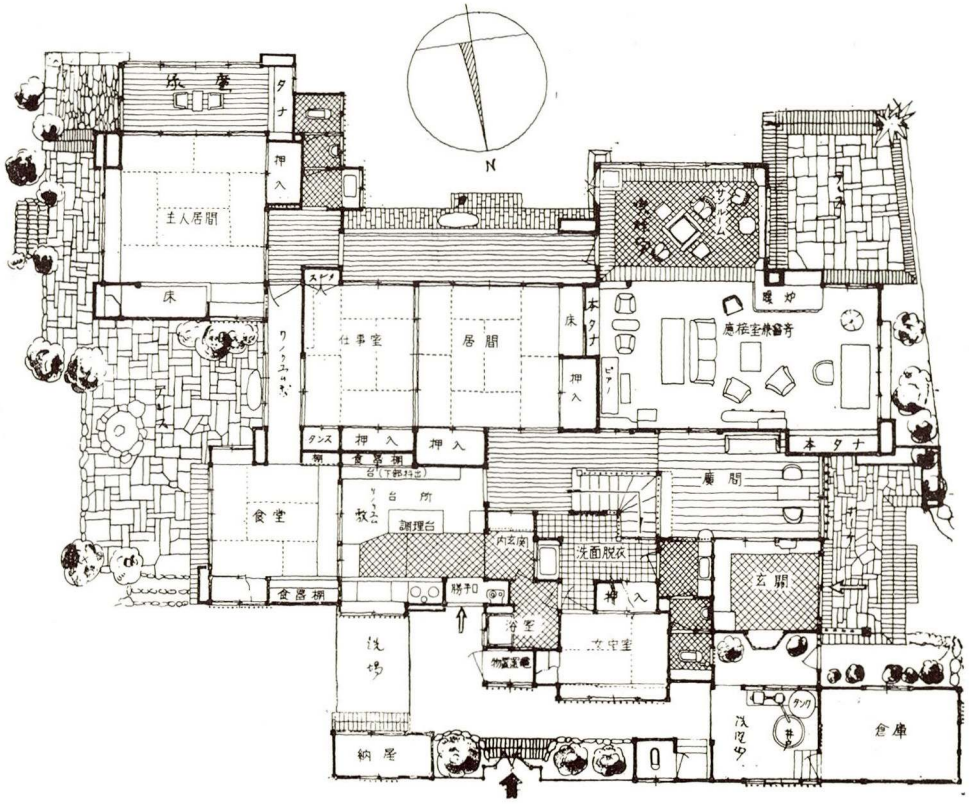
2・ ポーチ側内部廣間より玄關明取り掃出し出窓を望む

廣間床、オークくれ板張、オイルステンラック拭取り仕上廣間壁、プラスター青味勝鼠色ペンキ拭取仕上、天井、米松梁型を表し間プラスタークリーム色ペンキ拭取仕上





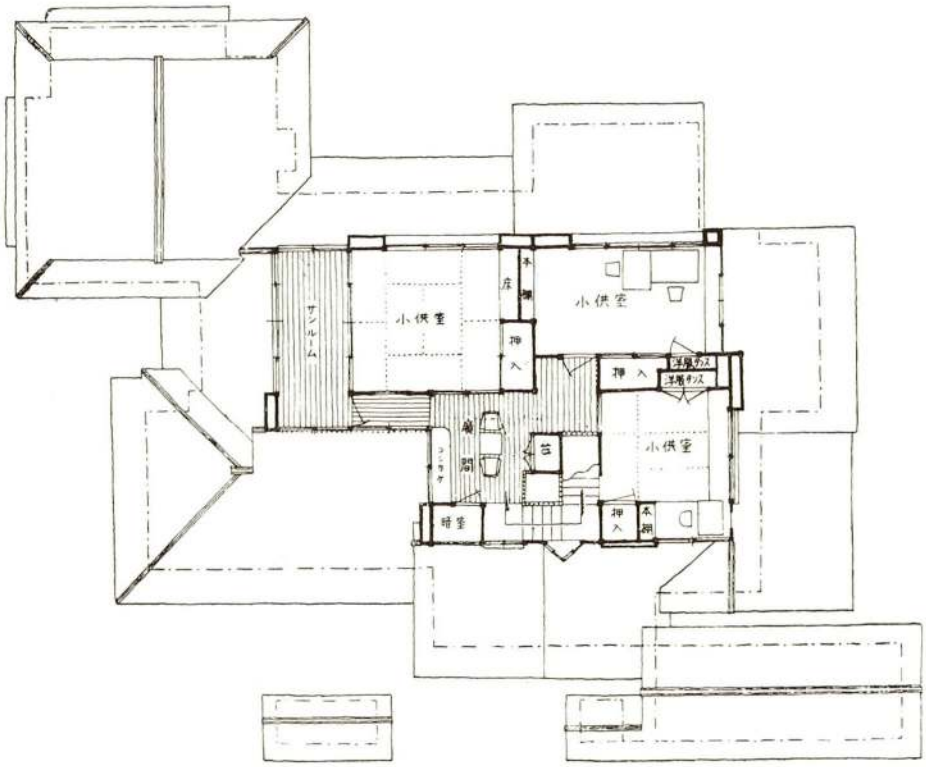
3· **正面(西側)外觀**　屋根は北國赤褐色桟瓦葺
壁は薄クリーム色セメントスタツコ仕上、下見板
は北海松の背板、ペンキ2色拭き取り仕上



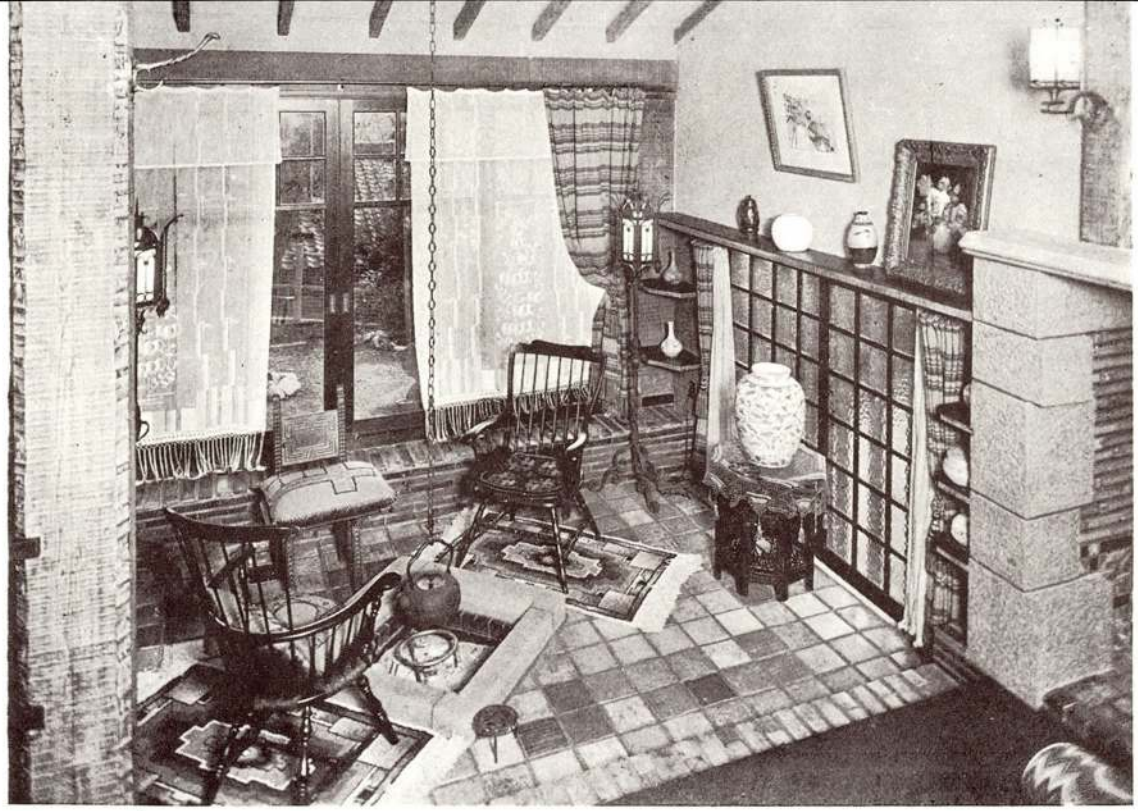
4 1階平面圖



5· 南側面外觀　左がサンルーム、中央は廣椽、右に突出したのが主人居間及びベランダー、椽側の段は蹴込は丹波石張、踏面はタイルのクデ、鐵平石の混合亂張

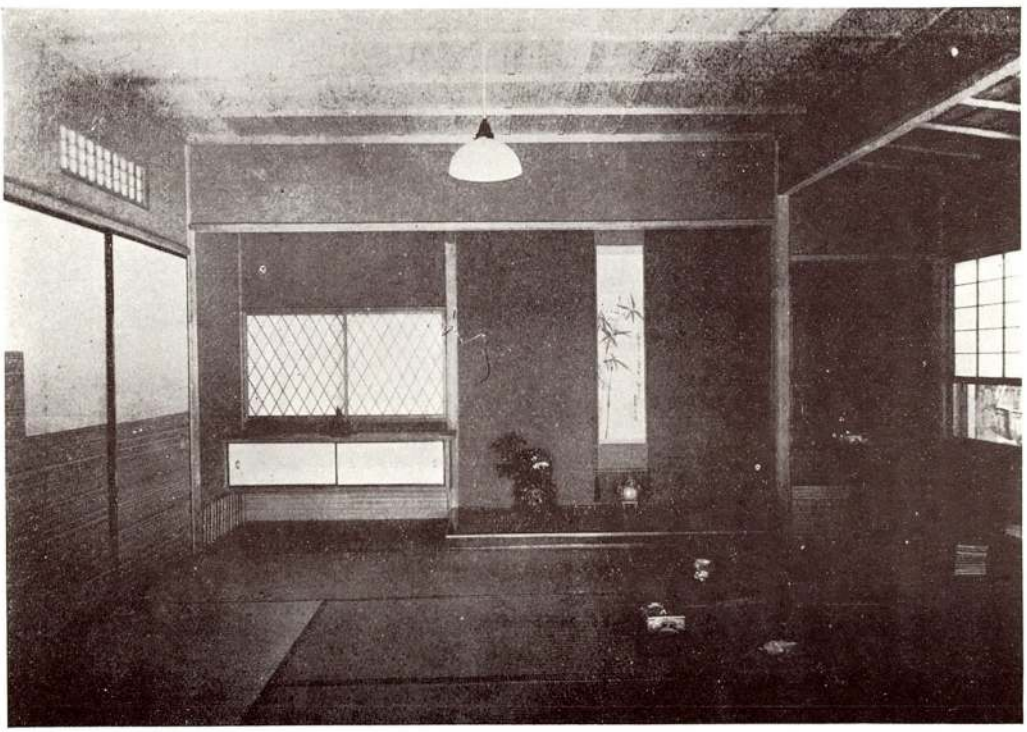


6.2 階平面圖



7· **喫煙場の一隅**　床、不合格タイルの寄せ集め張り、右側窓は掃出し換風通し用、レースは獨逸製、フロアースタンドは伊太利製フローレンスにて買求めしもの、中央爐は夏は水溜となり魚類を泳がせ涼味を取る、家具は内外木材工藝會社製

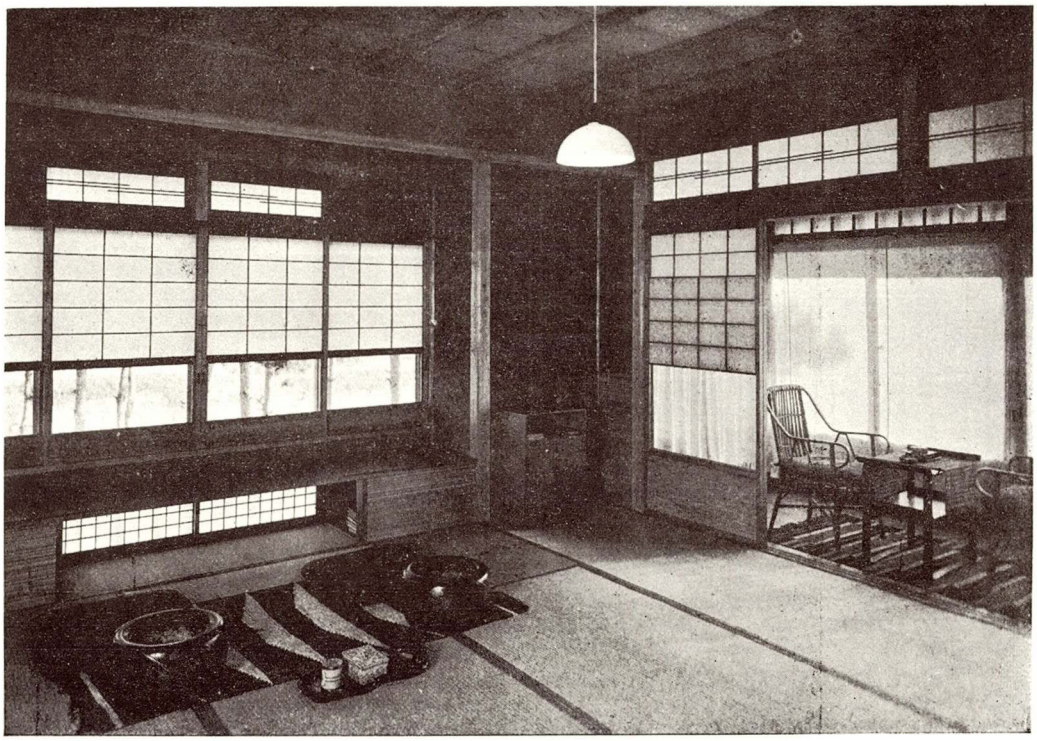
8· **日本室居間床及肘掛窓の一隅**　肘掛天板を机代用に使用し下に掃出し窓を作り通風膝入れに便す、腰は麻布張とす





9· 居間(應接兼書齋)の西側の一隅　家具は内外木材會社製、敷物はトルコ古物、ストーブはユンケル型和製、額はオランダ製(カイロ市畵)マジヨリカタイル、前の壺は龍頭口唐三彩

10· 日本室居間東南の一隅　疊へりは支那製ペンケイ縞布を使用した



都市發展に於ける交通機關の地位

―住宅問題の準備的研究として―

和田　登
荒木正巳
西山卯三

此の小論は土地經營及住宅問題を研究する爲に、我國に於ける交通機關の都市發展に對して持つ意義を明にした準備的研究である。
當初の考へではもつと具體的な問題にふれ、統計等を利用して充分推論の根據を明にしたい考へであつたが紙數の都合上多くを省略せざるを得なかつた事を諒とせられたい。

1. 都市交通機關に於ける我國の特殊性

「大都市」は近代文明社會が生み出した一つの大きな組織體であり、嘗て地球上に存在した事の無かつた人間の生活環境である。夫は、種々の機能を持つた諸々の地域と、夫等を相互に結びつける交通組織とから、成立つてゐる。そして、交通機關は此空間的な擴りの個々の部分を一つの生活體として組織立て、其活動を保證する血管である。大都市の發展を眞實に理解しやうとするならば、此の血管としての交通機關を眺めて見る事が必要である。そして、此處に先づ我々は、同じく近代都市でありながら、我國の大都市と歐米諸外國の大都市との間に大きな差異のある事を發見する。

大都市を單なる行政區劃による地域と考へずに、一體として社會的生活を營む有機的な組織體として、從つて郊外住宅地其他の都市を取卷く補助的な部分をも含めて大都市を考察するならば、都市の交通機關は、現在主として街路軌道(路面電車)·高速度鐵道(都心並びに郊外電鐵)·及自動車(バス並ニタクシー)より成立つてゐる。併乍、之等はどの都市に於ても一樣に同じ意義を都市交通機關として持つて居るのではない。先づ我々は次の表を注意して見よう。

列國の自動車（1932）

國名	總數	乘用車	荷積用車	人口1萬に付
日本	100,221臺	64,282臺	35,939臺	15.1
アメリカ	24,317,020	21,090,726	3,226,294	1,959.9
フランス	1,689,405	1,251,538	437,867	403.8
イギリス×	1,404,618	1,052,125	352,493	305.1
カナダ	1,197,188	1,025,124	172,064	1,153.7

ドイツ	649,695	497,275	152,420	58.2
イタリヤ	317,796	236,553	81,243	76,4

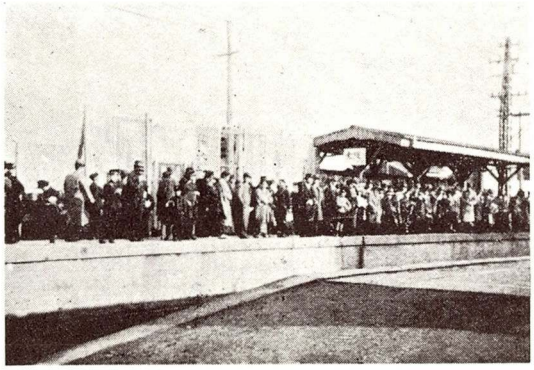
此人口一萬人當り自動車數は國民全體に對する比率であつて、大都市に於ける自動車の率を表はしては居ないけれど、猶之に依て明なる如く、自動車交通は我國に於ては著しく未發達の狀態にある。そして此事より類推される事は、大都市に於ける我々の生活に於ても諸外國に較べて自動車の交通機關としての利用が數段遲れてゐるだらうと云ふ事である

我國に自動車交通が利用され出したのは極く最近の事であり、郊外は勿論都心に於ても自動車交通に充分なる道路さへもが完備されてゐない狀態である。夫は又自動車工業の未發達にも其現れを持つてゐる。此等總ては多くの彼我の差異を形作つてゐるが、自動車旅行の困難・施設の缺陷、道路の持つ社會的意義の著しい差異等、總て自動車交通未發達の一側面である。併乍、此の事實は、單に「遲れてゐる」とか「未發達」であるとか云ふだけでは正しくない。此事實自身が一の我國に於ける都市交通の特殊性をも物語つてゐるのである。

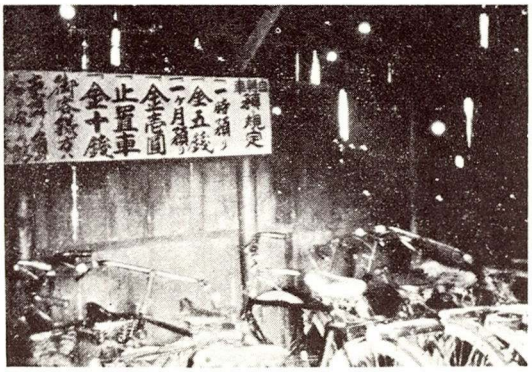
同じく近代的な大都市として活動を維持して行くためには、日本の大都市は全然異つた都市的構造を持つか、或は何等かの代償を此の自動車交通の未發達に對して持つてゐなければならない。しかるに我國の大都市も歐米の夫も何等本質的な差異を持つて居ない。されば此代償は何か？これこそ現在我國に於いて異常に發達してゐる交通企業としての郊外電鐵に求められるべきものなのである。即、我國に於いては、道路の不備・自働車工業の未發達・更に我國の一般的文化水準にも依存して、自動車は都市に於ける主要なる交通機關としてではなしに補助的機關として利用されて居る狀態であつて、都市の交通機能の主要なる負擔者とはなつてゐない。最近次第に自動車交通が發達しつゝあるとは云へ、其大部分は都心に於ける路面電車の補助的手段としてのバス及タクシーとして、或は郊外電鐵の支線としての定區間運輸をなすバス、及び貨物運輸であつて、然も夫等の大部分は營利運輸企業の下に發達してゐる。即、我國では一般に自働車はバス形態以外に於ては高級交通機關であり、一般市民の利用範圍に置かれてゐない。

之等の事から結論される事は、都市に於て最重大な役割を持つてゐる交通機關が少數の電鐵企業及乘合自働車經營者の手に委ねられ、市民の足が少數の營利交通企業によつて獨占されてゐると云ふ事實である。此傾向は都心と都市近郊との交通に於て更に甚だしく夫等交通網の大部分は高速度郊外鐵道及郊外バス經營によつて保たれてゐる。即、交通企業による交通網の獨占が完成されてゐる。

東京に於ける山手線・中央線・其他の電車區間省線、城東・京成・東武・王子・西武・京王・小田急・帝都・東橫・目蒲・池上等の諸電鐵及諸バス經營、大阪に於ける省線電車區間及阪神國道・阪神・阪急・新京阪・京阪・大軌・阪和・大鐵・阪堺・南海の諸電鐵及之等の枝葉をなしてゐるバス及平行的に走つてゐる少數の自働車荷物運輸經營等、は此の役目を擔つてゐるもの



如何に郊外電車が都市的交通手段として用ひられてゐるか



勞働者達の自轉車群を見よ、これか唯一つの我々の所有し得る原始的交通機である

である。

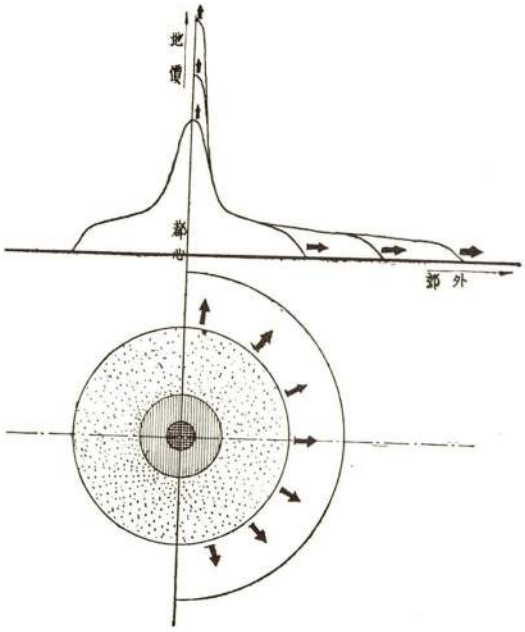
そして、之等都心から放射狀に出て居る交通機關は、一般の鐵道とはちがつて大部分が電化され發車區間が短縮されてゐるから、夫等は現在に於ては完全に都市交通機關としての役目を占有してゐるのである。（單に遊覽觀光を目的とせる諸電鐵會社が經營困難になつてゐると云ふ事實及最近電鐵會社が競つて住宅地經營に進出しつゝあると云ふ事は此裏面を物語つてゐる）

以上の諸點から次の事が明になる。即、我國の都市發展の諸問題を探求しやうとするならば、都市の重大な一の機能を掌握してしまつて居る之等交通諸企業の本質と夫等の都市發展に及ぼす大きな影響を知らずに進む事は出來ない。そして、之は我國に於ける都市發展の一つの特殊性でもあるのである。

2. 土地經營と交通機關の關係

上記の概念と共に我々は更に次のことに注意すべきである。即ち之はこゝに示せる命題の理解である。土地經營とは地價の値上りによつて生する利益を取得するためになされる土地賣買の投機であつて、夫は値上りの生じ得る土地を豫想しなければならぬ。然るに地價は一般に其地代を利子として生ずる資本として評價され且存在する故に、地價は地代に其根底を置いてゐる。本小論に於いては地代に就ての學問的な研究は省略するも、市街地並に一般に大都市近傍に於ける土地價格の高低を規定するものは、一般的に云つて其土地の社會的價値である。其社會的價値が地代に依つて平衡される時に土地の需要も亦平均されるが故に、一定の限界內に於いては、地主は其點まで地代を、從て又地價を、上昇せしめる事が出來るのである。

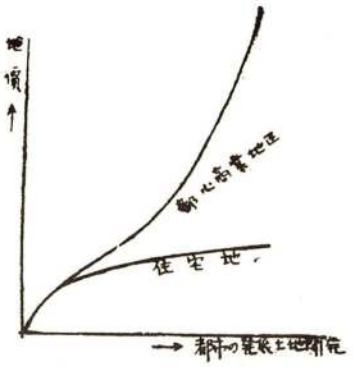
然るに都市に於ける土地の社會的價値は其決定的要素として地層其他の性質的條件以外に、都市的價値即廣い意味での交通に對する位置をその土地は持つてゐる。交通が不便であれば夫だけ土地の價値は低下する。位置が惡くとも夫を打消すやうな交通に對する充分な手段があれば夫だけ土地は價値を持つ」そして、此の交通に對する位置は、土地經營が一般に行はれる住宅地に於ては、土地の都心への近接性によつて示される。然るに一方此



第1圖　都市の集中的發展に於ける地價の上昇

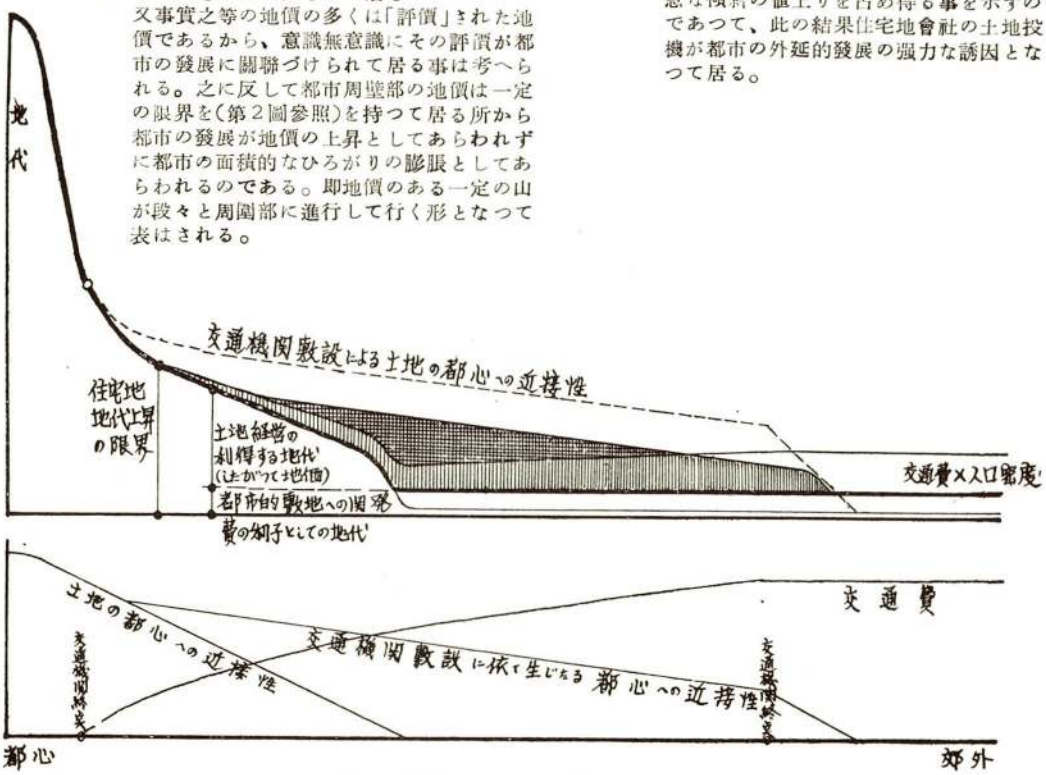
都心部の地價の上昇が大體人口の增加に相應するものである事は大ざつぱに知られて居る

又事實之等の地價の多くは「評價」された地價であるから、意識無意識にその評價が都市の發展に關聯づけられて居る事は考へられる。之に反して都市周壁部の地價は一定の限界を(第2圖參照)を持つて居る所から都市の發展が地價の上昇としてあらわれずに都市の面積的なひろがりの膨脹としてあらわれるのである。即地價のある一定の山が段々と周圍部に進行して行く形となつて表はされる。



第2圖　都市の發展と地價の上昇

圖に於いて性質的に示されて居るやうに都心部の商業地は都市に於いてかへ難い場所であつて前述の如く都市の發展に應じて段々と地價を上昇せしめる。しかるに住宅地に於てはある程度までは上昇するが夫以上の上昇は夫にかわるべき他の住宅地の發展によつてたへず牽制される事によつて行はれ得ない。此の事は一般に土地經營の性質を闡明するもので、住宅地會社が利益を得る部分が始めの間のわづかの急な傾斜をした部分である事、隨つて住宅地經營は次から次へと新らしい經營地を開拓する事によつてのみこの急な傾斜の値上りを占め得る事を示すのであつて、此の結果住宅地會社の土地投機が都市の外延的發展の强力な誘因となつて居る。



第3圖　交通機關の敷設と土地發展の可能性の限界　　下圖は交通機關の敷設によつて生じる土地の都心への近接性の上昇と夫に對する都心より土地への交通費とである。土地の都心への近接性は住宅地地代(したがつて地價)を決定する大きな因子であつて、此の上昇はたちまち地價の上昇を引きおこす。だが之に相殺する因子として交通費が入つて來る。上圖は兩者を考慮に入れた時の土地發展の限界を示したもので格子目の部分が住宅地として發展し得る餘裕(從つて地代上昇の可能部分)をあらわして居る。地代によつてせずに地價によつてなす住宅地の土地投機はかゝる部分に於いてなされねばならぬ。

土地の價値の高低は又、都市及其近傍に於ては、其土地の都市發展に對する干與の可能性の高低を示して居る。或は反對に、都市の發展に關與する事が可能なる時にのみ、始めて地價の上昇は實質的な上昇を地主に齎すのである。だから、都市の發展と、土地の都市的價値の上昇（即都心への近接性の增加）は其間に入込むで來る土地投機と共に密接なる關聯に置かれてゐる。然るに、都心より放射狀に敷設された交通機關は疑も無く土地の都心への近接性を增加させる。（第1圖—第3圖）此處から次の事が導かれる。

土地投機は交通企業と密接な關聯があり、兩者が合致した時夫は益々確實な投機となる事——或限界內に於ては、其利得を土地投機によつて得るか、交通費によつて得るか、或は兩者によつて得るか、何れにもせよ確實な投機となる事——が出來ると云ふ事である。少く共、交通企業はその開設によつて生ずる地價の上昇の齎す利益の分前を何等かの形であづかる權利を持つて居る。否、其見透しが無ければ交通企業と云ふものは成立し得ない場合すらある。然るに、交通企業とは道路・鐵道・軌道・バス其他を手段とする營利企業を指すのであるが、之等の內で道路は我國に於ては現在政府及地方自治體によつて開設され不完全ながら受益者負擔制によつて其代償を得て居る。然も、既に述べた如き我國交通の特殊性によつて（即、自動車交通の未發達によつて）夫程の重要性を企業としては持ち得ない。だが自動車交通の發達した外國に於ては、道路の開設がより大きな意義を持つて居る事が充分推察される。此點、コルビユジエが「巴里ヴオアザン計畫」に述べて居る自動車道路建設の空想話は興味がある。

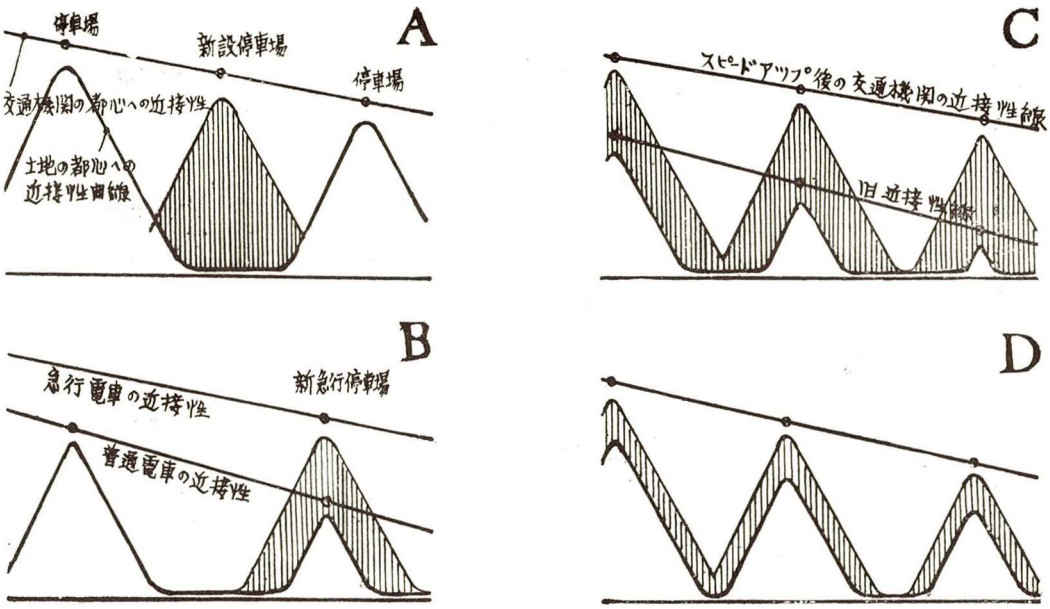
然らば、斯る土地投機と道路開設との結合に對して、我國に於ては叙上の特殊性が如何に現れて來るかと言へば、即、道路建設會社ではなくして電鐵會社が此處に登場する。だが土地經營と電鐵會社との關係は道路會社の如く單純ではない。其最も特異な點を擧るならば、電鐵會社によつて經營される土地の利用は其交通機關の利用によつて初めて意義づけられる所から、之等の交通企業に於ては單に土地の値上りによつて利益を得るばかりか沿線に住民を植る事によつて不斷の交通機關の利用者を增加させる事によつて、そして或場合には又電燈電力、更に商品等の之等沿線住民に對する供給より生ずる收益によつて、より確實に利益を擧る事が出來る事である。かくして交通企業は、單なる土地投機よりも遙に直接的且永久的な方法に依て利益を併せ得ながら、都市の發展に對してより强力な影響力と支配力とを持つてゐる事が明にされる。

斯くして土地經營が電鐵會社にとつて交通費によつてでも或は地價に依てでも、何れにもせよ重要なる收益方法である事、そして之等の企業の何れに重點を置くかによつて左右される都市發展の偶然的性質——之等總ては都市の發展が土地投機を通じても、如何に交通企業と密接な關係にあるかを明にしてゐる。

3. 都市の發展と交通企業

然乍ら、郊外電鐵が當初土地開發の手段としてではなくて都市と他の樞要地・物產中心地・名所舊蹟・遊覽地等の連絡機關として成立した事——都市の發展の要求が住民の都心外への逃避を必要としなかつた時、既に郊外電鐵が完成されて居た場合が我國に於ては支配的であつた　例へば大阪市に於ては阪和電鐵を除く外總ては大阪市が都心よりの住居の都市郊外への移動を起しはじめた大正10年頃よりもずつと以前に、即明治末期から大正初期にかけて開通して居る。東京に於ては之に反して土地投機と電鐵敷設が平行してゐる場合（例へば池上・目蒲等の諸電鐵）が相當あるけれど猶之を以て土地投機と電鐵企業との結合が我國の支配的形態であると云ふ事は出來ない。却つて、一般に我國に於ては、殊に大阪市に於ては、我國の歷史的發展の諸條件に制約されて、郊外電鐵の敷設が都市の郊外への發展の條件よりも時間的に先行したと考へられる。大阪市に於ては、日露戰爭後國土の資本主義的整備は先づ主要なる都市と都市との連絡及都市內部の交通機關の開設を必要とした時、郊外電鐵は此條件の下に生れたのであり、斯くして都市の發展段階と電鐵資本のより急速なる發展とが作り出した開きをば、一の日本の都市發展の特殊性として植えつけた。其結果郊外電鐵は土地投機と平行して行はれる可能性を持つて居なかつた。ために電鐵はその敷設によつて生ずる都心への近接性の向上を利用する事が殆んど出來なかつたと同時に、之を地價の上昇によつてせずに交通費によつて收奪する方法を取らざるを得なかつた。此事は大正初期の電鐵沿線の地價を見ても明である　そして夫は後に至るまで恣意的土地投機を抑制する一つの抵抗ともなつて居た。然るに大都市發展に對する住民の郊外地への逃避の客觀的條件の形成は多くの土地經營・土地會社・區劃整理を進行せしめたと同時に電鐵會社の住宅經營を可能且必要とした。

大正 7—8 年の好景氣以來此傾向は次第に顯著となつて來た。都市人口の集中・文化經濟上の發展による社會的水準の上昇・資本の集中化と上層使用人の激增・都市中心地區の商業街としての改造と夫による住居民の追ひ出し・及都心交通機關の充實は、都心の稠密人口の衛生保安的條件の低下に伴つて、人口の大部分の都心よりの逃避を、そして一部分の郊外地への逃避を、可能且必然とした。しかもこの時之を拍車づけ條件づけるものが郊外電鐵の存在であつたのである。そしてまさに郊外電鐵の事業の發展も亦之と對應してゐる。電鐵のスピード・アツプ、發車間隔の短縮は次第に現實的な問題となり、又、沿線開發の重心は溫泉地・遊園地の施設から住宅地の開設へ、そして單なる電燈電力の供給から沿線住民の生活必需品其他あらゆる商品の供給（百貨店經營）へと、電鐵會社其物の事業も膨脹して行つた。夫は交通企業の都市近郊の完全な自己の勢力下への分割制覇の過程を示してゐる。斯くして都市の發展に大きな關係を持つてゐる住宅地經營が所々に勃興すると同時に土地經營は電鐵會社の一の重要な仕事となりつつあつた　そして、事實電鐵會社は自己の交通機關を持つて居ると云ふ事のために單なる土地會社よりも數等よい條件を自ら作り出す能力を持つて居た。



第4圖 電鐵會社の建設後の地價上昇　　いづれも都心への近接性の上昇を問題としたものである。

A： 新設停車場によつて生ずる近接性の上昇(ハツチの部分)を土地經營に利用する場合であつて我國に於ける土地投機と交通企業との一つの接觸點である「新伊丹」は此の例である。

B： 急行停車場の新設によつてたかめられた近接性の利用。「香里」の經營はこの典型である。

C 及 **D**： 全線スピードアップ及發車間隔短縮であつて此の場合は沿線全般にわたる近接性の增大であつて沿線開發のテムポの上昇のために用ひられる。地價上昇の策としては用ひられにくい。

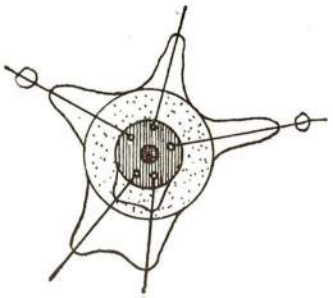
斯くして電鐵は土地經營に進出し著々其効果をあげ出した。最近のインフレーションによる資金換物熱に刺戟されて一部の層に生じた住宅の需要に應へる如く表れた電鐵會社及其傍系土地經營が夫である。聞く所に據れば最近少數の住宅付敷地（住宅地開發を早めるための）と共に賣り出された阪急の新伊丹住宅地は旬日を出ずして殆んど全部を賣りつくしてしまつたと云ふ狀態である。

併乍ら、あらゆる方法の巧妙にもかゝわらずかゝる企業には總て限界がある。經濟狀態が發展を可能として居る間は夫は成功するであらう。此點、此 2—3 年は有利な狀態にあると云ふ事が出來るだらう。だが併し夫が永久的なものと云へないのは當然である。

更に今一つ住宅地經營に就て重要な事は、住宅地の地價の上昇には限界がある事、從て經營をつゞけて行く爲には絶えざる新しい開拓を必要とする事である。事實、土地會社の多くは賣出した土地の 3 分之 1 程を必ず賣殘りとして豫期せねばならぬ。此賣殘りの土地は持つて居ても夫以上の値上りを生じない。經營を續けて行く爲には之を抵當に資金を得て更に別の土地を更に大規模に經營せねばならぬ。斯くして資本主義的土地經營は商品生產と同じく無制限に自己を擴張再生產すべく强制される。夫は絶えず生存して行く爲に土地を開發せねばならぬ。ところが都市人口の土地に對する要求は好景氣の時でも此次から次へと賣出される土地の供給量に追ひつく事の出來ないのは自明の事である。此事實が土地經營に於ける供給過多を、不況をそして破產を惹起する事は當然である。そして之は又餘りにも屢々行はれる事實である。土地經營は斯くして次から次へと經營者を更へつゝ都

市發展の先驅をなしてゐる　斯る狀態が土地會社の電鐵會社による援助を可能にし、交通企業の土地經營進出を誘致する條件を此處に於ても作り出して居る。

斯くして土地經營と交通企業とは都市の、全體としては無計畫的な、外延的發展の基礎を形作る。夫は事實强力な形で我國都市の面貌を急速に變じつゝあるのである



第5圖

4. 都市發展の基本的推進力

以上によつて我々は都市の發展と土地投機・交通企業との關係を明にした。然らば現實に於て都市は如何に發展しつゝあるか。例を大阪市にとつて簡單な考察を加へて見るならば現在大都市は高速度電鐵の存在の條件の下に半ば衛星都市的に半ば集中型に發展しつつあると云ひ得る。都市が次第々々にその周圍部を同化して面積的擴りを漸次延長して行く集中的發展は都市の周圍部に於て見られる所であり、大阪市に於ては工業地の西北・東北・東・西南への發展として、住宅地の北及南への發展として特徴づけられる。そして此處に於ても郊外電鐵の存在を無視する事は出來ぬ。例へば區劃整理にしても郊外電鐵の沿線にては行はれやすい事を考へれば明であつて事實上都市の交通線に沿つたヒトデ型發展となつて表れてゐる。(第5圖)だが都市の衛星的發展に於ては完全に電鐵會社の影響下にある之等の住居地の住民は都市の上層階級及夫に對する施設人員のみにすぎないのであつて、大都市の大多數を占める工業勞働者迄は猶强く彼等の仕事場に結付けられ、郊外地居住の餘裕を持つて居ない。勿論電鐵會社の利益しやうとする範圍に於ては之で充分である。そして此處に電鐵會社に掌握されてゐる都市の衛星的發展の限界がある。之は、中心都市を單なる働き場所として形成し、夫から充分な距離をおいて郊外地に住居都市を衛星的に配置しやうとする衛星都市並、地方計畫的、小都市分散的衛星都市とは遙に遠いものである事云ふまでもない。

我々は以上に於て都市の發展に如何に土地投機と交通企業とが運命的な支配力を持つて居るかを明にした。夫は殆ど都市計畫のあらゆる遂行を、千百の委員會の立案を無視して、都市の姿を現實的に更えつゝある。中にも交通企業は少數の獨占された企業によつて都市郊外を各々自己の扇形部分に分割し、(註※)全く其部分の開發如何を自己の勢力下に驅使し都市の外延的發展に强力な影響力と支配力とを持つてゐる。

註　最近の調査(府都計課)では大阪に於ける主要經營(100名以上の勤勞者を有するもの)の勤勞者の約½が郊外居住者であつて夫等の分布が阪急35%阪神12%省線西成線11%大軌11%南海10%大鐵3%新京阪2%阪和1%片町線0.9%關西線0.8%となつてゐる事を報じてゐる

都市計畫・衛星的住宅地建設の問題は既に如何に計畫すべきかの問題ではなくて、夫を如何に實現すべきかの問題に我々は當面してゐる。夫はブルノ・タウト氏(改造4月號)が指示するやうに『計畫委員會を「よき」都市計畫家で整備する』事ではなくして、夫を推進せしめる本質的な力を捉へる事がより急務である。本小論が建築家並に社會人の此方面の關心を喚起し、交通企業の我國都市發展に對して如何に關與する事大であるかを示すに役立つたならば、筆者達の志は充分達せられたのである。

上代住宅建築雜考

—萬葉集を讀みて—

葛野壯一郎

萬葉集二十卷、四千五百首の長短歌のなかゝら建築殊に皇宮だの住居を主材としたものを拾ひ出して鑑賞してみる。やかましく研究などと言ふ程のもので無い事は勿論である。

卷の壹、額田王（ヌカタノオホキミ）の歌。

秋の野の美草（ミクサ）刈り葺き宿れりし　兎道（ウヂ）の都の假廬（カリホ）し思ほゆ。

額田王は女王であつて天智天皇の寵を受けられた女性である。此歌は多分天皇に隨伴して旅行せられた時の樂しかりし思出を歌はれたものであらう。美草刈り葺きとあるから草葺の一時的な簡單なものであらう。天皇の行幸にも斯うした假屋が用ゐられたものと見える。

誰れでも知つて居る小倉百人一首の天智天皇の歌

秋の田の假廬のいほのとまをあらみ、吾が衣手は露にぬれつゝ。

にみても、夜露が洩るような簡單な構造であつた事が思はれる。

假廬に關して同じく卷の壹、中皇命（ナカチヒメミコノミコト）紀伊の溫泉に往きませる時の御歌。

己が兄子（セコ）は假廬作らす草なくば、小松が下の草を刈らさね。

紀伊の溫泉は今の湯崎の溫泉であらう。旅行中の宿に假屋が作られたのである。夫君同道で夫君が假屋建設につとめて居られるのを見てよまれた女性のやさしさが表はれて居る當時の旅行の不便さが思はれる。

同じく卷の壹、柿本人麿が近江の荒都を過ぐ時詠める長歌。

……（上略）、天皇（スメロギ）の神の尊の、大宮はこゝと聞けども、大殿はこゝといへども、霞立つ春日か霧（キ）れる、夏草が繁く成りぬる、もゝしきの大宮どころ、見れば悲しも。

人麿に就てはよく分らないが大體持統天皇時代の人といはれて居る。近江の荒都といふのは天智天皇の滋賀宮であり、天智天皇の崩御から持統天皇の即位即ち朱鳥元年までやつ

と十五年、近江から再び大和飛鳥に移られて大した歳月をも經て居らないので有るが、滋賀の都は既に荒れて跡形もなくなつて居たものと見える。其廢墟に立つて歌聖人麿が感慨無量の様子も忍ばれてあはれである。

同じの卷の壹、藤原宮營（ミヤツクリ）に役（タ）てる民の詠める歌。藤原宮は持統文武兩朝の皇居で相當規模の大きなものであつたらしく、今現に古代文化研究所の手で發掘事業が行はれ、其宮趾からの新發見が新聞種をつくつて居る。

やすみしし吾が大君、高光る日の皇子、あらたへの藤原が上に、食國（オスクニ）を見し給はむと、いは走る近江の國の、衣手の田上山の、眞木さく檜の嬬手（ツマデ）をもののふの八十宇治川に、玉藻なす浮べ流せれ、其を取ると騒ぐ御民も、家忘れ身もたな知らに、鴨じもの水に浮きゐて、吾が造る日の御門（ミカド）に、知らぬ國より巨勢路より、我が國は常世にならむ、文負へる神龜（アヤシキカメ）も、新代（アラタヨ）と泉の川に、持越せる眞木のつまでを、もゝたらす筏に作り、のぼすらむいそはく見れば、神ながらならし。

口譯すると

吾が天皇陛下は、藤原の地に天下を統治し給ひ、宮殿をお建てにならうと、神様のお心通りにお考へになると同時に、天地も亦お助け申上て、近江の國の田上山の立派な檜の用材を、宇治川に浮べ流します。其れを陸上げすると騒ぐ人民は、家を忘れ身も悉く知らずに水に浮いて居て、（我等の造る立派な宮殿には、知らぬ國も寄つて來いと思ふが、その巨勢路から我が國は常世になるであらう、甲に圖を負ふた不思議な龜も、新らしい世と祝つて出て來る）、その泉の川に運び越した良い木の用材を、筏に作つて上流へと泝せるのであらう。勤勞して居るのを見ると、これは神様のお心であるらしい。

此歌によると藤原宮の用材を近江の栗太郡田上山から水路によつて宇治川まで下し、一たん陸上げして再び泉の川即ち今の木津川を筏に組んでさかのぼり運搬したものと觀られる。御用に諸國から徴せられた役民が、家をも身をも打忘れて一生懸命に、皇居造營に奉仕した様子が如實に歌はれて居る。此歌は題詞によると役民が詠んだ歌とあるが、其調子の立派に整つて居るところから、やつぱり人麿あたりが役民にかはつて詠んだのであらうと想像せられて居る。

同じく卷の壹で上の役民の歌の次に、藤原宮の御井の歌といふのがある。

やすみしし吾が大君、高照らす日の皇子、あらたへの藤井が原に、大御門始め給ひて、埴安の堤の上に、在り立たし見し給へば、倭の青香具山は、日の經（タテ）の大御門に、春山と繁（シミ）さび立てり。畝火のこの瑞山は、日の緯（ヨコ）の大御門に、

瑞山と山さび坐す、耳高の青菅山は、背面（ソトモ）の大御門に、宜しなべ神さび立てり。名ぐはし吉野の山は、影面（カゲトモ）の大御門ゆ、雲居にぞ遠くありける。

高知るや日の御影の、水こそは常にあらめ、御井の清水。

御井とあるのは即ち宮城の用水で、堀井戸の様なものでは無く、埴安の池の一部を仕切つて用水とせられたものかと言はれて居る。

歌の意を口譯すると

吾が天皇陛下は、藤井が原に大宮をお始めになつて、埴安の池の堤の上に、お立ちになつて御覽になると、天の香具山は東方の御門に當り、春の山と木立が繁く森々として立つて居る。畝火の瑞々しい山は、西方の御門に瑞山と、山の威德を備へて立つて居る。耳高の山菅の青い山は、北方の御門に宜しくも神々しく立つて居る。名のよい吉野の山は、南方の御門から、天の一方に遠くそびえて居る。此立派な宮殿の水こそは永久にあるであらう、此御井の清水は。

日の經（タテ）は東方、日の緯（ヨコ）は西方、背面（ソトモ）は北方、影面（カゲトモ）は南方で東の天の香具山、西に畝傍山、北に耳梨山をひかへ、南方遙かに吉野山を望む藤原京の地形の立派な點を歌つて居る。此歌も作者は分らないが、多分相當な人の手腕になつたものと考へられる。

卷の貳は相聞歌即ち戀愛贈答の歌であるが、三方沙彌（ミカタノサミ）が其愛人園臣生羽（ソノノオミイクハ）の女に贈つた歌。

橘の蔭ふむ道の八ちまたに、物をぞ思ふ妹（イモ）に逢ずで。

是れは平城京時代の歌で、八ちまたと言ふのは奈良の都の四通八達の街路の樣子である。都の賑はしい街路に逢はざる愛人の上を思ひながらさまよつて居ると詠んだので、當時街路樹として橘が植つて居たらしい。

街路樹に關しては卷の三門部王の歌に

東の市のうゑ木の木垂るまで、逢はず久しみうべ戀ひにけり。

とあつて此歌では樹種を何とも言つて居らない。兎に角街路には並木があつたものであらふ。當時奈良の都には東西に市があつたので有る。

同じく卷の二、日並（ヒナミシ）皇子即ち天武天皇の皇子の薨去に當つて、其宮殿に奉仕せる舍人（トネリ）等の悲しみ詠んだ歌には、同皇子の居住せられた島の宮の面影が忍ばれるものが有る。

二十三首の內から

島の宮勾（マガリ）の池の放ち鳥、荒びな行きそ君まさずとも。

勾の池とはどんな池か、多分勾玉の樣な形をして居た池ででもあらう。兎に角お庭先に

は大きな泉水があり、そこに水禽類が放ち飼がしてあつた事が知られる。

御立たしし島を見る時にはたづみ、流るる涙とめぞかねつる。

島とあるのは池の中の島とともに庭全體を指す林泉の意味で、此歌によつても可なり立派なお庭があつた事が思はれる。

東の瀧の御門に侍（サモラ）へど、昨日も今日も召す事もなし。

東方の御門を瀧の御門と言つて、門のほとりに激しい水流があつたと見へる。元來御門（ミカド）は門戸の義であるが、其れが轉じて宮殿を「みかど」と言ひ更らに其宮殿の主をも「みかど」と申上る様になつたのである。

同じく卷の貳、柿本人麿が其妻の死を悲しみ詠める歌。

……（上略）、吾妹子（ワギモコ）が形見に置ける、若兒の乞ひ泣く毎に、取與ふ物し無ければ、男じもの脇挾（ワキハサミ）持ち、吾妹子と二人吾が寢し、枕づく妻屋の內に、晝はもうらさび暮し、夜はも息づき明し、歎けどもせむ術しらに、戀ふれども逢ふよしを無し、……云々。

妻君を死なして遺兒を抱え途方にくれて居る様子がよく表はされて居る。妻屋といふのは寢室である。家の奥まつた小いさな部屋である。人麿は身分の低かつた人だと言ふから其住屋もさゝやかな物であつたらうと思はれる。

建物の妻にある部屋であるから妻屋であり、妻といふ稱呼も此妻屋から起つて居るのではなからうか。建物の梁間を「ツマ」と言ふのは柱の間のつゞまつた事を意味するのではないかと考へるが如何であらう。

妻屋に關してはなほ上の長歌の次に短歌がある。

家に來て妻屋を見れば玉床の、外に向ひけり妹が木枕。

此歌は作者は分らないがやはり妻を失つた人の歌であらう。玉床は床の美稱、妻なき空閨を悲しんだ歌である。木枕とあるから當時婦人は木の枕をして居た事が知られる。

卷の三、博通法師が紀伊國に往き三穗の石室（イハヤ）を見て詠める歌三首の一つ。

はたすすき久米の若子（ワクコ）が坐しけむ、三穗の石室は荒れにけるかも。

三穗の石室は日高郡日御崎の東方とある。此歌の當時すでに相當荒れて居たので有る。久米の若子については誰れだか確說が無い。とにかく三穗の石室に當時さうした傳說があつたものらしい。

同じく卷の三、藤原宇合（ウマカヒ）卿に難波の都を改め造らしめ給へる時詠める歌。

昔こそ難波田舍と言はれけめ、今は都と都びにけり。

これは宇合が自分の主管した造都事業の成功を喜んで詠んだ歌である。こゝに言ふ難波

の宮は聖武天皇が孝徳天皇の長柄の宮を修理させられ、天平16年に都を遷されたものである。昔こそ難波は田舎と言はれたであらうが、今はすつかり都らしくなつたとほめてよろこんで居る。其當時の光景が浮んで來る様な感がある。

巻の六に難波の新京をたゝへて

汐ひれば蘆邊にさわぐあし鶴の、妻よぶ聲は宮もとゞろに。

と有る。當時海邊には鶴が澤山居り、宮は海に近くて汐干の折には妻呼びかわして鳴きわたる鶴群が宮をとゞろかしたと言ふので有る。

同じく巻の三、小野老（オユ）が奈良の都を詠める歌。

あをによし奈良の都は咲く花の、匂ふが如く今盛りなり。

是れは有名な誰れでも知つて居る歌である。奈良の都の全盛がよく表はされて居る。

同じく巻の三、山邊赤人が藤原家の山池を詠んだ歌。

昔見し古き堤は年深み、池の渚に水草生ひにけり。

赤人は人麿と並び稱せられる和歌の達人である。藤原氏の邸宅の林泉を見て詠んだ歌で昔見しとあるから出來上つた時と現狀とを比較して、池の水際などに水草が生ひしげつて落ちついて居る様子が詠まれて居る。

同じく巻の三、やはり林泉を詠んだ歌に大伴旅人のがある。

妹として二人作りし吾が山齋（シマ）は、木高く繁く成りにけるかも。

此れは旅人が大宰帥の任を終つて奈良の都に歸つての歌である。旅人も歌の上手であるが、任地で妻を失ひ其悲を抱いて奈良の舊邸に歸り、庭園をながめて無き人への想を新らしくして居るあはれなる歌である。

以上やつと三の巻までで所定の紙數は盡きた。拾ひあぐ可き歌、相當に興味あるものも此後に多數ある見込である。何れ機會を得て續稿として補ひたいと思ふ。（了）

住宅の居室と間接の室との比較

大林組理事　松　本　儀　八

在來の和風構への住宅では其建物の坪數丈けの疊數が敷込んである家は、其間取に於いて良く纏つた家だと言はれて居る。

例へば和風構への延60坪の家だとすれば60帖の疊が敷け、之と逆に60帖の疊數を要求する場合は

10帖	1 室
8 帖	2 室
6 帖	3 室
4.5帖	2 室
7 帖大應接室	1 室
計	60帖

といつた數字の如き建物として延60坪の家たらしむるといふ様に不文律的に之を定めても大した違算がないのである。此の事實から歸納すると居室即ち疊の部屋以外の玄關、廊下、椽側、臺所、便所、浴室といつた部屋が居室と同面積を要求することとなる。

つまり普通の家では吾々が日常直接使用する部屋の外に之と同面積に近い間接使用の部屋が必要であることが分るのである。尤も間接使用と言つても其の言葉の示すが如き常に使用しないといふ意味ではなく又廊下の場合の如きそれ自體を使用目的とするに非す部屋と部屋との聯絡の意味に於いて間接的であるといふ語義通りに用ひての言葉ではなく和風、洋風を問はす疊を敷くべき性質の部屋以外の部屋を意味してゐるのである。從つて此の區別は重大非重大を分つための區別ではないのである。何んとなれば間接使用の範疇に入れられた部屋のなかには臺所や便所、浴室の如き毎日使用し然も家にとつて欠く可からざるの部屋が入つてゐるからである。

上に述べた事實を私が關係して最近に建てた家の中から茲に20戸を選び數字的に確めて見たが次の如き表が作成された。こゝに選擇された家は所謂標準型をといふ立場から選んだため、その坪數は17.8坪から168坪までに限定した。

次頁の表を見ると20戸の平家、洋風、1階建、2階建を通じて總延坪 1,476坪5に對して所謂居室廻り A は 46.5% を占めB, C の間接廻り合計が 53.5% といふ割になつてゐる。4割6分と5割3分は正確には半々ではないけれども概算的に見て半々となり私の最初に述べた事柄が此の表に於いて證明された譯である。從つて私達が家を建てやうとする

住宅の居室と間接の室との比較調査

例	○△☒ 平二階建 和洋		延坪	対ユカ比率 % A	B	C
1	武○印	1	131.15			
	☒	2	37.77			
		延	16?.86	37.1	27.6	35.3
2	中○印	1	98.62			
	△	2	57.81			
		延	156.43	44.2	29.0	26.8
3	前○印	1	112.90			
	☒	2	46.?91			
		延	159.869.	35.1	34.1	30.8
4	田○印	1	93.78			
	☒	2	53.59			
		延	147.37	34.9	38.0	27.1
5	井○印	1	82.37			
	△	2	24.80			
		延	107.17	36.2	28.7	35.1
6	高○印	1	62.418			
	△	2	25.484			
		延	87.902	38.8	26.7	34.5
7	西○印	1	73.30			
	☒	2	54.11			
		延	127.41	30.9	29.7	39.4
8	同○印	1	58.72			
	☒	2	35.14			
		延	93.86	45.2	23.4	31.4
9	綾(海)	1	45.61			
	△	2	17.37			
		延	62.98	53.0	20.7	26.3
10	坂(〃海)	1	43.76			
	△	2	14.13			
		延	57.89	62.2	13.4	24.4
11	浜(泉)	1	30.33			
	☒	2	7.92			
		延	38.25	44.2	29.7	26.1
12	舟○印	1	27.21			
	△	2	12.79			
		延	40.20	47.0	31.4	21.6
13	三○印	1	27.11			
	△	2	9.22			
		延	36.33	46.0	29.7	24.3
14	伊○印	1	25.30			
	△	2	12.69			
		延	37.99	53.9	27.0	19.1
15	天○印	1	20.70			
	☒	2	11.60			
		延	32.50	37.6	21.5	40.9
16	山○印	1	17.96			
	☒	2	10.15			
		延	28.11	54.5	18.7	26.8
17	内○印	1	15.30			
	△	2	8.20			
		延	23.50	50.2	28.6	21.2
18	淡○印	○	33.69	42.8	33.4	23.8
19	海○印	○	18.38	66.7	28.7	4.60
20	内○印	○	17.84	70.9	19.2	9.90
総延坪			1476.511	49.57	26.96	26.47

Ⓐ 家族ノ寝室又ハ主要室ヲAトス

例
- 女中室、書生室、茶間、食堂、仏間、書斎、応接、娯楽室、客間、次間、寝室、(廊路ニ用ニル梯側)、主人室、主婦室、子供室、客間、座敷、踏ヒ床間

Ⓑ 間接ノ使用スル部屋ヲBトス

例
- (ベランダ(展望室)、サンルーム、ダンス置場、予備室、蔵前、蔵、金庫室、物置(倉庫ニ重モノ)、電話室、書庫、納戸、化粧室、脱衣室、更衣室、便所、湯室、洗面所、台所、配膳室、押入

Ⓒ 上記ニ準ズルモノニテ普通建物ノ、廊路ニ使用スルモノヲCトス

例
- 梯側(廊路ニ使用セラル)、廊下、台所土間、階段室、玄関、ホール

表中 ○印は和・洋平家建
△印は和風二階建
☒印は洋風二階建

1・2は一階二階の延坪
A＝居室廻りのパーセンテージを
B＝間接使用の割合を
C＝通路廻りの割合を示してゐる

とき、又他人の家を見るとき、疊の數を計算すれば其家の總延坪が立所に算出されるといふ便宜を教へてゐてくれるのである。

然らばここに平均値として出て來た 50% づつの割合で疊を敷き得る部屋と然らざる部屋を分つのは最善のプランニングであるか否かの事實問題が生ずる。誰しも家を建てるに當つて殊更不便を希ひ、不合理、不經濟を要求する者はない筈で、經驗と智識とを絞つて最も經濟的に最も合理的に最も住み良い家を建てやうと欲し之が目的を實現するために研究努力を重ねるのである。そして長い間經驗され研究されて出來た成果が右に述べた如き概略的なプロポーションを保つてゐるとすれば個々に改良さるべき幾多の問題をなほ將來に殘すことは認めなければならないが、少なくとも現在の生活樣式であるかぎり此の割合は原則として正しいと認めても大して差支あるまいと思ふ。今試みに表中の 2 と 5 の家を比較して此の原則に充て嵌めて見よう。

即ち 2 の中○邸、5 の井○邸は共に和風 2 階建てであり只延坪も 159 坪、107 坪と可なり距たりを見せてはゐるが、居室と間接使用部屋との割合が甚だしく異つてゐるのである。中○邸は 44.2% を居室に占められてゐるに對し、井○邸は 36.2% しかない。之は後に述ぶるべき坪數の大小に依つて此の割合が變化すべき項に於いても好い例となつてゐるが此の兩建物が何れが便利であるや否やは研究の餘地もあらうし、勿論中○邸の方はプロポーションが原則に近いだけ延坪に對しよりよき條件の家であらねばならぬ筈だが果して事實そうなつてゐるや否やを實際をプランに徵して研究して見る必要がある。

更に表に於いてみる如く洋風と和風では此の割合は異るのである。例へば表中 1 の武○邸は延 168 坪で 37% の居室に對し 2 の中○邸は 44% の居室を有してゐる。之は洋風建てのはホール其他廊下を多く取るといふ大勢的な、又已む難い要求からで、此の場合一概に右の原則を適用して 50% と相距たること遠ければ遠い程不合理なプランであるといふことは斷定し難いのである。こゝにはまだ洋風和風の各々單獨の統計がない故どの程度の差を設くべきかが數字的には確然としないけれど、之に統計をとれば又面白い結果を得らるゝことと思ふ。とにかく此の表に於いて他の條件を度外視すれば居室に最大の割合を占むのは 70% の和室であり最少の 30% の洋室であることは面白い現象と言はねばならぬ

次に延坪の大小に依つてプロポーションが相異つて來ることになる、即ち最少の延坪である 17.84 坪の建物が 71% の居室を持ち却には前述の洋和の相異に依つて種々の例外を含みながらも大體の傾向として大なる坪數に從つて(建物の延坪數が大くなる程)居室廻りの占むる割合が減少するのである。それは家が狹いと極端な例を以つてすれば便所でも大小便で(汽車に於けるが如きもので)間に合はすとか、風呂を節約とするとかで、無くてはならぬ部屋のみが存在理由を認められ、全く餘裕ないギリギリのプランが採用されるこ

とゝなる。之に反して坪數が大くなると、浴室を二つも三つも選び、内玄關だ勝手口だといふやうに贅澤になり便所の如きも幾つもとられるやうになつて一面非常に餘裕のある家であるといひ得ると共に、他面非常に贅澤な要求、更に言ひ變へれば不經濟なる浪費を敢へてするやうになる。吾々は持論として何時も出來るだけ經濟的な、出來るだけ合理的な、住み良い家をといふことに目標(メヤス)を置いてゐる。假令經濟的に許されるとしてもより大くの無駄なスペイスを採るといふ事は讃し難い。こゝに或る大邸宅の例を見ると居室廻りが30%といふ割合で 50% を距ること遙かである。これ等のプランに就ても批評を加へて見たいけれど、紙數を許されてゐないし玆には抽象的に止むるの外はないが、之等大きな坪數の家でも居間にユトリがなさ過ぎたり、寢室が窮窟過ぎたりして、住む人達の夫々の好みといひ條アドバイスすべき餘地が未だ殘されてゐる樣に思ふ。

尙之れと相關聯して附加へ度いことは、住宅のうちで部屋が如何に數多くとも家族の使用する部屋、常に氣持よく使用する部屋、家族の落付く場所は1ケ所か2ケ所かに自ら定つて來る傾向がある。各家族無言の行を續けるアパート式でない限り一家團欒の場所は大抵或る部屋に限られて來るものである。斯樣な譯で常に使用すべ部屋には多少のユトリと寬ぎをとつて最も便利で親しみ良い部屋たらしむる樣仕向ける事も肝要であらう。

本號執筆者紹介

(五十音順)

荒木　正已	工學士　京都帝大建築學科卒　大阪府建築課勤務
葛野莊一郎	工學士　東京帝大建築學科卒　葛野建築事務所主
西山　卯三	工學士　東京帝大建築學科卒　京都帝大大學院
增山　新平	東京高等工業學校建築科卒　大林組技師
松本　儀八	京都高等工藝學校卒　大林組理事にして住宅部長
和田　登	工學士　京都帝大建築學科卒　大阪府建築課勤務

臺所の紙上展覽會

增山新平

住宅は公共の建築や營業用の建築に比してその進歩が十年は遲れてゐると思ふ。住宅建築では住ふ人も建築する人も儲けにならないから、力がはいらないではないかとも考へられる。

便利な能率のよい住宅は住ふ家族の人にとつては子女の教育の爲にも、精神的慰安の爲にも、各自の文化的修養の上にも至大の影響がある、然し目に見える生産的利益がないから住宅建築は後廻しになる。よい住宅に住みたい氣持は誰しも持つて居て殊に若い人達は住宅に對する趣味や理想は可成り向上して來て、舊來の住宅にはあきたらなく不滿を持つて居るのだからこれからの住宅經營者は餘程進歩的の考へを以て新鮮味のある住宅を提供すべきであると思ふ

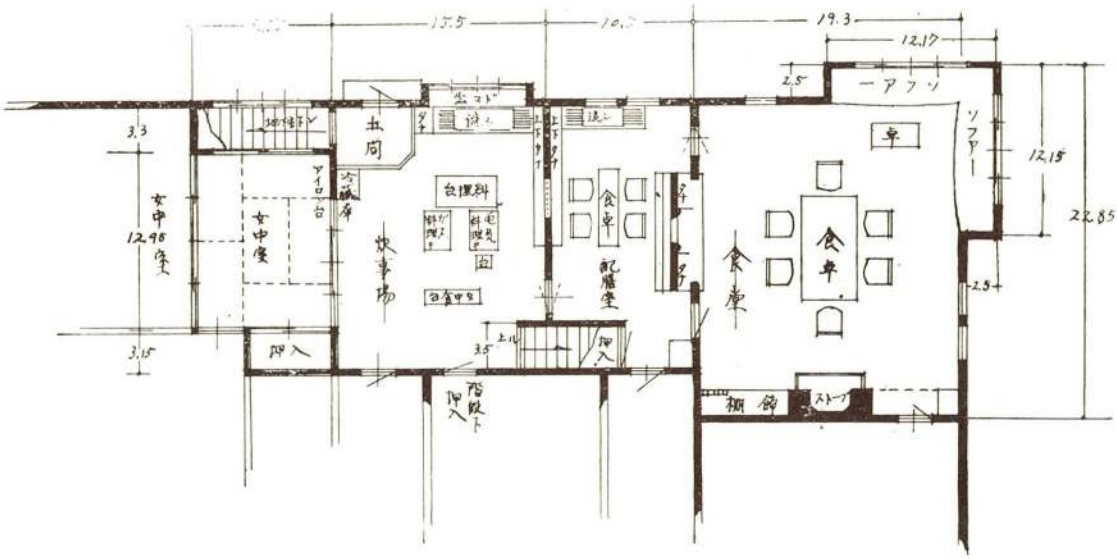
何とかして舊弊と因習から脫却して社會人をリードしつゝ家相方位などの迷信を打破して一直線に進みたいものである。

臺所については大正の初め頃からその改良が叫ばれ、社會的の問題になつたのは何と云つても東京朝日新聞の臺所の懸賞設計圖の發表を以て嚆矢と考へられる、今その圖を眺めて見ると住宅の進歩が遲いと云つても現在の住宅の臺所と比較して隔世の感に堪えない。

大正十三年には大阪市電氣局の電氣臺所の懸賞發表があり、その頃から昭和年代にかけて婦人雜誌、建築關係雜誌、瓦斯會社等種々なる方面から懸賞を募集して臺所の改善熱を擧げたから便所や浴室などよりも著しく進歩したのである。

本稿が紙上展覽會など云ふと大げさに書きたてて、羊頭狗肉の感に堪えないが住宅も種々雜多である樣に、臺所も又多種多樣であるからなるべく數多くあげて對比する事も何等かの暗示が湧出する事と思ふ。紙面の都合上沿革的蒐集的に示さず、最近建てられた新式住宅の臺所約20を選定して短評を試みる事にする。

これらは先輩知友の建てられたもので筆者が實物も拜見せず、設計圖も一覽せず、作者の御說明も伺はず、只單に寫眞だけで短評を試みたものであるから、筆者の誤解もあるべく研究の不十分の箇所も多かるべく、禮儀を失する點は何卒御寬恕賜りたいものである。



第1圖　この平面圖は上流住宅の臺所及びそれに隣接する配膳室、食堂女中室を示したもので極めて定石的な標準型の平面である。臺所から2階への裏階段がついてゐるので臺所の面積が相當廣いものとなつてゐる平常のみの料理の場合は面積をもつと切つめることが出來さうだが、上流の家庭では多數の客を應應することも考慮に入れて置かなければならないから、餘裕も又必要である。

女中室との境が四枚引違戸となつてゐるが、これは一枚片引戸として壁面を多くしたいものである。



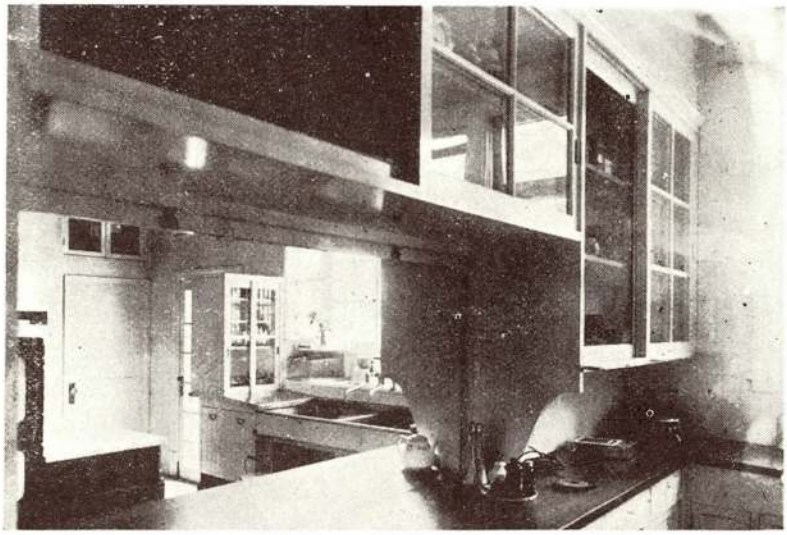
第2圖　この臺所は第1圖に平面圖を示した臺所である。採光面も十分であり、欄間を引違ひとしたことも適當である。臺所の窓には是非、丈夫な格子が必要である。

流しは上流しと下流しとに分けてゐる。兩方に水切臺をつけてゐるが、水切の側方は緣をとつた方が良い。

配膳臺とガラス戸棚、抽出と板戸棚の關係的寸法の割合も適當である。料理差出口の仕切戸は上方に上げるやうにしてゐることも便利である。

電燈は流しの上に一個と煮焚場上の排氣蓋に取付けてゐる、後者は臺所の一般照明と煮焚場の局所照明を兼ねさしてゐる。料理臺と背中合せにガスレンヂと電氣レンヂを併用してゐる。

第3圖　この圖は第2圖臺所に隣りした配膳室である、配膳室と臺所の取合せの料理差出口の仕切戸を上にあげて臺所の一部が見える圖である。この反對側は食堂に對して更らに差出口を設けてゐる。圖には見えないが窓面に上流しがあり、差出口の臺は長く廻して配膳臺とし、下方は抽出と板戸棚を設け上部にはガラス戸を設けてゐる。この事は洋式臺所の一般的の型である。



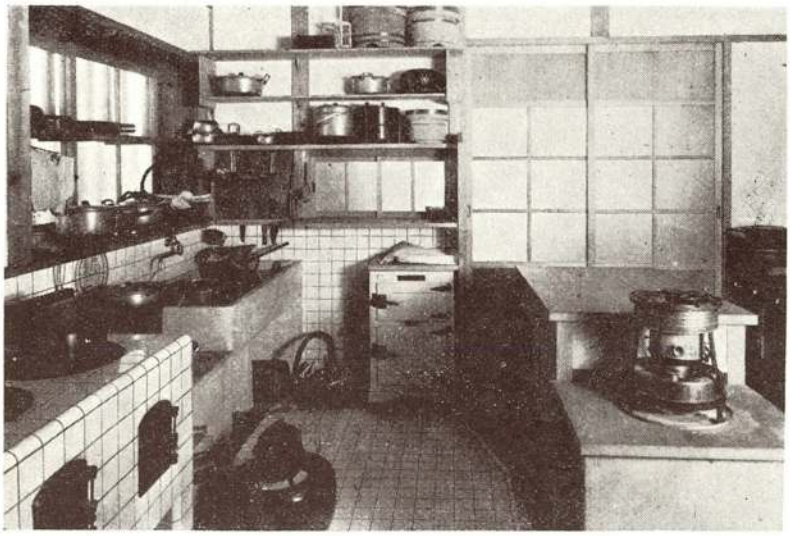
第4圖　昔の臺所は天井なく小屋組を表はした化粧天井とするものが多い。然し1—2階吹抜ですばらしく高すぎるのはちりほこりを掃除するのに困難である。平屋建で化粧小屋組とした高さは丁度よいものである最近は煙突が出來排氣蓋が作られてゐるから、天井を普通座敷並にしたものが多いが臺所としては低くすぎる。空氣量が少ないことを實際の使用の際痛感されると思ふ。

この臺所は寫眞には見えないが平屋で化粧小屋組である。

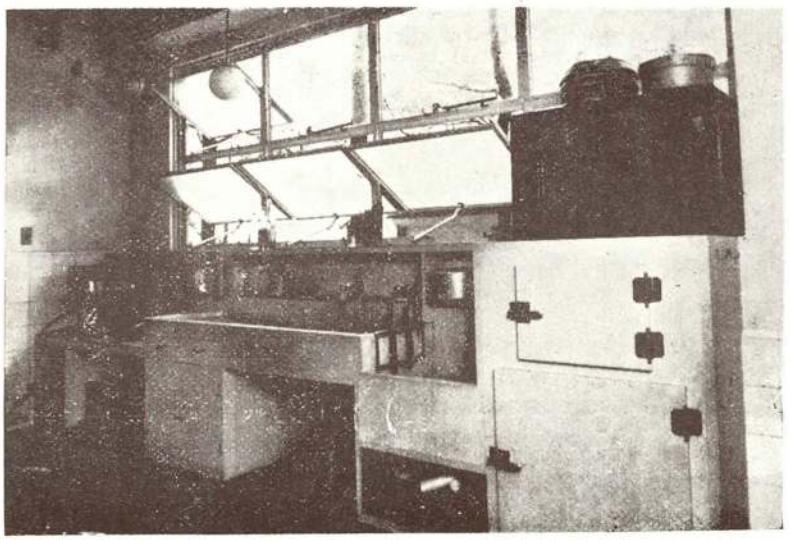
床を二つに區切つて一方を板床とし他をタイル張り土間としてゐる。主なる燃料を薪としたため、煮焚場の都合から耐火的の床を必要としたことであらう。

料理差出口の三段の棚は戸棚とすることが順當であらう。

煮焚場と腰廻りを全部タイル張りとしたことは掃除が樂で常に清潔を保持するに都合がよい。

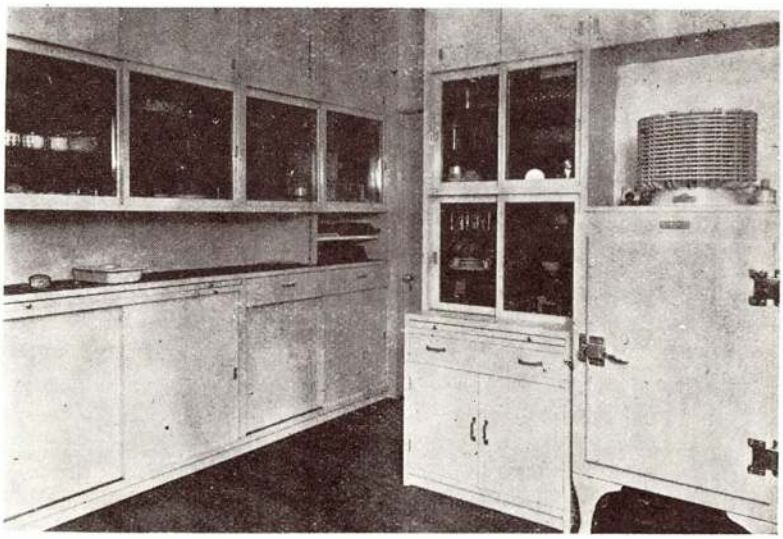


第5圖　この圖は二個設備の臺所の窓側を示したものである。窓の開閉を二段の廻轉窓を以て換氣と通風と採光を十分にしてゐる。流し及び冷藏庫と煮焚場をコンビネーションして流し前の小棚も甘く出來てゐる煮焚場上には排氣扇が附けて臭氣や湯氣を吸ひ出す樣に出來てゐる。





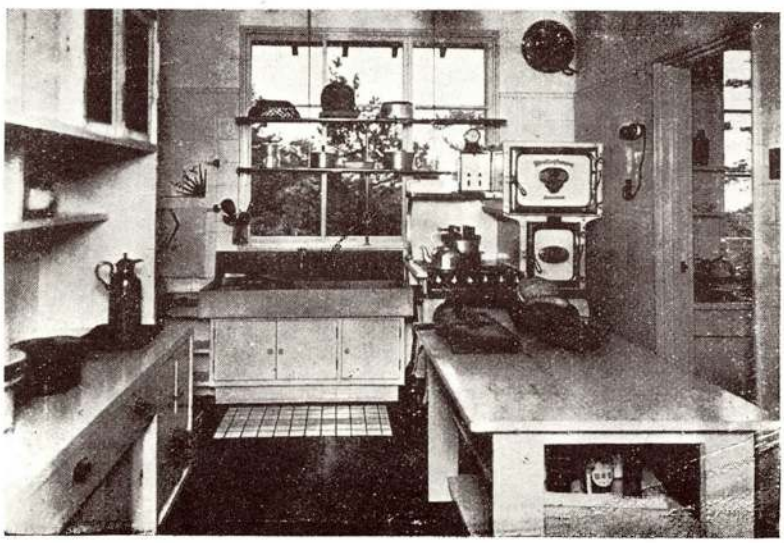
第6圖　これは第5圖の窓面の反對側をあらはした圖である。下から板戸棚、抽出、配膳臺、中段板戸棚、上段板戸棚として全壁面を利用してゐる。中段はガラス戸棚の方が便利であらう、又抽出や板戸棚が斯様に多いときはネームプレート附けで内部品を明瞭に指示することが使用上良くはないかと思はれる。但し各部のプロポーションは適當である。



第7圖　この臺所戸棚は表現が近代的である。板戸棚、抽出、ガラス戸棚、配膳臺等その割合は適當に出來てゐる。板戸も表面に桟を表はさず、ガラス戸も枠だけで一枚ガラスをはめてゐる。これは塵埃の溜り場をなくする爲である中段を無地ガラスとしたことは内部の品物を一目瞭然たらしめるためである。

但し白色エナメル仕上としたことは衛生上適當な處置であるけれども、餘程上等の材料を用ひないと、却つて汚れ易くなるからその點の注意が必要である。

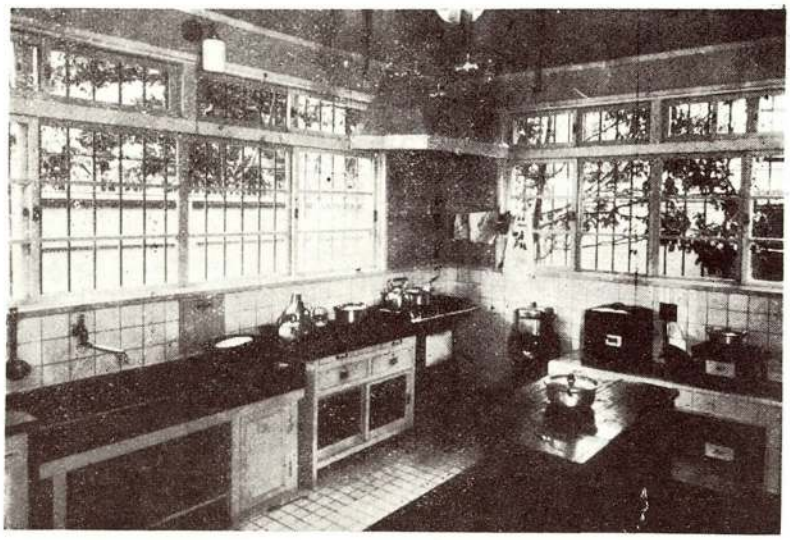
大型の電氣冷藏機が入込みにはめてあるのを見ても昔の臺所と隔世の感がある。



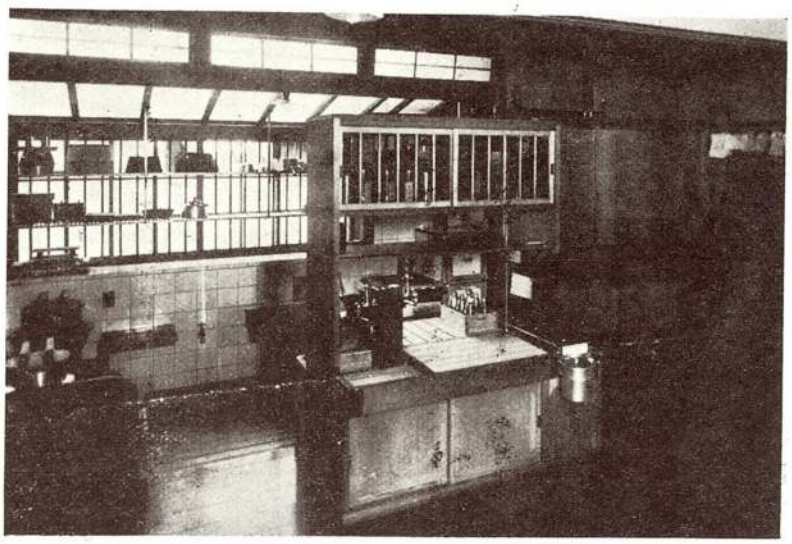
第8圖　この臺所は一方光線で、奥に長い小じんまりした臺所である。電氣レンヂは時間調節の出來る便利な高級なるものである。その上部の圓形のものは排氣機のファンである。狭い臺所で窓面が少ない時には是非必要である。

窓面吊棚はやゝ高すぎにしまいか、流しの下の物入れはもつと引込めた方が使ひよいものである。

第9圖　此の臺所は二方から採光して、からつとして明く窓をあけたら夏は涼しさうであるがあまり多く窓面を取すぎてゐるから冬は寒さうである。煮焚場が二箇所に分離されて居るので、瓦斯レンヂ上につけた排氣蓋の効能が半減されてゐる。流の前面窓の所に二段住釣棚を設けたら使用勝手が良くなると思はれる。窓面の多いのは樹木が大いために特に留意されたことと思はれる。

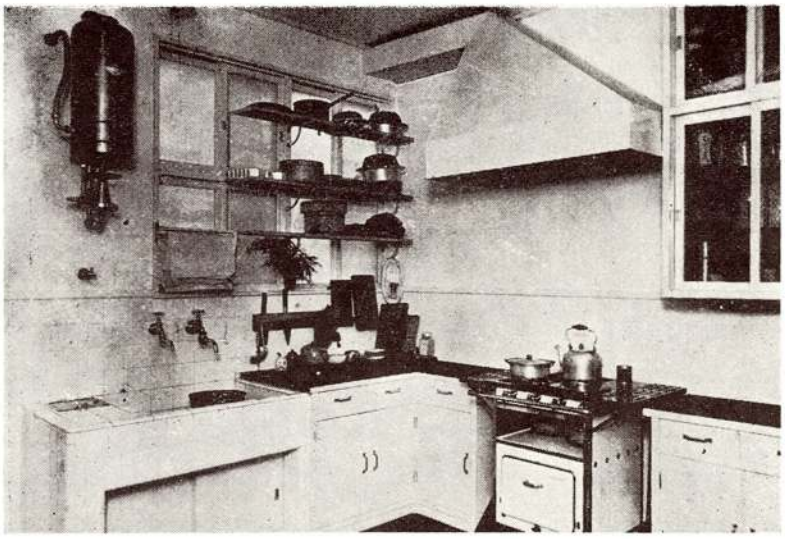


第10圖　此の臺所は一風變つた臺所である煮焚場と流しをタイル土間とし約5寸程下げてゐる、この部分を主屋から突出させて北向きのトップライトとしてゐる窓も十分に取つてゐるから廣い臺所であるが採光が良いと思はれる、料理臺は前後兩側より使用出來るもので中央上部に小物入れの棚を取つてゐるのは手際が良い、その右側にガス器を置いたのは感心出來ない、これは窓面煮焚場に統一した方がよいと思ふ。

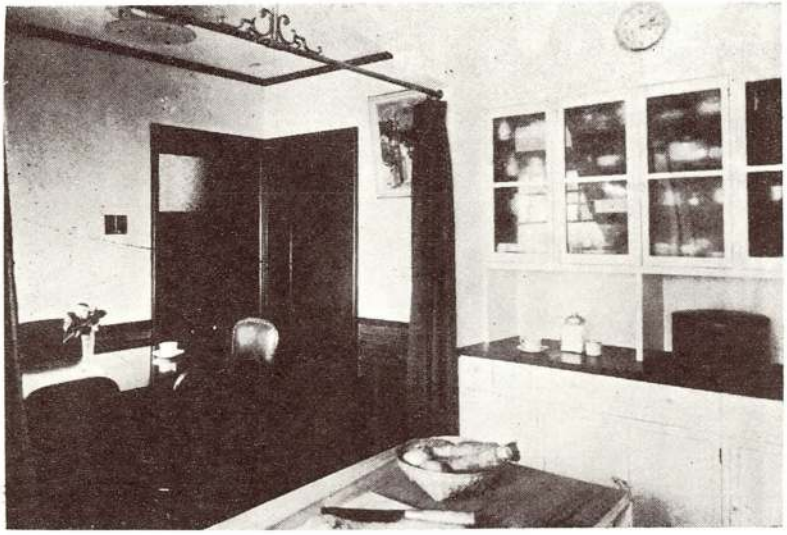


第11圖　此の臺所は電燈3個、豫備瓦斯燈1個を設備してゐる處から察しても上流住宅の臺所である、天井に2個所の空氣抜とガスレンヂ上に排氣蓋をつけてゐるから十分排氣が出來ると思ふ、煮焚場を2個所に分離したことはやゝ不便ではないか、然し料理する人が2人以上の場合は便利になることもある。ガスレンヂ及び電氣冷藏機が市場品であることは止むを得ないとしても煮焚臺、流し、料理臺等は今一段の工夫を必要としまいか、設備が殆んど移動可能に出來てゐることは臺所の衛生掃除の際は好都合で理想的であるが、固定設備でないと落付の氣分を減ずるもので移動と固定とは各得失があるものである。

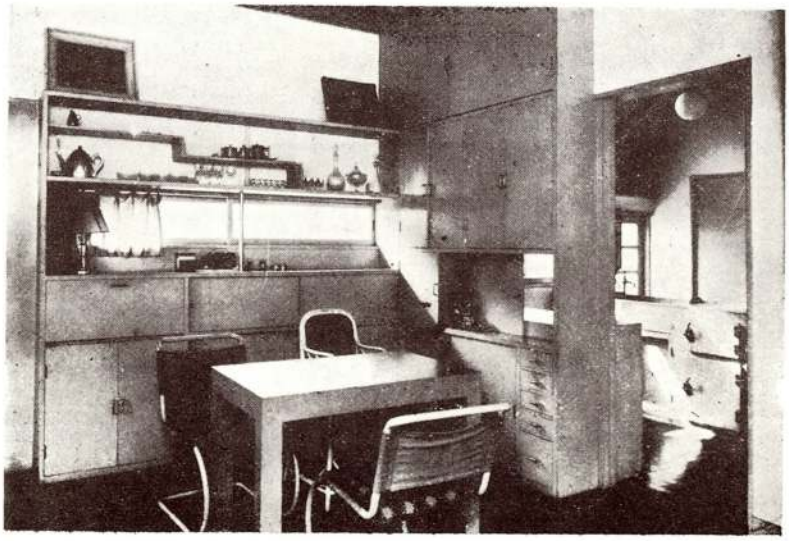




第12圖　此の臺所は料理臺上の三段の吊棚の內、最上部のものは使ひにくいから二段にすべきである、瞬間湯沸しも自動式のものでなければ、もつと低くした方便利と思はれる、瓦斯レンヂと排氣蓋との間の壁はタイル張としたい、此の處は一番汚れる部分である、流し、切臺、レンヂの配置は仕事の順序に配置されてゐて働きよささうな臺所である。

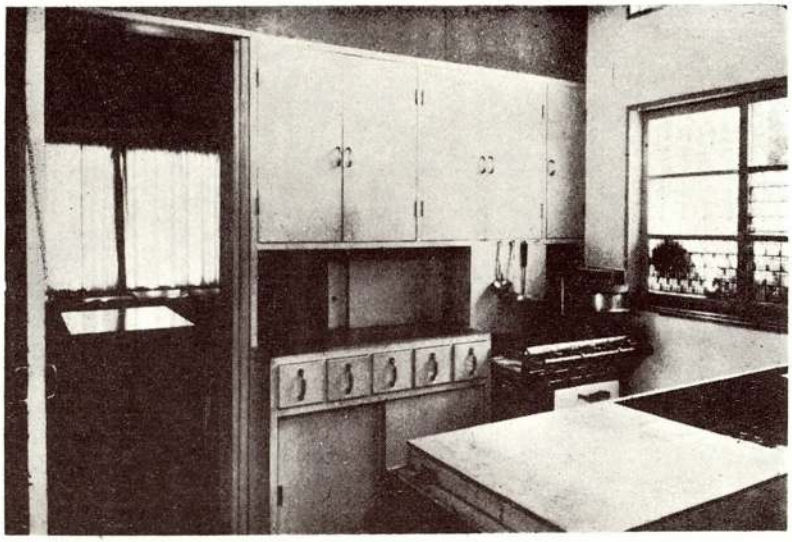


第13圖　臺所の一部で戸棚と料理臺がある瀟洒な、小食堂が見えてゐる、臺所と食堂はカーテンで仕切てゐる、斯樣な場合は臺所の排氣を十分にしてないと、煮焚場の湯氣や魚の臭氣になやまされるから特に注意を拂はなければならない。排氣蓋、排氣機を必要とするものである。

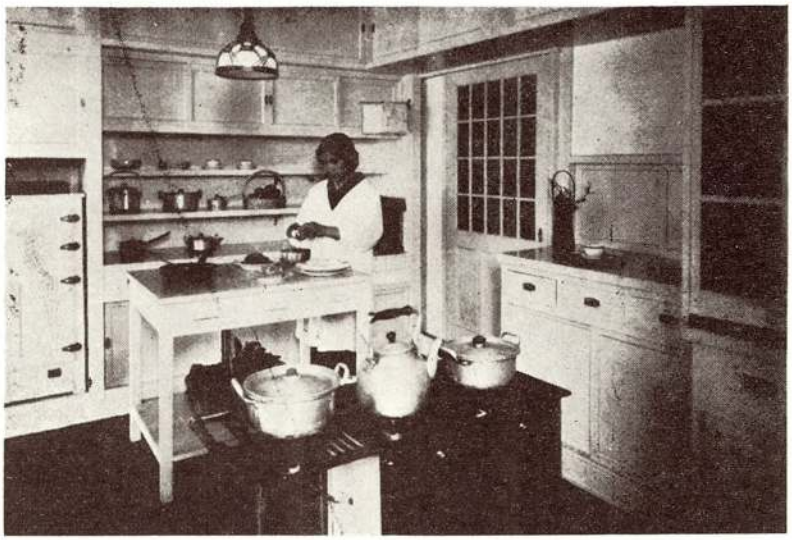


第14圖　この圖は臺所に隣りした朝餐室の一部である、夫妻と子供と三人の食事場であらう、然しいくら簡單な食事でもこれではテーブルが餘り狹すぎはしないか、2尺に3尺5寸乃至4尺位なくては實際に不便であらう、抽出、戸棚、小器具飾棚等は凡て適當に處理されてゐる。

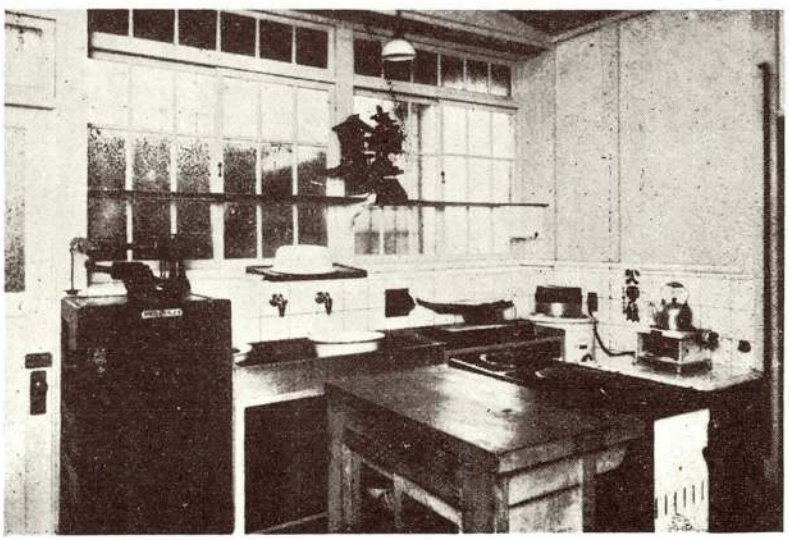
第15圖　此の圖は煮焚のガスレンヂの位置が落付が惡さうである、又抽出も深すぎはしないか、抽出は深さ3寸までが適當である。餘り深いと入れた物が重なりあつて取りにくいものである。但し狹い臺所をよく利用して食堂との關係を巧に間取した點は要領を得て居る。

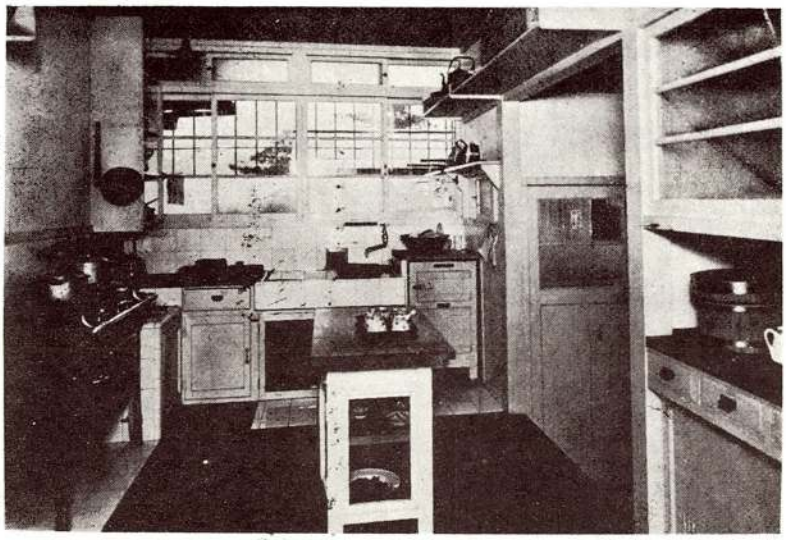


第16圖　廣すぎず狹すぎず手頃の廣さの臺所である、臺所は設備がよければ歩行の距離を減ずる上にも、掃除の分量を少くする上にも狹い方がよいのであるが、極端に狹い臺所は立働きが不自由なものである。食器や用具の整理にも困難であるから却つて仕事が面倒になるものである、此の臺所は棚、戸棚、冷藏庫の配置も良く出來てゐる最上段の不用品入れの板戸棚の造り方も要領が良い、然しガスレンヂの位置は他に適當な位置がなかつたであらうか。

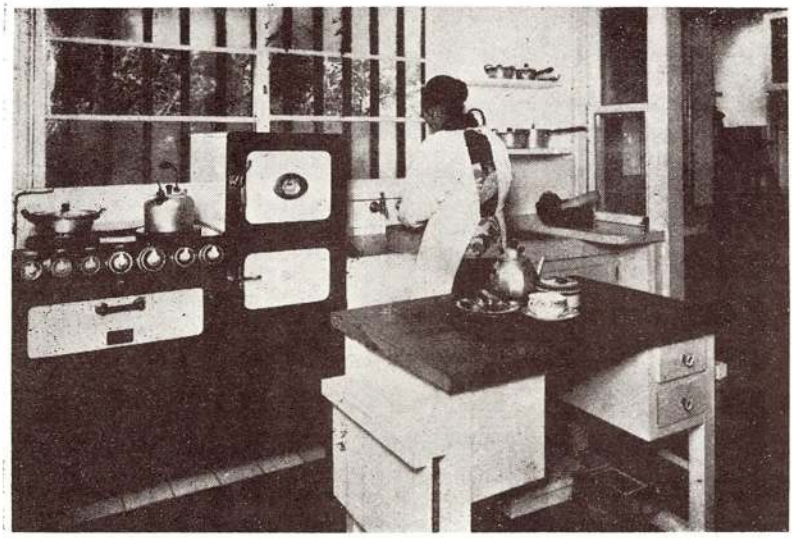


第17圖　此の臺所は冷藏庫に初まり、流し、料理臺、煮焚用電熱設備の順に配置され、中央にキツチンテーブルと瓦斯レンヂが配置されてゐる、窓側の腰を前に出してタイル張の乾かし場所とし、その上に一段の棚を設けたことは一般に便利な設備とされてゐる、腰の高さは適當である、腰の處の四角の黒い部分は塵埃箱てである。天井を舟底として居ることも良いが煮焚場の直上に排氣蓋を設けたいものである。

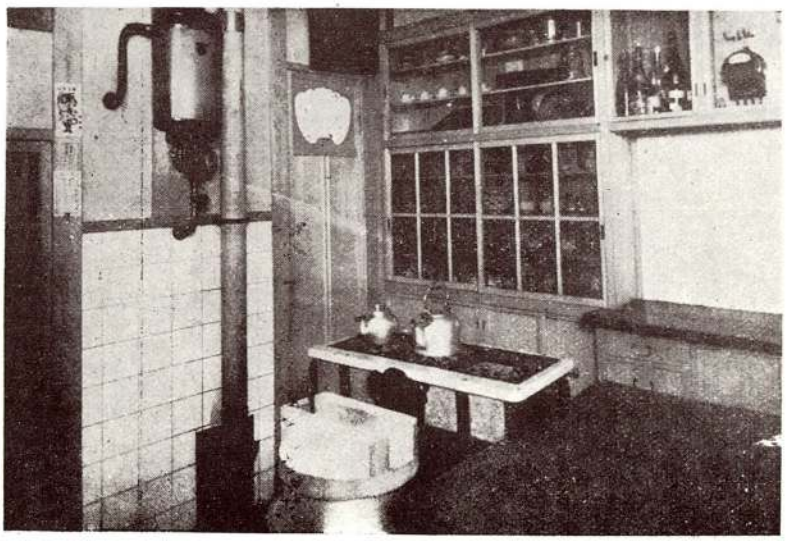




第18圖　狹い場所を甘く利用した臺所である。窓面のタイルの腰高さも適當であるし冷藏庫と流しと料理臺を挾めて兩側に吊棚を設けたことも適當である、煮焚臺とガスレンヂの位置も適當であるが、其の部分の壁面はタイルを更らに 3—4 尺高く張り上げたいものである、板戸棚、配膳臺、ガス戸棚も先づ無難に出來てゐる。



第19圖　高級な外國製の電氣レンヂが幅を利かしてゐる、一般に電氣やガスレンヂは外國標準に出來てゐるので煮焚プレート面が高すぎるきらひがある、足を床に埋め込むと約 2—3 寸低くなるから是非さうしたいものである、此のレンヂは熱板 3 個、オブン 3 個、食器加溫房室 1 個所の 7 個スヰッチ付のものである、此の臺所は電氣レンヂに比して料理臺及び流しの工作が簡約に出來てゐる。

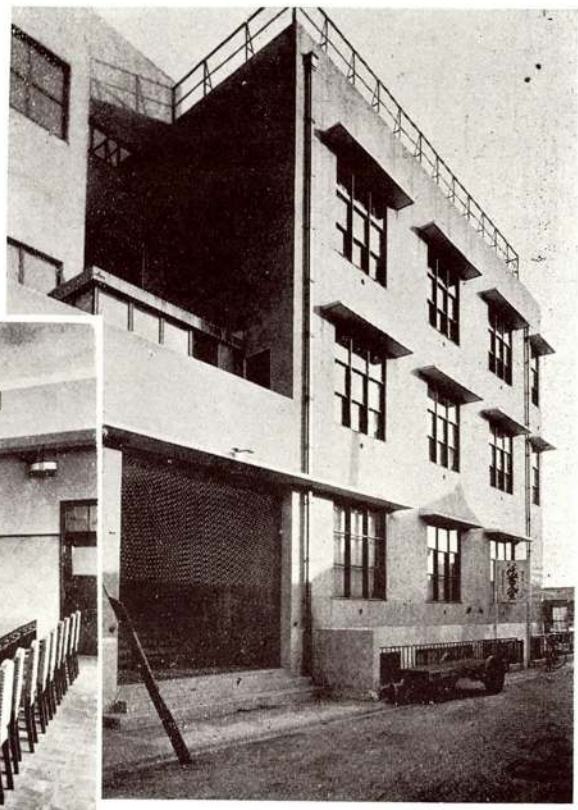


第20圖　これは餘程狹い臺所である。平面圖がないから設備配置の全貌が分らないが寫眞を見ると浴室の焚口と臺所の煮焚場と接近してをるやうである。風呂釜も石炭使用の差込釜であるから煙突があつても多少の煙が漏れるものであるから、この部分には是非排氣蓋の完全なものを必要とする。

最近の小住宅には風呂焚口を臺所土間に取つたものが多いがこれは考へものである土間の部分と臺所を遮斷する扉でもあれば差支へないが、オープンで臺所土間に風呂焚口を設けることは考へものである。



正面外觀



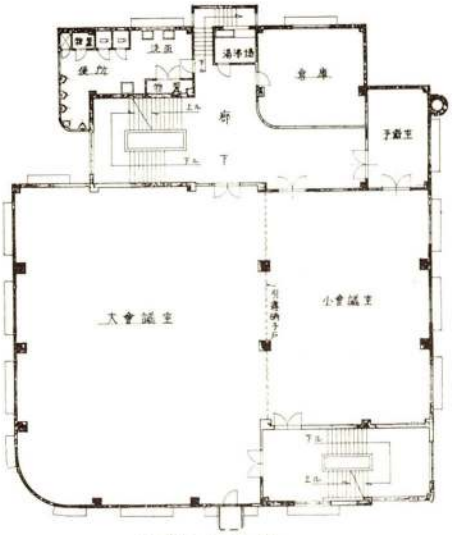
側面外觀

區會議場

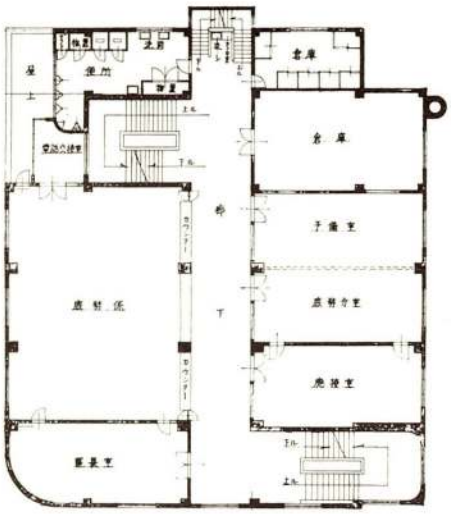


西區廳舍（大阪）

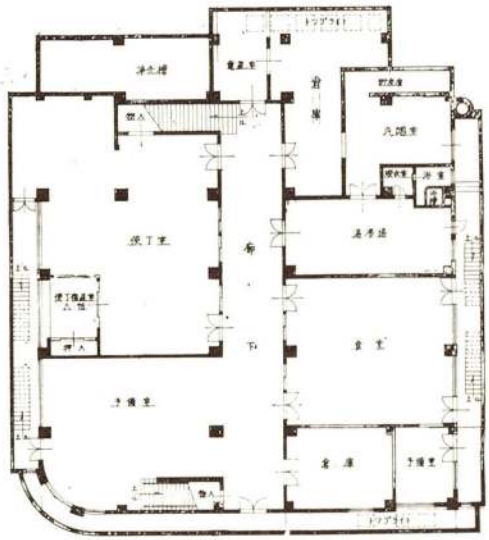
設計　大阪市役所建築課
施工　池田榮三郎



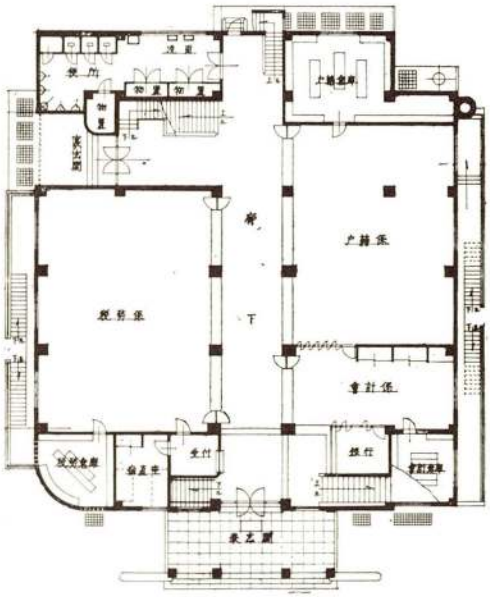
2階平面圖



3階平面圖



地階平面圖



1階平面圖

所在地　大阪市西區西長堀北通4丁目10番地ノ5

建築様式　近代式

建築物の高さ　15米72

構造　鐵筋コンクリート造3階建地下室及塔屋付

坪數

地階	693,518	平方米
1階	676,539	〃
2階	616,435	〃
3階	606,730	〃
屋階	64,800	〃
延坪	2,658,022	平方米

˅62　西區廳舍（大阪）

設計　大阪市役所建築課
施工　池田榮三郎



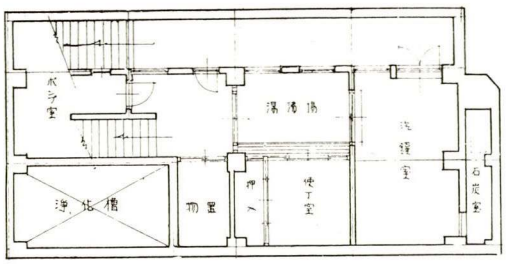
位　置　大阪市天王寺區下寺町4ノ322
起　工　昭和9年5月
竣　工　昭和10年1月
敷地坪數　472平方米
建物坪數
　地　階　　85平方米
　1　階　248　〃
　2　階　239　〃
　3　階　239　〃
　計　　811　〃
構　造　鐵筋コンクリート造、外壁白セメント入りモルタル掻き落し仕上、各窓スチールサッシュ嵌込
各室仕上右表の通り

	室名	床仕上	腰壁仕上	壁天井仕上
地階	使丁室	板張り疊敷		プラスター
	煖房汽罐室	モルタル塗	モルタル塗	モルタル仕上
	湯沸場	〃	〃	プラスター
	物置	〃	〃	モルタル仕上
	淨化槽			
	石炭庫	モルタル塗		モルタル仕上
1階	待合室	クリンカータイル張り	タイル貼り	プラスター
	紹介事務室	リグノイド	〃	〃
	電話交換室	〃	〃	〃
	宿直室	板張疊敷		〃

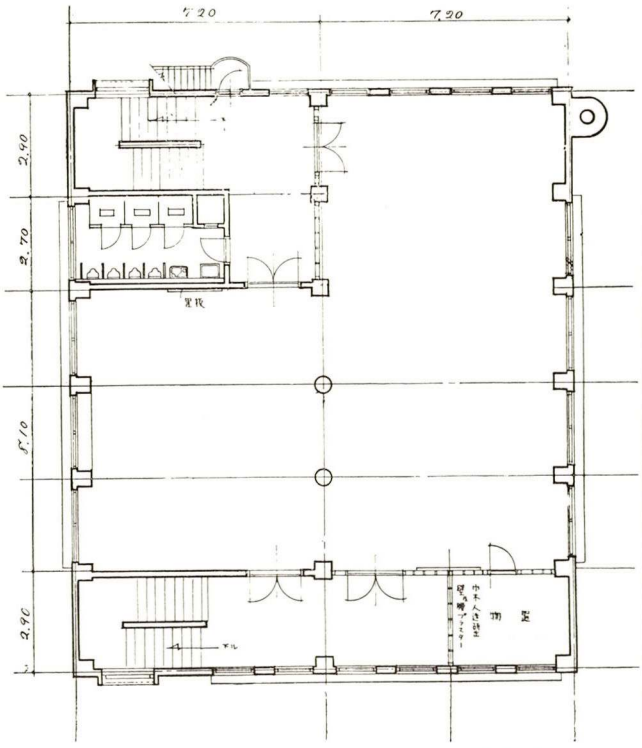
	便所	人造石研出	タイル貼り	プラスター
	階段室	〃	〃	〃
2階	階段室	〃	〃	プラスター
	便所	〃	〃	〃
	紹介事務室	リグノイド	〃	〃
3階	大會議室	リグノイド	〃	プラスター
	小會議室	〃	〃	〃
	便所	人造石研出	〃	〃
	階段室	〃	〃	〃
	物置	リグノイド	〃	〃

天王寺職業紹介所（大阪）

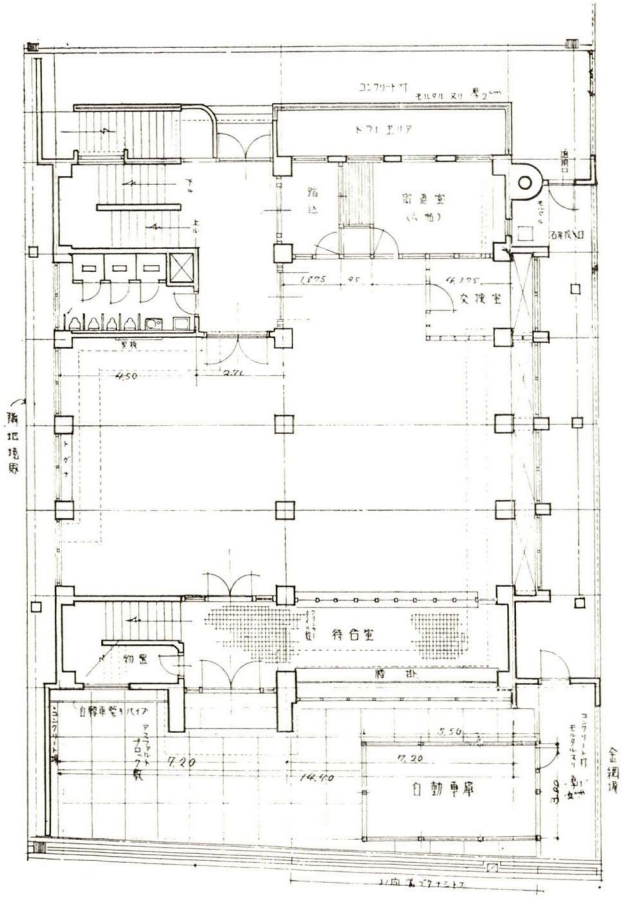
設計　大阪市役所建築課
施工　中村龜太郎



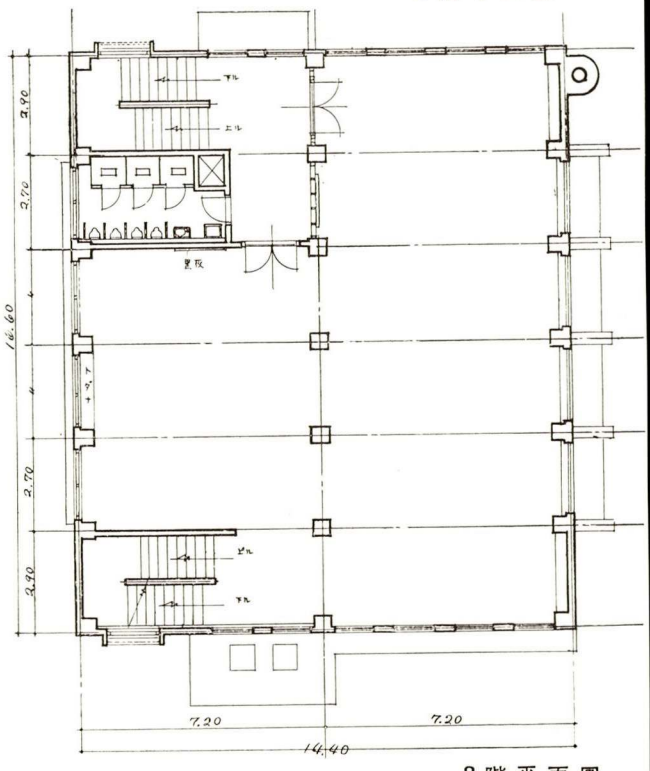
地階平面圖



3階平面圖



1階平面圖



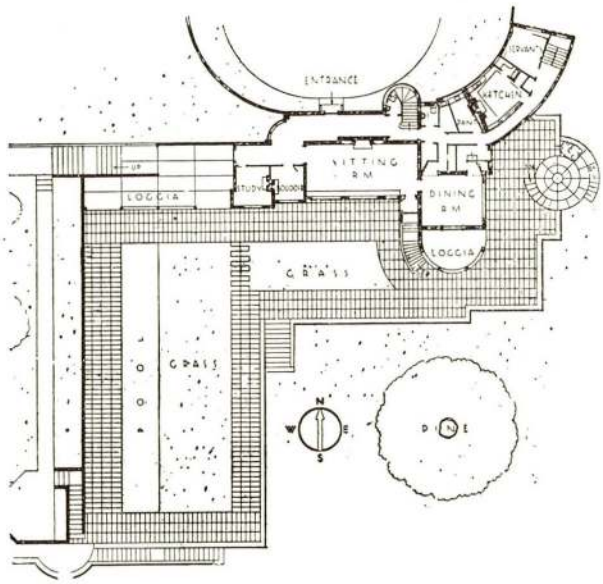
2階平面圖

▽64　天王寺職業紹介所（大阪）

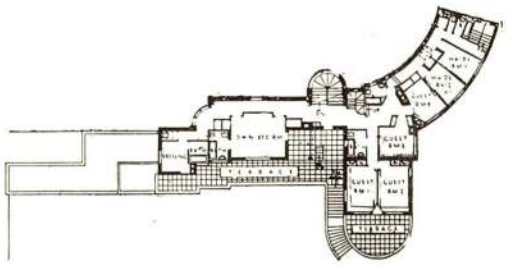
設計　大阪市役所建築課
施工　中村鎗太郎



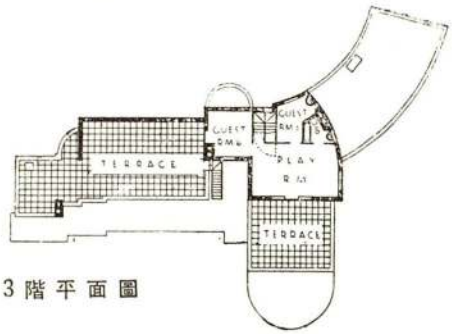
入口側外觀



1階平面圖



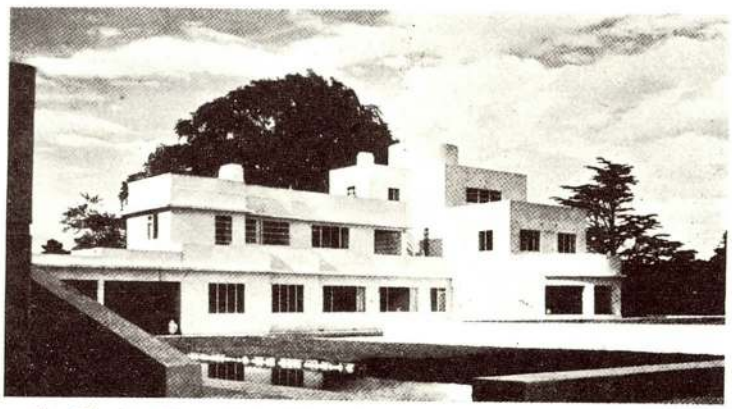
2階平面圖



3階平面圖

外部は白セメントとカーボランダムの電力磨き仕上で、白大理石のやうな感じを現はし、庇下端とロジヤの天井はビリデイアン色ペンキ塗である。

(Architectural Review 誌より　本多正道)

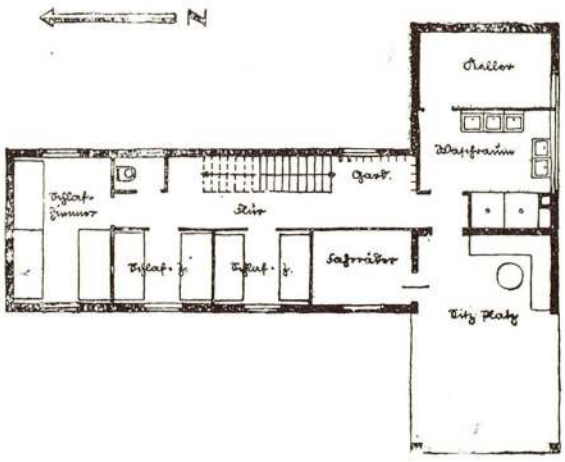


南側外觀　前面に青色のプールがある

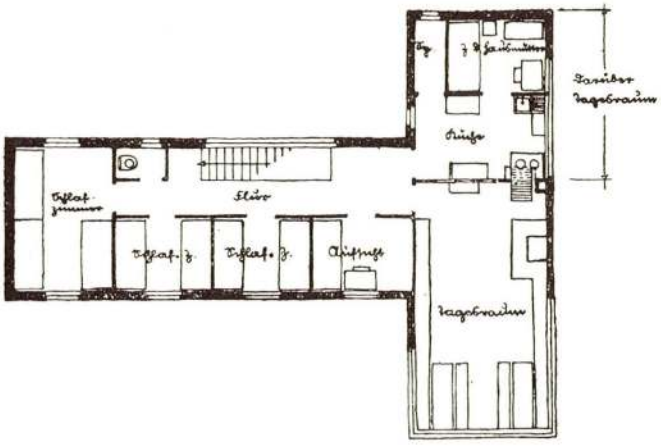
(イギリス) ロンドン郊外の住宅



外　　觀



1 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖

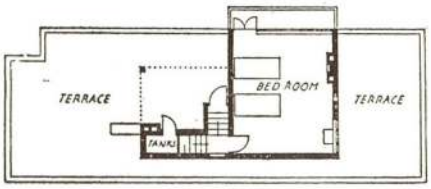
˅ 66　（ドイツ） ライン河畔に建つ保養及週末生活者のための家　　建築家 Dominikus Böhm

全ての點に保守的だと言はれる英國人も最近少くとも建築的には餘程目覺めて來たと言ふ證據の1つ。

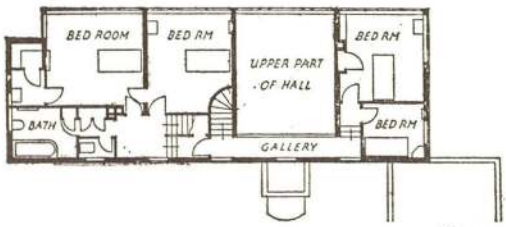
日光と平和と、健康と愉快と——これ等のものが住宅建築に最も必要なるものであると言ふことを心得た英國人が多くなつた證據の1つ。

だが、依然として英國の住宅のプランニングの傳統が、捨て切れないで平面に殘つて居るのは英國人の家らしくて面白い。

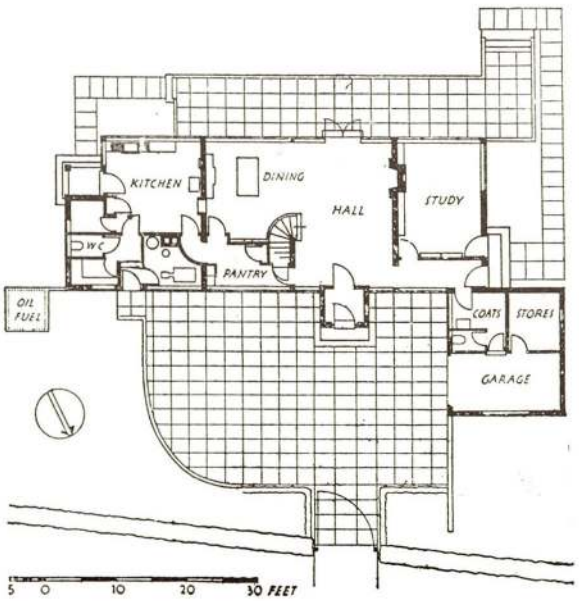
（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



3階平面圖



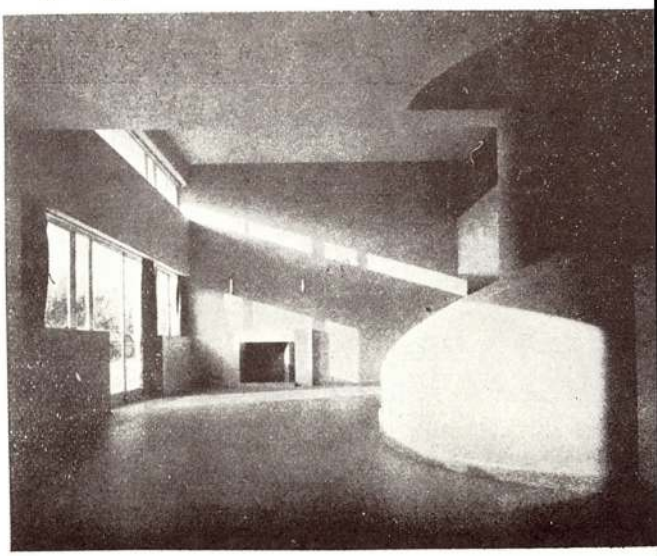
2階平面圖



1階平面圖



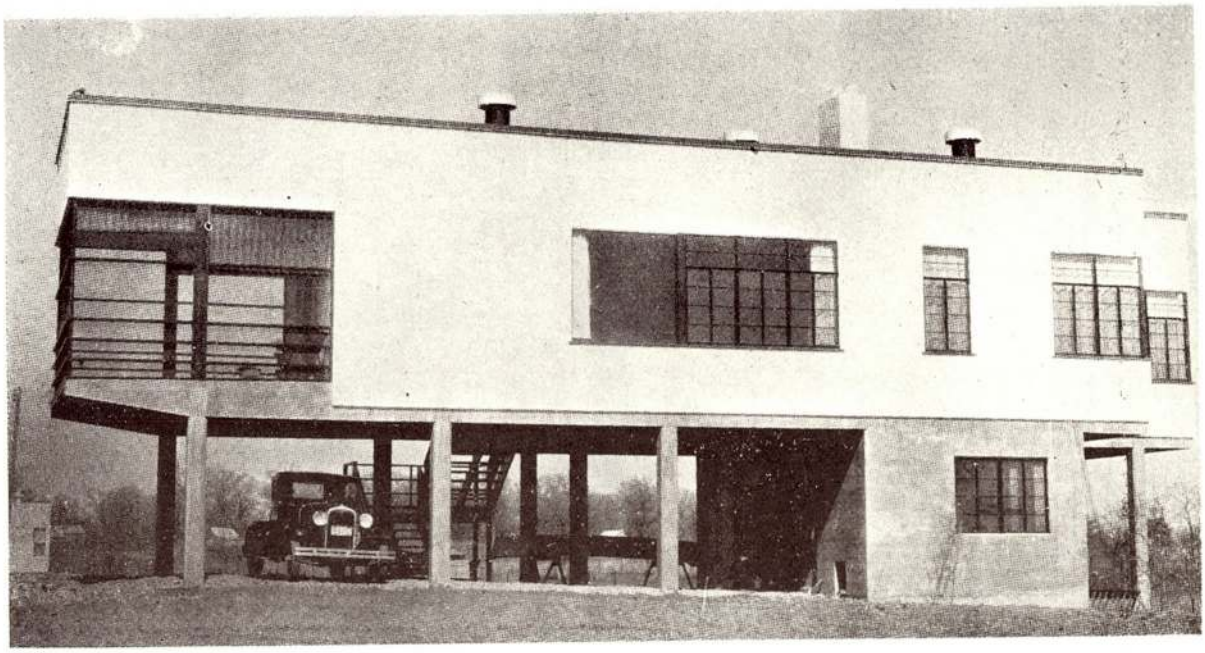
外　觀



1階ホール

（イギリス）Thurso House（ケムブリツヂ）

建築家 G. Checkley



外　　觀



居間兼食堂

コルビジエの所謂「住居機械」である。建物の機能を害することなく、安くせんが爲に全力を注いだ建物である。

骨組は鐵筋コンクリート造、外壁上部はスタッコ仕上。下部はコンクリート打放しである。

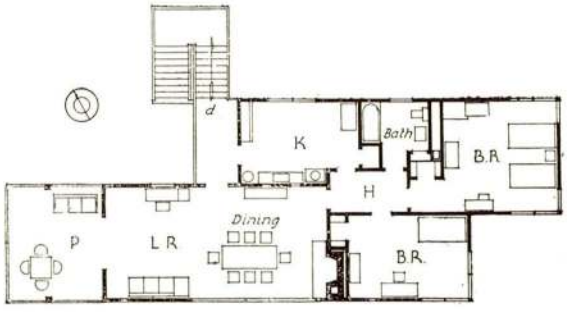
屋根の雨水は中央部に設けられた1本の管に依つて排出せられる。屋根と天井との間にスペイスを取り、熱の絶緣に利用して居る。

換氣は天井の換氣孔と屋根のベンチレーターに依つて良好に行はれて居る。　　工費　5,400弗

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



1階平面圖



2階平面圖

˅68　(アメリカ) Cross Lake の週末住宅

建築家　William B. Wiener

1950年になつても廃物にならぬと云ふ、Isokon 氏の計畫案の初めて實施されたものであつて(1)地下道のトンネルとトンネルの間に建てるため、(2)居室を西南に向けるため、(3)自動車通路を設けるため等の理由から、下圖(配置圖)の如く道路に斜に建物が配置されてゐる。

10輛を收容し得る車庫の部分は1階建でトンネルの上に建てられてゐるが、其他の部分はトンネルの上に建てる事を許されない。

22のフラットはウエルズ•コーツが1933年のドルランドホールの工藝界に出品した最小型そのまゝで、他に南端に4箇の2室のフラット、北端上階には3つのスタデイオ附フラットがある。

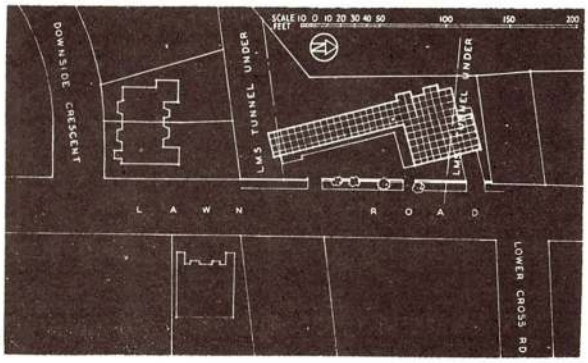
鐵筋コンクリート造、床主としてタイル張、外壁4″厚で内側に1″厚のコルク板を張り、外部着色防水セメント仕上、内部フラット間の間仕切は輕石コンクリートブロック2枚張、床下地も輕石コンクリートで防音に努めてある。

家具は抽出テーブル、寢臺のスプリング入マットレス、其上掛鏡及ガラス戸棚附洗面器等から電熱料理臺、冷藏庫、流し等までほとんど一切設付で、家賃£96乃至£170である。

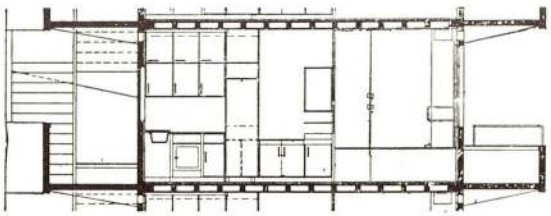
(Architectural Review 誌より 本多正道)

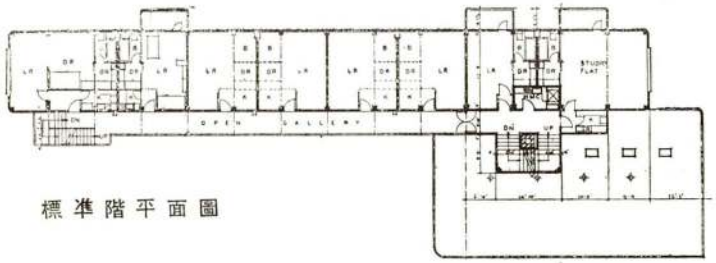


外觀

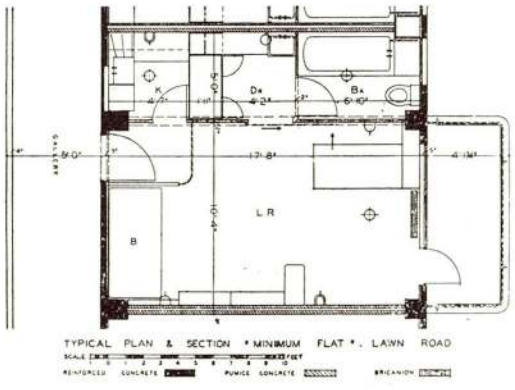


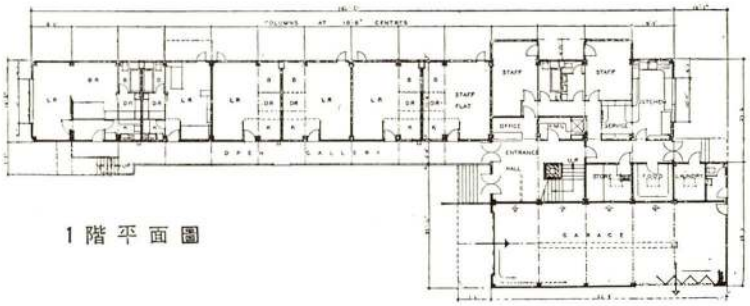
配置圖





標準階平面圖



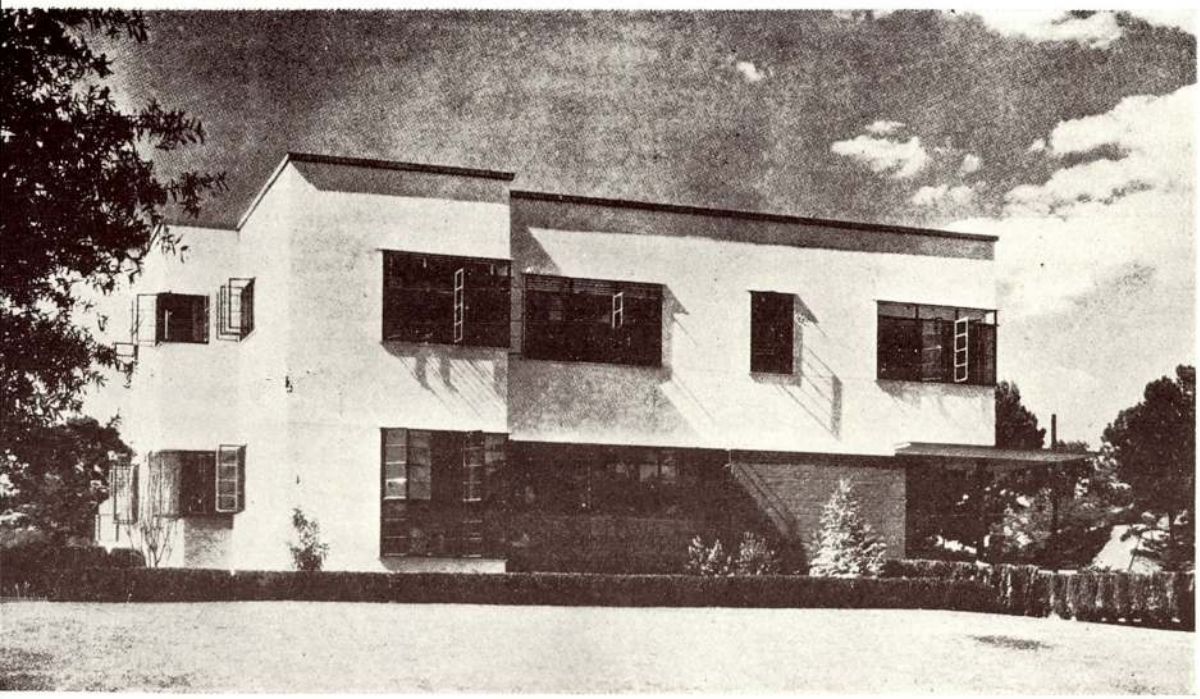


1階平面圖

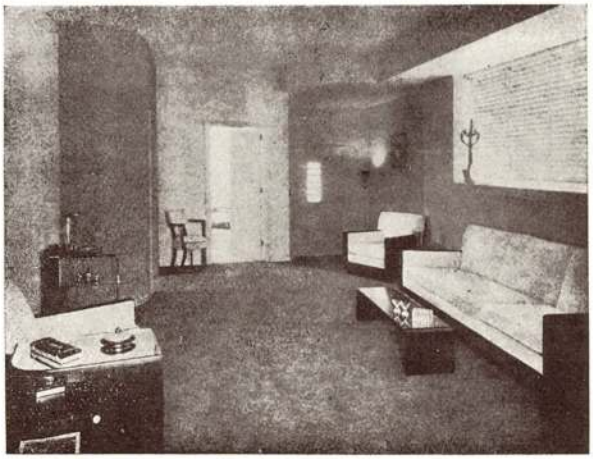
最小限型斷面及平面圖

(イギリス) Hampstead のアパートメント

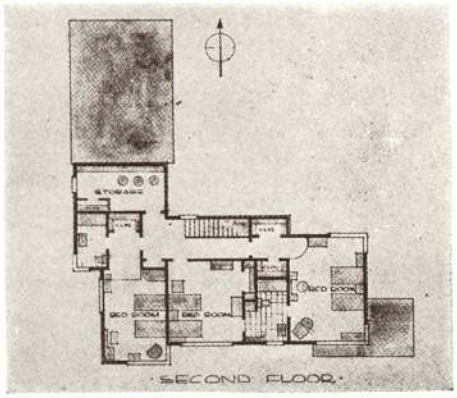
建築家 Wells Coates



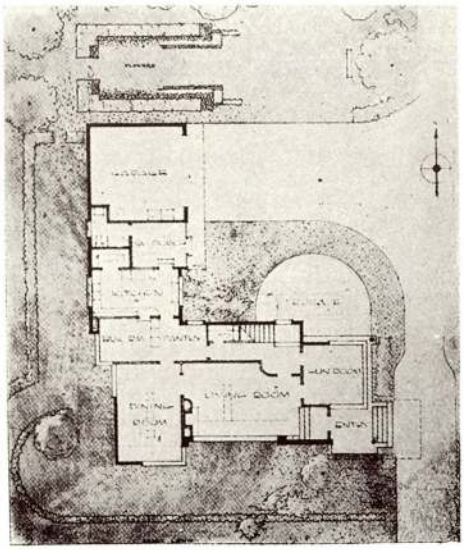
外　　觀



居間よりサンルームを望む



2階平面圖



1階平面圖

外壁は木造の上に木摺を打ち、フエルト、メタルラスを張つた上をスタツコ仕上にしたものである。龜裂を防ぐ爲に、ラスに取り附けた金屬の目地を以て十字形にスタツコを分割してエクスパンション・ヂヨイントの役目をなさしめた點が1つの特徴と言へやう。
屋根は天井梁の上に載せられた棰の上に野地板を打ち、その上に防水をした木造の陸屋根である。
床は大體木造ゴム・シート張、窓は木の框にスチール・サツシュ、黒色ペンキ塗、外壁は白色スタツコ仕上、一部煉瓦張。

（Architectural Record 誌より　新名種夫）

▽70　（アメリカ）Shreveport の住宅

建築家　Jones　外3氏



外　觀



2階主人寢室

必要にして過不足なき平面に從つて、その地方産の材料を主として施工されたもの。アメリカの地方色によく調和し、モダンであるが決して歐羅巴臭くない住宅である。

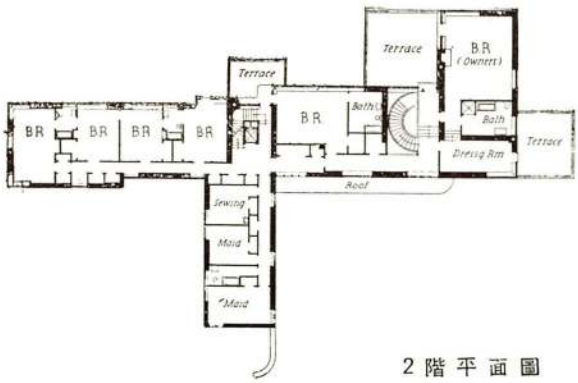
"Square Shadows"——方影莊——この住宅にふさはしい名前ではないか。

上圖は家族の居室側の外觀である。各室に殆んどテラスがあり充分日光を享樂することが出來る。外部は其地方産の石材と化粧煉瓦を使用し非常に明朗な感じを表はして居る。

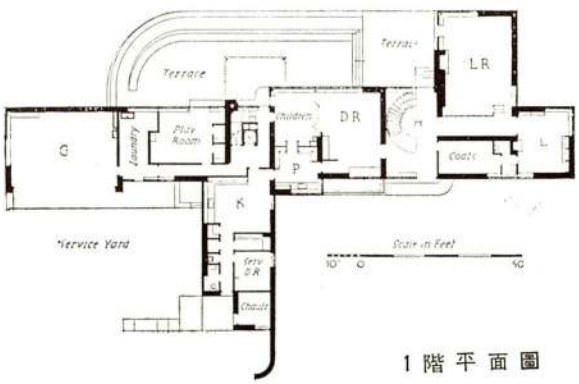
平面は導線の簡易を旨とし各室巧に配置せられて居る。

入口の側は壁面に窓を少くし秘密の保持に努めて居るが、唯パントリーの部分に角廻しの窓を取つて自動車や來客の見通しに便ならしめて居る。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



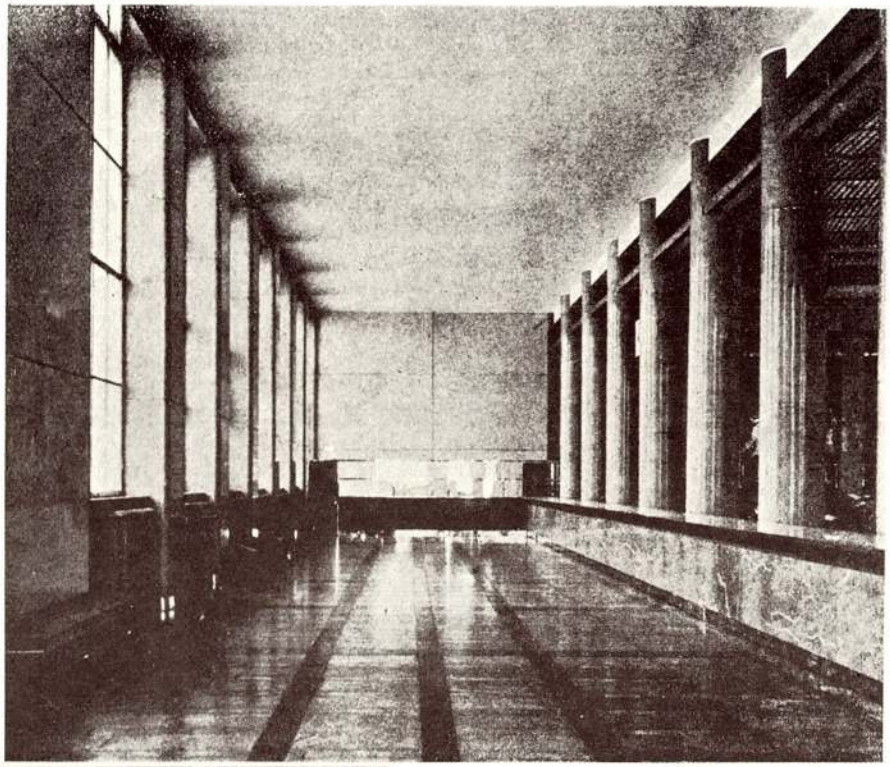
2階平面圖



1階平面圖

(アメリカ)住宅　"Square Shadows"

建築家　George Howe



銀行大廣間



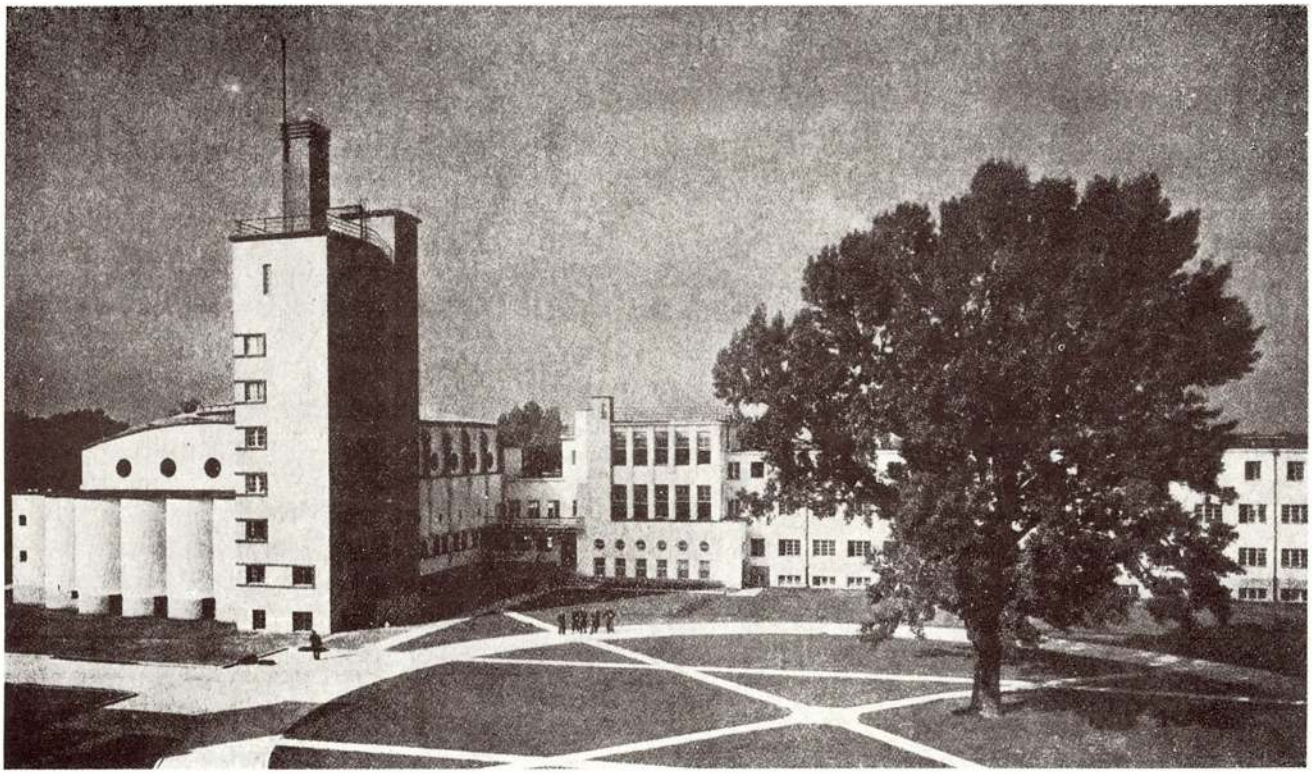
外觀

市街の角地に位し、主要道路に面した部分が他の部分より2階高くなつて居る。これは後部の增築に依つて將來擴張をする爲にも便であり、外觀もこの爲によくなつてゐる。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

˅72　(ポーランド) ワルソーの經濟銀行

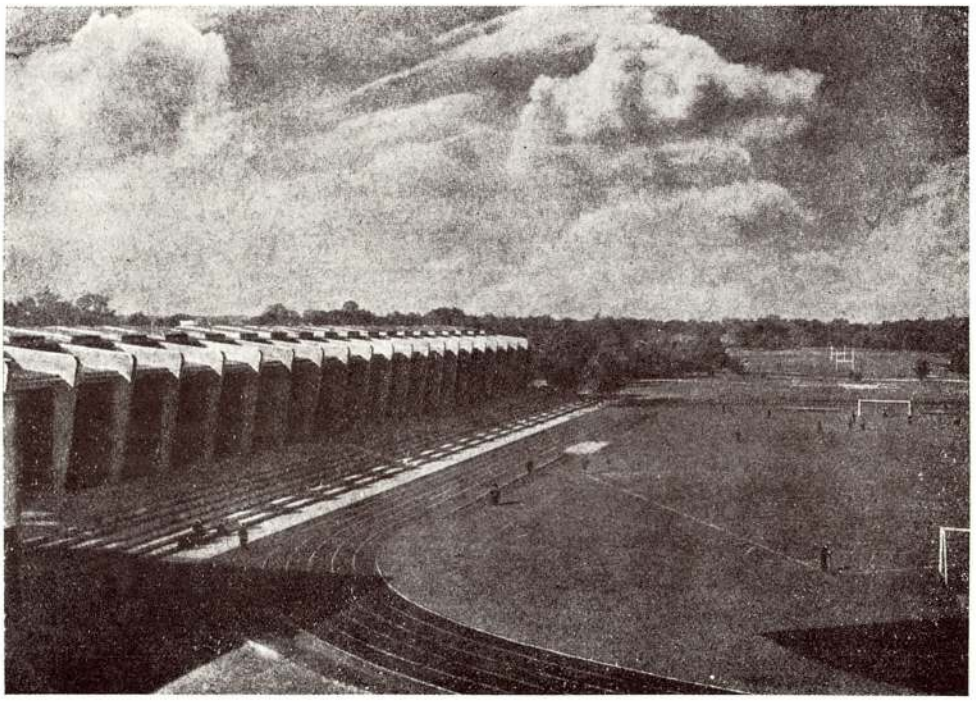
建築家 R. Swieazzinsky 教授



體育協會建築物外觀

前面の幾何圖形の通路がよく此の建物の剛堅な線と調和を保つて居る。廣大無邊の運動場とそれに向つて建てられた屋内運動場と。若きポーランドも運動競技の施設に事を缺かない。

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



運動場より屋内運動場を望む

（ポーランド）ワルソーの體育協會

建築家　E. Norwerth



内庭側外観

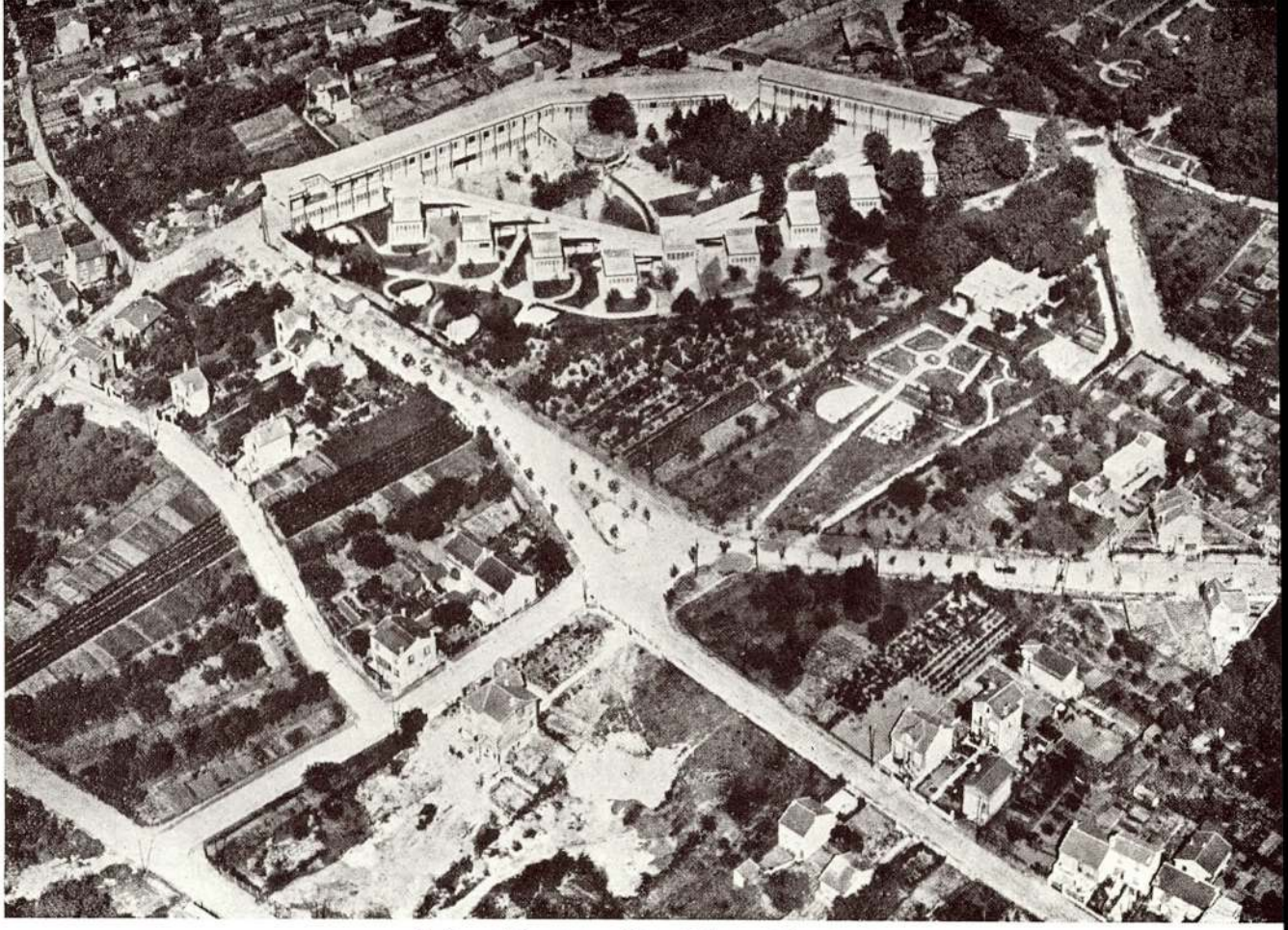


外　観

嘗てフランスの影響を多分に受けて居たポーランドの建築であつたが、最近では餘程ドイツ風に傾いて居る。この集合住宅もその1例としてチユートン民族の生眞自目さをよく表はして居る。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

˅74　(ポーランド) ワルソーの勤勞者集合住宅　建築家 J. Szanajca



繁茂せる樹木・芝生・植込・彎曲せる小路・瀧・水
邊が新屋外學校の周圍にくつきりと浮んでゐる。

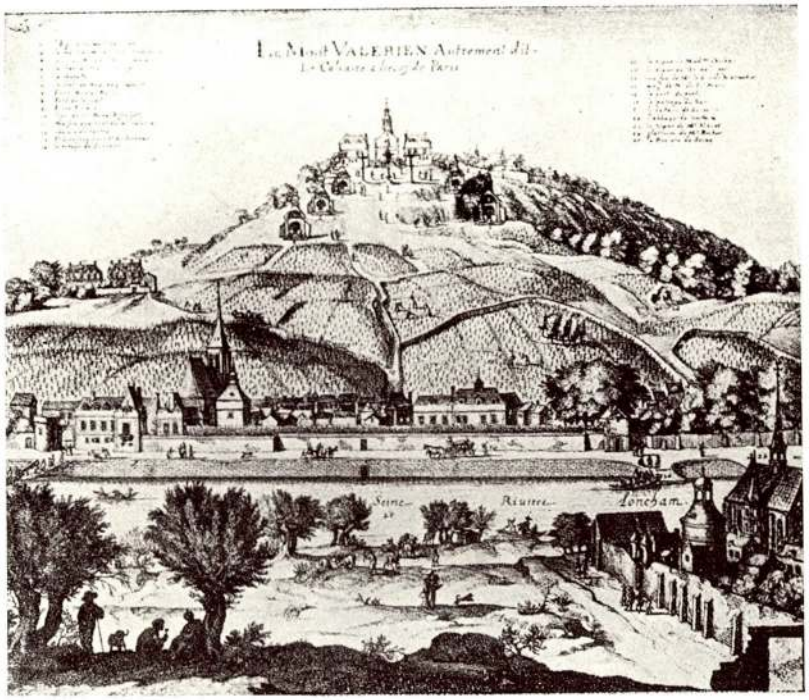
SURESNES

フランス雜誌 "Urbanisme" の本年1月號は、パリー西方の一都市 Suresnes の記述で終つてゐる。數葉の寫眞と共にその緒言及び田園都市と題する小記述の紹介を試みたい。

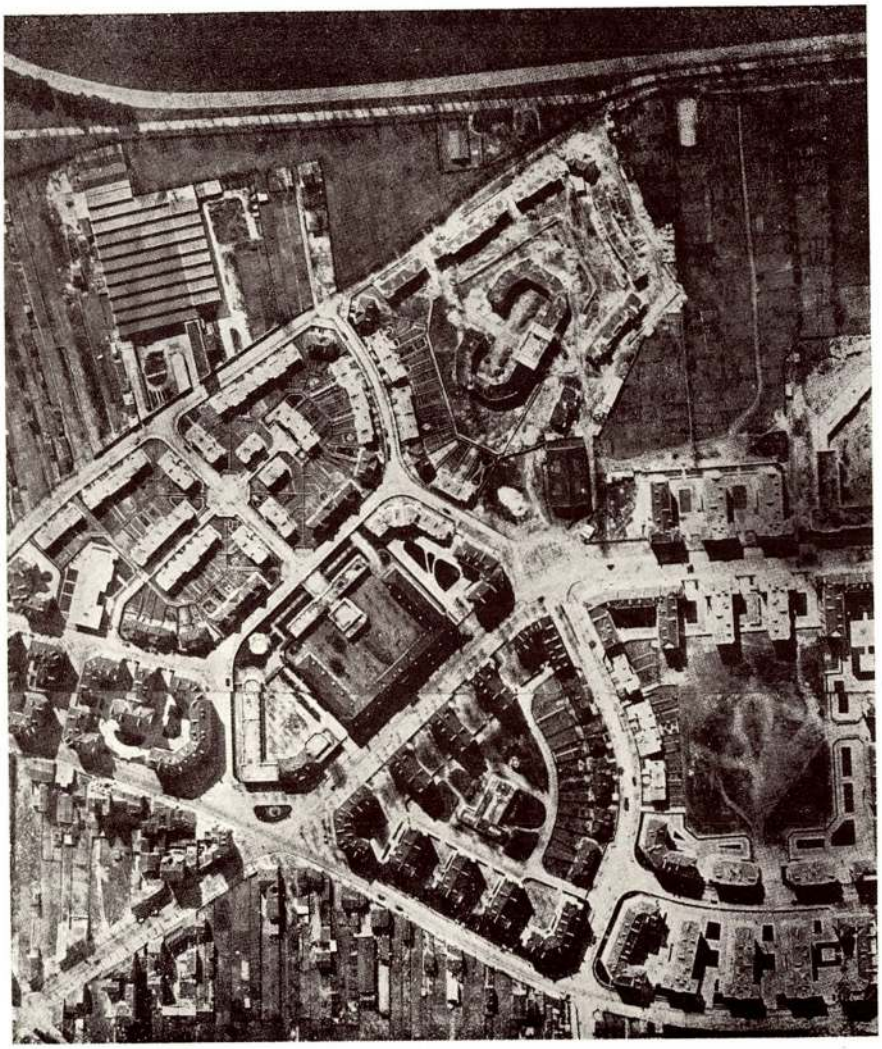
緒　　論

都市計畫理論適用の結果を文章及び挿繪として世に公にすることの出來る一發達過程にある一小都市を撰決するに適當な機會が遂に訪れた。即ち、今茲に、パリーの西方に位する Suresnes をその適例として擧げたとしても、あながち旅行案內書的に廣告する意圖とはならないであらうと信ずる。その最も古い最も氣持のよい景觀、その葡萄園、子供に對する施設、山岳、特權的位置は、在職15箇年に及ぶ名市長、都市計畫及び市行政の權威者 Henri Sellier 氏の手腕と相俟つて、典型的な標本を我我に示して呉れるのである。即ち、その位置とその人口とから來る理由で、パリーの郊外の多くの町々が陷つた混亂から救はれ、大戰後最初の司法官として縣會にあつて熱心に研究すること10餘年、而も實行主義を尊ぶこの市長を得た故に、我我が古來の都市になし得べき最善の事項を、この Suresnes に於て發見することが出來るのである。

處女地に適用して純粹なる創造が行はれる都市の新計畫は、圖面上の計畫を直に地上に移し得る充分廣さをもつた平坦なる原野の提供を要求するが、古來の都市、旣に家屋の充滿せる都市の改造計畫は、常に概括的な考察と兩立し難い細心の注意を要求する。先天的原則を行ふことを得ず、而も相對的經過に進むために與へられた現實から出發する。これには技術家と怜悧なる支配者との協力を是非必要とする。Suresnes は、一般の規模に於て變態することなく、幾千の細部に於ては制度整理の結果、堅忍不拔の都市計畫家の憂慮の痕を止めてゐる。



Mont Valérien の山頂。この起源は實に古く、他の多くの場所と同様〝聖地〟として建設された。



田園都市の一部。中央部の2區劃は最初に建てられた家屋及びそれらと同時に建てられた學校。この上部には養老院があり、住家はその右側第2の學校の周圍に續いてゐる。そして、第2の學校の建設中の壁が寫眞の端に見える

我我は Suresnes を能ふ限り外國人にも紹介し度いとの念願から、本月號をその專門の特輯號としたのである。事實、パリーの美事なる都市美を眺めに、遙々遠方より來訪する人があつても、そのついでに Suresnes に足を延ばす訪問者は殆どない。我我はパリーに對する彼等の賞賛を見聞くに及び、Suresnes を紹介して得る喜びを隱匿する方法を知ならいのである。

田　園　都　市

Suresnes の田園都市は市會の發案になれるものでない。歐洲大戰後、入念に作製せられた一般的プログラムに從つて、セーヌ縣の住居事務局は縣會と協力して、Saint-Cloud と Mont Valérien との間に横たはる Fouilleuse の舊帝室農場地に、完全なる都市の計畫を下したのである。當時1平方米に就き6フランの平均地價で、420,000平方米の土地を先づ買收し、整理の一般計畫は建築家 Maitrasse 氏に依託した。Maitrasse 氏は茲に於て10年間に 10,000人を包容し得る8個の新しい實用的都市の建設に從事し、家族の範疇を、何等資產なき勞働者より、工場の參謀部に屬する技師、學者までと定めた。都市全體は現在都市生活に必要なる衛生組織、教育組織、救護組織、運動組織を興味深く配され、都市の中央部は宗教建築物敷地として保存され、現にその一部は建築家 Dom Bellet 氏の指導の下に建設されつつある。

この都市の家屋は、數階建のものと獨立建のものとに分れ、中心軸に於て建築密度の高い中央街路は都市の商業中心を構成し、騒音などの室内に侵入するを防ぐため家屋は後退されてゐる。この賃價住宅は最小限3個の寢室よりなり、集合住宅には大食堂、臺所が附屬してゐる。室料は1家族當り 1,080乃至 2,100フランの賃價であるが、家族の人數その他により、この半額迄扶助し得るやう、法律を以て定められてゐる。

この集合體には、完備せる學校・共同洗濯場・浴場・灌水浴場の他、中央衛生所・育兒相談所・小兒養育所・1,500人を收容し得る宴會場・小兒遊園地があり、現在住宅約1,000戸、集合家族住宅よりも獨立家屋の方數多く、目下建設中の900戸も日ならずして完成の筈である。

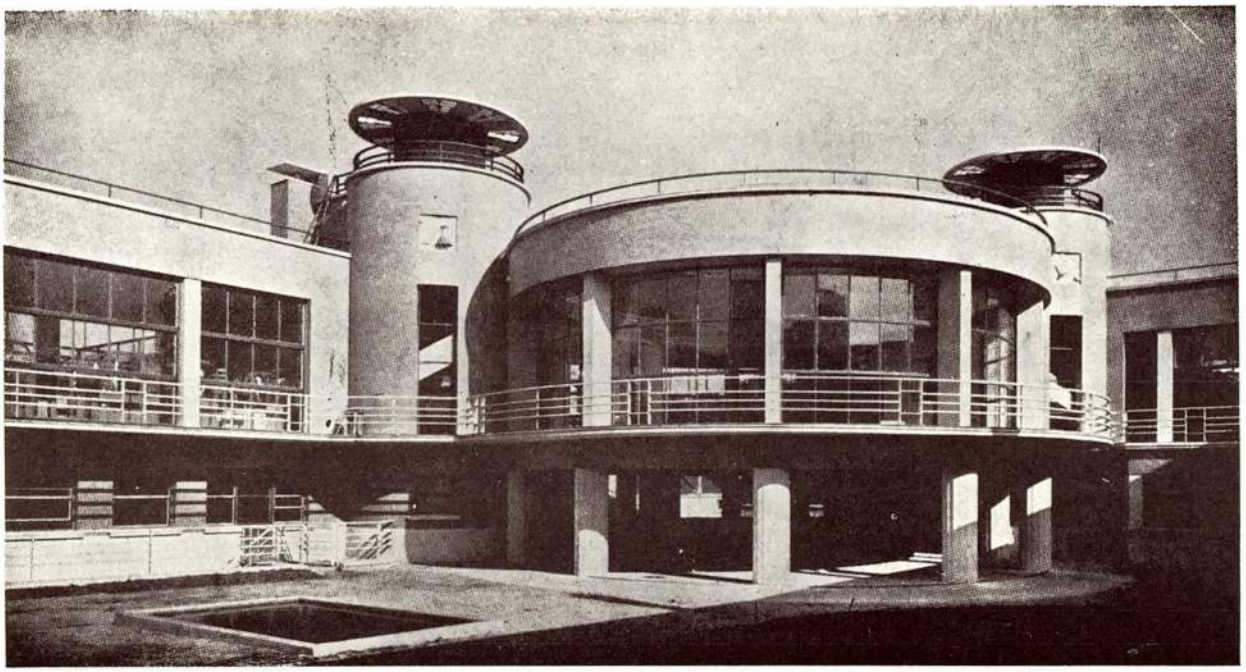
(Urbanisme 誌より 吉田信武)



子供の教育と衛生とを同時に保證し得る明朗なる屋外學校



田園都市建築物全景



學校。階段室の前に突き出した大娯樂室。階下は屋内運動場、階上に廻れる廻廊は物見臺の用をもなす。



會員　大林賢四郎氏

會員大林賢四郎氏昭和10年３月31日病を以て逝去せらるに哀悼に堪へず茲に照肖と略歴を掲げ謹みて弔意を表す。

氏は明治18年11月７日福島縣三春町の著名なる國學者藤泉榮氏の三男として生る　明治44年７月東京帝國大學建築學科を卒業直ちに大林組に入社

大正３年４月大林芳五郎氏長女房子氏の婿として大林家に入る　大正７年12月　大林組の組織を株式會社に變更と同時に常務取締役に就任　大正10年8 月土木建築業視察の爲米國に出張、同12月歸朝大正13年12月株式會社大林組副社長に就任　昭和6 年10月内外木材工藝株式會社取締役に就任　昭和７年６月株式會社大林農場取締役に就任したり日常業務に對しては頗る周到、熱心にして傍ら寸暇を割きて俳句を樂しみ松瀬青々氏の愛弟子たり又茶道を好み、故事歷史に通じ、古陶器の鑑識には一家を爲せり。

家族は房子未亡人の外二男二女あり。享年51歲

噫　同窓大林君逝く

富士岡重一

學友大林賢四郎君の死を痛惜するものは自分一人のみでは勿論あるものではないが自分としては人一倍惜まれるのである、それは同君は此の大阪に於ける、と云ふよりも關西に於ける唯一人の同窓の友であつたからである、自分の同窓生は明治44年東大卒業のものであつてその當時は11名であつた、それが同君と自分との以外は今は全部東都に在住して居るのであつて關西勢は實に此の二人きりであつた、それが此度同君の死によつて自分一人の孤獨になつたと云ふことは同君の死を惜むと共に實に寂しい限りである。このたつた二人の同窓の友でありながら、日頃はあまり逢ふ機會が少なかつたのである、同業に携つて居る關係上何等かの機會に逢遇すべきだが、出る方面が少しちがつてるのかあまり同君と同席する會合はないと云つてもよい位である、尤も同君はあまり僕等が出かける樣な會合には顏を出されぬ樣だつた、市の關係の會とか、或は建築協會關係のものとかにそれほど同君は同君の社務用に急がしかつたのであらう、專心社務に盡されたのであつたと思ふ。自分が同君を訪づれて面談する時は大抵人を君の社に採用方をたのみに行く位の用件である、その折は用談後他の同輩の噂をなし、お互に昔の學生時代の話しをし合ふのであつた。自分が大阪の地に來たのは七年程前である、それまでは學校卒業以來殆んど逢ふ機會がなかつた、こちらに來る事についても自分は先づ第一に同君に相談した事があつたのである、そして此地に來たのも實は同君の意見の一端を容れたものであつた、そう云ふ風に自分は同君をたよつて居た、然るに自分は同君に對して何の役にも立つものではなかつた。

卒業後十數年來の久し振りに逢つた同君は學生時代とは大分變つて居た、それは物ごし、言葉使ひ極めていんぎん丁寧を極めた事だつた、環境により斯くは然らしむるのだなと感じたのであつたあのごつごつした東北辯が柔かな大阪辯に入れかはつてあつた、腰の低い柔かな態度は、傲岸だつた學生時代の風貌とは打つてかはつた感がするのであつた、人なきが如きあの學生時代の覇氣はやがては日常の用務の一端にそのひらめきを現はしたとの話しであるが自分は同君の近來逢つた時のあの柔かな物ごしが學生時代より、より懷しみを持たれるのである。

會　　報

市街地建築物法令改正に關する講演會

時　　3月20日午後6時30分ー10時
所　　建築倶樂部
出席者　鮎川豐三郎氏外 120 名

1 午後 6 時30分松井副會長開會を宣し本夕は今回市街地建築物法令の一部が改正發布なりましたに付て豫て御通知申上ました通會員の方々により御說明を願ふことは有意義のことと存じますので只今より其御講演を始むる旨を述べ下記順序に講演あり

市街地建築物法令及大阪府細則に就いて
大阪府技師　玉置豊次郎氏
大阪府技師　松井清之助氏

同　京都府細則に就いて
京都府技師　板井　公威氏

同　兵庫縣細則に就いて
兵庫縣技師　鳥井　捨藏氏
兵庫縣技師　本田　林八氏

右終つて質問應答あり後松井副會長より講演者に對し謝辭を述べ一同拍手を以て謝意を表し散會せり

設備委員會（第4回）

時　　3月29日午後6時50分—9時20分
所　　建築材料陳列場
出席者　幹事　增井
委員　神谷　竹内　田中　塙　村田

1 午後 6 時50分增井幹事座長となり開會
1 建築設備工事は近年益々重要度を增し量に於て又質に於て輕視すべからざる狀態なるを以て當委員會にて今後設備工事に於て施工監督上特に留意すべき點に就て研究せんとす
1 研究を要する題材は廣範圍に亘るを以て左の如く大別し一項目毎に數回委員會を開き研究を纏めること

(1) 衛生設備工事
給水、給湯
排水
排氣
淨化裝置
衛生器具

(2) 暖房及換氣
暖爐、ラヂエーター、ボイラー
蒸氣暖房
溫水暖房
溫氣暖房
換氣法、ダクト
空氣洗滌器、冷房裝置

(3) 電氣及電燈設備工事
屋內配線
信號通信裝置
變電、蓄電器室
電燈照明

(4) 消火設備工事
(5) 機械設備工事
昇降機
運搬機械

(6) 瓦斯設備

都市武裝促進委員會部長會議（第1回）

時　　3月29日午後6時50分—9時20分
所　　建築倶樂部別室
出席者　副委員長　波江
總務部長　中澤
調査部長　鳥井
宣傳部長代幹事　本多
演習部長
研究部長代幹事　池田
會計部長　清水

1 午後 6 時50分波江副委員長座長となり開會下記事項に付協議せり
1 映畫脚本懸賞募集に關し都市武裝映畫費支出の件
1 演習部長要求に係る謝禮に關する件
1 總務部長報告に係る建議書に關する件
1 演習部長辭退、宣傳部長逝去に付補缺の件
1 各部會開催に關する件

常務會（第7回）

時　　4月1日午後6時30分—7時30分
所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　松井副會長
監事　澁谷監事
常務　伊藤主記　北垣主記　清水主計
谷　主計　岡田編輯　新名編輯
三浦編輯

議　　事

1 都市計畫委員會より要求に係る阿倍野橋附近改造に關する懸賞募集及賞金支出の件……保留
2 都市計畫委員會より建議に係る大阪都市計畫防火地區大擴張案に關する件……保留
3 春季大會委員會開催の件……可決
4 木材市場品規格調査委員會委員の件…再調保留
5 始政40周年記念臺灣博覽會開催に關し出品方依頼の件……保留
6 アスファルトに關する講演會開催の件……可決
7 會員詮衡

報　　告

1 建築材料陳列場幹事長交迭報告
1 南海地動研究所現況報告
1 日本土木建築請負業聯合會より防火建築振興に關する建議案報告

都市計畫委員會（第3回）

時　　4月2日午後6時40分—8時
所　　建築倶樂部
出席者　委員長　鳥井
　　幹　事　吉田
　　委　員　國藤

1 午後6時40分鳥井委員長座長となり開會
1 大阪都市計畫防火地區大擴張案に關する件に付會長より當委員長宛附託ありしも下記の如き意見にして其意味を會長に報告することに決定
1 曩に會長宛提出せる阿倍野橋附近改造に關する懸賞募集の件は會長不在の爲回答に不接次回委員會に回答を得て審議することゝす
都市計畫委員會意見略

住宅委員會（第4回）

時　　4月4日午後6時30分—7時
所　　建築材料陳列場
出席者　幹事　小川陽
　　委員　增山　黒澤　小林

1 本夕は委員長缺席にもあり又出席委員少數なるを以て研究を進めず次回委員會を來週木曜日開會することゝし委員長に諮り通知狀を發することに決定散會す

災害調査委員會（第13回）

時　　4月4日午後7時—8時30分
所　　建築倶樂部
出席者　委員　三浦　本多　松井　山口　内藤

1 山口委員より擔當の新聞紙切抜を貼付したるもの19册提出あり協會に保管す
1 淺野委員より擔當の鐵筋コンクリート煙突に關する論文提出あり
1 松井委員より各種統計を本委員會に提出の旨發表さる
1 本日は出席委員少數に付次回に更めて協議進行することゝし解散す

法制委員會（第3回）

時　　4月5日午後7時—8時
所　　建築倶樂部
出席者　委員長　津田
　　委　員　石川　山口　矢崎

1 本夕は出席委員少數の爲研究を進めず意見の交換を爲し散會したり

法制委員會（第4回）

時　　4月17日午後7時—10時
所　　建築倶樂部
出席者　幹事　坪井　王置
　　委員　三浦　山口　矢崎

1 午後7時坪井幹事座長となり開會
1 前年度に於て材料委員會と協議事項となりたる瓦の研究事項は法制委員會に於て大體の方針決定せしも材料委員會に於て其の後の經過方針決定せるや否やを照會し改めて打合せをなすことに決定
1 判決例の調査に付ては石川委員に御願ひすること
1 代願人取締規則の件は再檢討すること
1 前年度繼續事業として外國建築法規の研究をなす爲分科會を設置することゝなり其の人選は玉置委員に一任次回委員會に報告を受け會長に手續をなすこと

春季大會委員會（第1回）

時　　4日5日午後6時30分—8時
所　　建築倶樂部別室
出席者　委員長　副會長　松井
　　委　員　木村
　　主　記　伊藤　池田　北垣　中澤
　　編　輯　島田

1 午後6時30分松井副會長座長となり開會

1 松井副會長より本年度春季大會擧行に付常務會の意見及先例により理事の委員長となることに付報告し委員の賛同を得て大會は次の通決定
(1) 見學旅行を行ふこと
(2) 見學先　談山神社方面
(3) 擧行月日　4月28日の日曜
1 尚見學先下調の爲北垣主記木村委員及西谷書記現地に出張することに決定
1 次回委員會を4月13日(土)に開き下調委員の報告により計畫を立つることゝし散會

材料委員會（第4回）

時　4月10日午後6時50分—10時
所　建築倶樂部別室
出席者　委員長　高橋
幹事　浦　松久保
委員　楠瀬　高岡　道田　吉本
來賓　日本建築紙工株式會社
技師　市川　良正氏
同　大阪支店員
宮地　末吉氏

1 午後6時50分高橋委員長座長となり開會
1 高橋委員長より本夕はアスファルトに關し之が規格を成案する希望より其根底を作りたく權威者の市川氏の御出席を願ひ幸ひ御快諾を得て此處に御出席ありとて同氏を紹介し次で同氏のアスファルトに付常識的事項より説明を聞き質問しつゝ研究を進めたり(別紙速記參照)

教化委員會（第3回）

時　4月11日午後6時40分—8時10分
所　建築材料陳列場
出席者　幹事　篠原
委員　伊東　永澤　中野　堀口

1 小學校建築相談所の規定を起草すること（篠原委員に依囑）
1 各學校卒業計畫並に住宅設計、會員作品展覽會開催に關する計畫立案すること（中野委員に依囑
右參考材料として建築學會主催の建築展覽會の實施方法(西谷書記に依囑)及京大展覽會の實施方法(伊東委員に依囑)を照會すること
1 高等小學校工業科の教科内容を次回迄に調査報告のこと(高木、篠原兩委員に依囑)

災害强度委員會（第3回）

時　4月11日午後6時40分—8時
所　建築倶樂部
出席者　幹事　黒田
委員　中島　三浦　矢田　淺野　堀田
園部　山田

1 午後6時40分黒田幹事座長となり開會
1 大阪市地盤昇降運動に關する調査結果を南海地動研究所より貰ふこと
1 碎石を粗骨材とせるコンクリートの强度試驗を實施して混凝土用材料に對する研究の一部とすること
1 防水劑入コンクリートの强度試驗に關し材料委員會に問合はし更に研究すること
1 府廳所有寫眞燒增の件取調べのこと

設備委員會（第5回）

時　4月12日午後6時30分—9時
所　建築倶樂部
出席者　幹事　增井
委員　神谷　竹内　田中　村田

1 午後6時30分增井幹事座長となり開會
1 前回に引續き項目に從ひ各委員研究を持寄り座談の形式にて意見の交換をなす
1 尚各項に付夫々の業者又は研究者を臨時に委員會に參加を乞ひて共に建築工事としての立場より研究する事とす

春季大會委員會（第2回）

時　4月13日午後6時—7時30分
所　建築倶樂部別室
出席者　委員長　松井
委員　木村　佐藤　柴田
監事　岡部
主記　伊藤　北垣　中澤
編輯　島田

1 午後6時松井委員長座長となり開會
1 現地下調委員北垣主記及木村委員より交々調査報告あり
1 次で協議に入り先づ
(1) コースに付協議し櫻井驛より途中聖林寺に立寄り見學晝食を了し再度自動車に乘り談山神社に向ふことに決定
(2) 豫算に付協議原案の通可決
(3) 會費に付凝議の結果金參圓と決定
1 次で通知案文に付議し可決

常務會（第8回）

時　4月15日午後6時20分—7時30分

所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　武田副會長　松井副會長
常務　伊藤主記　池田主記　中澤主記
伊東主計　清水主計　谷　主計
岡田編輯　新名編輯　島田編輯
三浦編輯

議　　事

1 都市計畫委員會より建議に係る大阪都市計畫防火地區大擴張に關する件……委員會附託
1 同委員會より要求に係る阿倍野橋附近改造に關する懸賞募集の件……保留
1 木村市場品規格調査委員會委員の件……可決
1 雜誌交換に關する件……可決
1 會員詮衡

報　　告

1 春季大會準備報告

都市計畫委員會（第4回）

時　　4月16日午後7時—8時10分
所　　建築倶樂部
出席者　委員長　鳥井
委　員　福知

1 午後7時開會
1 大阪都市計畫防火地區大擴張案に關する件
本件は原案作成方當委員會に附託に付協議の結果次回當委員會迄に原案作成のことに決定せり
1 阿倍野橋附近改造に關する懸賞募集の件
本件は曩に會長に報告したる處4月15日常務會に於て財源を考慮したる上實行することに決議の由に付時期を俟つことに決定
1 阿倍野橋附近の整理必要に付意見を交換して解散せり

材料委員會（第5回）

時　　4月17日午後7時—9時30分
所　　建築材料陳列場
出席者　幹事　浦　松久保
委員　高岡　道田　吉本
1 午後7時浦幹事座長となり開會
1 前回委員會に於て研究中のアスファルトに付研究を進め結果次回委員會には再度專門家の出席を求め座談的研究會を開催すること
1 專門家は左記に交渉すること

小倉石油株式會社大阪出張所又は工英社

1 前回の如く會誌に會告するの件を委員長に意見を聞くこと

住宅委員會（第5回）

時　　4月18日午後6時40　—8時30分
所　　建築材料陳列場
出席者　委員長　葛野
幹　事　小川陽　小川安
委員　岡本　木村　黒澤　塚本　長谷部
本間　松本　增山　本野
1 午後6時40分葛野委員長座長となり開會
1 委員長に於て前回委員會の研究記事に付朗讀し誤記其他に修正を加へたり
1 次て前回に引續き研究を進め下記事項に付檢討研究をなす
(1) 通風
(2) 湯殿
(3) 便所
以上は和風住宅を中心として研究し次で洋風住宅に移る
(4) 床
(5) 敷物
1 次回委員會には壁より研究をなすこととし本野委員の報告を聽く
本野委員は國民衛生なる册子より要領朗讀何れ著者の諒解を得て拔萃報告する筈

（本委員會の要領速記は增山委員擔當）

會員動靜

入會者

會員

河野　貞嘉君　東區豊後町28（陸軍造兵廠大阪工廠技術課建築係）
進木孝太郎君　北區神山町33（進木組大阪支店長）
野澤　勉君　普通賛助員より變格

地方會員

藤本芳五郎君　東京市大森區新井宿3ノ1339（進木組建築部主任）

特別賛助員

上田豊太郎君　港區九條南通1ノ109（防水材料製造業）

普通賛助員

大庭　政雄君　大連市日吉町一番地竹村方（南滿洲鐵道株式會社）
尾辻　正巳君　兵庫縣川邊郡小田村杭瀨堂後19（兵庫縣小田村役場土木課）
河村利一郎君　堺市戎之町東一丁菅原神社境内（神代工務店自營）
國枝　幸男君　神戸市兵庫區松本通5丁目2ノ1
平山　琴治君　府下三島郡吹田町1068山本直方（大阪府警察部建築課）
森本　三次君　大牟田市榮町14三池土木株式會社内
西田　義雄君　岐阜縣不破郡垂井町富田菊次郎方（大日本紡績垂井工場）
播野安兵衛君　神戸市須磨區櫻木町1ノ33(大阪電氣商會大阪暖房商會)
保田　稔男君　北區兎我野町58(中西建築事務所)

退　會　者

會　員

岡部　眞則君

特別賛助員

友野　長雄君

普通賛助員

布施　彦次君　永田　鼎三君

轉　居　轉　勤

會　員

池田　忠治君　東區伏見町2ノ21伏見町ビル3階31號
山中　茂一君　府下泉北郡和泉町伯太
杉田新五郎君　富山縣下新川郡内山村字奈月日電社宅(日本電力株式會社)
山田　英男君　愛媛縣新居郡新居濱町中須賀甲1304ノ2
關屋　正知君　廣島市大手町8ノ117
鈴木　一君　岡山市上之町74三和銀行建築場
横野　美國君　神戸市須磨區磯馴町1ノ38(西宮市役所)
矢野　義夫君　東區德井町2ノ30
岡　肇君　神戸市神戸區北長狹通4丁目29ノ2
木村　俊男君　東京市淀橋區角筈1丁目住友銀行新宿支店建築場
田中　四郎君　兵庫縣加古郡加古川町寺家町136ノ4小谷仙藏方
布袋　國雄君　和歌山市6番町5ノ5（住友銀行建築場）

地方會員

瀧野鞆太郎君　岡山市内田本町238
小林　一夫君　神奈川縣三浦郡葉山町堀内532(葉山町一色小田邸建築場)
柿本　清治君　浪速區元町5ノ513
澤島英太郎君　東京市世田谷區代田2ノ681

普通賛助員

田中　功君　安東縣滿洲街中富街福昌公司出張所
池田雅一郎君　住吉區平野濱町3ノ5（日本エクセレート合資會社）
大鳥居　正君　京都市下京區大宮通佛光寺下ル合資會社大鳥居工業所
增本　榮六君　岡山市下之町天滿屋百貨店建築場竹中工務店出張所
佐々木義夫君　京都市下京區東洞院通五條上ル京都中央電話局下分局新築場大林組作業所
桝谷健次郎君　新京梅ヶ枝町4ノ18井上高田組内
南　廣吉君　京都市上京區加茂玄以町42
龜尾萬太郎君　北區曾根崎上2ノ24瀧華一良方
藤平　正夫君　東京市大森區大森2ノ815

改　名

神谷　新一君（舊名光彦）

死　亡

會　員　水上　昌三君（昭和10年3月28日逝去）
中根　龜一君(昭和10年3月30日逝去)
大林賢四郎君（昭和10年3月31日逝去）
特別賛助員　宮川總三郎君(昭和10年4月3日逝去)
（謹んで哀悼の意を表す）

社團法人 日本建築協會役員及委員（昭和十年）

役員

常務會（定例日 第一第三月曜日）

會長	片岡安
副會長	武田五一
副會長	松井貴太郎
監事	岡部顯則
監事	澁谷五郎
主記	伊藤和夫
主記	池田宮彥
主記	北垣熊之介
主記	中澤誠一郎
主記	保田虎太郎
主計	伊東宗太郎
主計	清水榮二
主計	谷隆夫
編輯	岡田孝男
編輯	新名種夫
編輯	島田良馨
編輯	三浦尙史

評議員會

評議員	今林彥太郎
同	伊藤和夫
同	伊東宗太郎
同	池田宮彥
同	岡田孝男
同	大倉三郎
同	片岡安
同	加藤善吉
同	河合貞一郎
同	北垣熊之介
同	國藤武
同	兒玉廣太郎
同	佐野俊三
同	酒井勇三郎
同	作間日出生
同	清水榮二
同	新名種夫
同	白石登喜男
同	島田良馨
同	志岐善吉
同	鈴木金太郎
同	園部泰文
同	武田五一
同	高橋榮治
同	玉置豊次郎
同	谷隆夫
同	瀧澤眞弓
同	鳥井信
同	中澤誠一郎
同	平塚鉰吉
同	藤本賢太郎
同	本間乙彥
同	松井貴太郎
同	松久保敬三
同	牧野忠
同	松井清之助
同	三浦尙史
同	矢田鐵藏
同	山田誠
同	山口久五郎
同	保田虎太郎
同	渡部圭吾
同	渡實幸

建築材料陳列場幹事會（定例日 第二木曜日）

幹事長	岡部顯則
幹事	伊東宗太郎
同	浦英之助
同	北垣熊之介
同	中西六郎
同	渡部圭吾

「建築と社會」編輯部會（定例日 第一木曜日）

編輯部員	桐本楠雅
同	東畑謙三
同	中西六郎
同	內藤亮一
同	本多正道
同	吉田信武
同	和田登

「建築學研究」編輯委員會

委員	伊東恒治
同	新名種夫
同	武田五一
同	瀧澤眞弓
同	棚橋諒
同	坂靜雄
同	藤井厚二
同	吉田信武
同	橫山尊雄
同	森田慶一

委員

都市計畫委員會（定例日 第一第三、火曜日）

委員長	鳥井信
幹事	加藤善吉
同	吉田信武
委員	喜多村義雄
同	國藤武
同	椎原兵市
同	福知秀夫
同	福富正治
同	山下國太郎

法制委員會（定例日 第一第三、水曜日）

委員長	津田敏雄
幹事	玉置豊次郎
同	坪井誠一
委員	石川篤三
同	白石登喜男
同	內藤亮一
同	三浦茂
同	宮脇晴美
同	山口久五郎
同	矢崎高儀

教化委員會（定例日 第二、木曜日）

委員長	古宇田實
幹事	篠原太郎
委員	伊東恒治
同	酒井勇三郎
同	鈴木忠五郎
同	高木太作
同	永澤毅一
同	中野順次郎
同	姬野武
同	堀口甚吉

材料委員會（定例日 第一第三、水曜日）

委員長	高橋榮治
幹事	浦英之助
同	松久保敬三
委員	楠瀨徹生
同	作間日出一
同	境正吉
同	高岡與三

史美造藏郎誠吾治郎

同 尙晴大巖三
同 浦脇原田儀三
同 三宮水矢山口儀田
同 山渡部圭
同 託 竹内政太
同 野村安

建築會館委員會
（定例日 第四月曜日）

委員長 竹鈴木末健 造尾藏郎吉夫郎光郎
委幹事 腰木民
同 谷口芳三
同 阪井米
同 阪江悌
同 波澤誠一
同 中松室重三
同 山脇友

會員委員會
（定例日 第二月曜日）

委員長 富士岡重一郎
委幹事 今林彦太郎
同 酒井勇三
同 池田谷久三吉
同 大倉口一定二憲實
同 川籠田定郎
同 古宇田五郎
同 濕谷一郎
同 中澤誠儀八治
同 松本長
同 宮本
同 山脇友三郎

木材市場品規格調査委員會
（定例日 第二、第四、火曜日）

委員長 高橋榮治彥
委幹事 池田宮三
同 松久保敬之介
同 大阪材木商同業組合
同 北垣熊瀨激
同 楠澤研一
同 黑境正吉馨
同 阪井米一
同 島白川良雄
同 後志川蓬善
同 高岡與平三二吉郎
同 谷藤良義雄
同 丹野田勝太郎郎
同 松崎泰治
同 道吉田本

夫
委員長 波江悌夫茂一雅三郎
副委員長 波黑淺桐佐篠谷玉島中內松本多正

總務部

部長 一郎
部幹事 誠亮尙正
部委員 中澤藤西浦內中山
同 內中三山

財務部

部長 史城雄助藏
部幹事 安井武之
部委 浦井上福
同 井信武夫二雅

調査部

部長 鳥井信和一楠
部幹事 吉田藤口本
同 伊川桐

研究部

部長 竹腰健造助彥治弓藏雄
部幹事 松井清之
同 池宮恒眞捨尊
同 伊瀧鳥山
同 橫

宣傳部

部長 小笠原銅道男郎
部幹事 本多正孝
同 岡口芳三
同 阪原太郎

展覽部

部長 村野藤吾
部幹事 加藤善
同 玉置豐次

習演部

部長 竹腰健造助彥
部幹事 松井清之
同 池田宮

記錄部

部長 高橋榮治
部幹事 秋田名種
同 新計水榮二

災害調查委員會

委員長 波江悌夫茂一雅三郎夫郎藏喜一助道
委員 黑淺桐佐篠谷玉島中內松本多正
委幹事 境井田川川蓬善
同 阪井米良雄
同 島白川良雄
同 後志川蓬善
同 高岡與平三二吉郎雄
同 谷藤良義雄
同 丹野田勝太郎郎
同 松崎泰治
同 道吉田本

郎郎郎
太治次
平泰政
松田本
高道吉
同同同

災害强度委員會
（定例日 第二、木曜日）

第一分科

委員長 波江悌夫助世三文夫藏
委幹事 松井清之貞俊泰
委員 青佐園谷島井捨
第二分科
幹事 黑淺中堀三矢山田渡部圭 茂一喜郎史藏誠吾
同 田野島田浦田山 新智次猷尙鐵
同 野部隆

設備委員會
（定例日 第二、第四、金曜日）

委員長 小笠原銅次克一吉夫造彥信一
委幹事 末澤周
同 增井敏
同 神谷新善成直安
同 志竹岐內中村
同 田西塙村 小

住宅委員會
（定例日 第一、木曜日）

委員長 葛野壯一郎吉郎修郎一研造次吉彥平八三吾
委幹事 小川陽一
同 小川安
同 赤松
同 岡本新次寬
同 木村
同 黑澤
同 小林三猛銳乙新儀來精
同 塚本部間山本木野
同 長谷本增松三本

都市裝武促進委員會

委員長 池田實

編輯後記

▶4月21日午前6時2分（臺灣時刻）に臺灣未曾有の大震災があつた、臺灣中部殊に臺中・新竹兩州下の被害が最も甚大で家屋の倒壞人畜の死傷等多數にのぼり酸鼻を極めた。

▶臺灣の建築物に就ては京大藤井博士、東京工大谷口博士の研究、所說は傾聽に價するがこの實現を見ずして今回の慘禍に遇つたことは遺憾だ、臺灣在住の建築家諸君によつて夙に建築の改善は唱導されてはゐようがこの機會になほ一層の努力が望ましく吾々も亦その實現に後援に盡力を惜まないものである。

▶こんど本會に會員委員會が設置されて今その活動に入らんとしてゐる、この會の事業は會員の增加運動である、委員諸君の折角の努力で目的は達するであらうが一般會員諸君も自らこの增加運動に應援せられ、强力なる團體として一層社會奉仕の實を擧げ建築界の向上に資し我國文化の發達に寄與されんことを冀ふ。

▶本號は住宅特輯であるが在來と行方を替へ見る爲の寫眞を多くした、記事では松本氏、葛野氏、增山氏等の珠玉の文字及び和田氏外二氏の新進學徒のまだ續くであらう研究で飾つた、諸氏に深謝す。

▶來月號は鄉土建築の豫定であつたが都合で大株及大朝京都支局の兩建物を中心とする新建築號に變更した、この點鄉土建築の執筆者の方へ御諒恕を願ひたい。

▶本年になつて建築條令が所々變つたのでこれを機會に訂正增補して「第五版市街地建築物法令」として出してゐる、御希望の方は別項の廣告を參照して下さい。

建築と社會

第18輯第5號

毎月1回1日發行　定價　1册．50圓（郵稅2錢）　12册 6.00圓（同 24 錢）

昭和10年4月25日印刷　昭和10年5月1日發行

發行・編輯印刷人　鷹取陽

西宮市今津町津門字寶津605番地

印刷所　大阪活版所

大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　財團法人 日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長本局(23)4500番(6)

振替口座大阪 39975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋西

電話土佐堀 2440番

振替口座大阪 2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中插）	½頁	1回	20.00
表紙 2	1頁	1回	60.00
表紙 3	1頁	1回	45.00
表紙 4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5.00

御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

日本建築協會
創立滿十五年 記念出版

大阪市地質調査圖表

本會創立滿十五年記念出版の第二次として「大阪市地質調査圖表」を發刊したものである。
本書は本會常設の災害强度委員會が數年に亘つて苦心調査蒐集した資料を輯錄して一本に纒めたもので、他に同種の刊行物なく洵に斯界に於ける驚異的出版である。この出版に際して本會としては凡ゆる點に於て多大の犧牲を拂つたものであるが、しかも尙上梓したる所以のものは、土木建築關係者が計畫に當り常に必要缺くべからざるものであり、又容易に所要のものを調査し得ると云ふ實に簡便にして、斯界にとり稗益尠からざるものと信じたからである。
世の土木建築に關係ある諸賢へこの權威ある寶典を御薦めする次第である。

四六倍版　上質印刷紙　**定價 3.50 圓**　送料12錢
上製箱入　クロース裝幀　本協會員に限り 3.00圓

日本建築協會刊行

大阪・北區・朝日ビル
振替口座大阪 39975

賣捌 丸善本支店
柳々堂書店

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者
1・6	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社
2～4	ゼルソイドルーフキング	田島應用化學工業所
2～4	エターナイト	木下謹三商店
5	合板寄木フローリング	富士建築工藝株式會社
7	リノリユーム其他附屬品	東洋リノリユーム株式會社
8～9	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店
10	トラバーチン	金王石工所
11	ロールプラッグストップリーグ	ユニオントレーヂングコンパニー
12～14	アサヒライトSSSプラスターソリヂットスタイン	工材社
12～14	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
15	特許能美式自働火災警報裝置及消火裝置其他	合資會社能美商會
16	衛生器具	大阪城口研究所
17	衛生器具	株式會社須賀商會
18	衛生器具	西原衛生工業所
19	水洗便所ヨネフラッシュバルブ	米本榮商店
20～21	衛生陶器附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所
22	銅鐵製窓枠	榮造社大阪出張所
23	內裝用藥掛タイル	淡陶株式會社大阪支店
24	カールプラグ及カールエキスパンションボールト	合名會社小野邉三商店
25	タイル	山本窯業商店
26	各種タイルテラカッター	大阪窯業株式會社
27～28	テラカッター衛生陶器	大阪陶業株式會社
29	タイル	有田製陶所
30	洋家具裝飾	船木由松商店
31	テラカッタータイル等	伊奈製陶株式會社
32	金庫寫眞カタログ	大谷金庫店
33	硝子製品、旭ラッカー	旭硝子株式會社
34	ドアーチエック、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエック製作所
35	町野式水道消防器具	ヂョイント商會大阪支店
36	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
37	建具金物	近江セールズ株式會社
38	大理石及人造石	矢橋大理石商店
39	大理石	大理石工業株式會社
40	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
41	木工品	日本樂器製造株式會社大阪支店
42～43	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道銅管	住友伸銅鋼管株式會社
44	銅眞鍮アルミニウム	古河電氣工業株式會社
45～46	ラス類一式	奥村重兵衛商店
47	スチールサッシュ、シヤッター見本	合名會社汎建製作所
48	板硝子	日本板硝子株式會社
49	石材並ニ彫刻物	一營商會
50	建建金物	大塚定治郎商店
51	ベニヤ板及加工品	ベニヤ商會
52	金屬天井板	佐渡島西店建材部
53	各種マーブリツク	守谷建材株式會社大阪支店
54	一般石材	關西石材株式會社
55	石綿スレート	淺野スレート株式會社
56		
57	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
58	ベニヤ板見本ドアーセクション	內外木材工藝株式會社
59	專賣特許特殊ゴム床敷物	ライトラバー工業合資會社
60	田中式カストストーン	合名會社田中タイリング商會
61	アスファルト	榎商店
62	日之出アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
63	ルーフキング	佐久間パブコ工業株式會社
64～65	キングブロックアスファルト鐵鋼類	マルエス工業株式會社
66	バルボイド、メトロストンペークライト	合資會社大洋組建材部
67	建築諸材料	合資會社建材社
68	セメント防水劑モリノイト保溫盤ウオータイト	日本セメント防水劑製造所
69	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所
70	スカイライト、エービーメタル	內外土木建築材料合資會社
71	水性塗料	岩城塗料製造株式會社
72	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
73	洋瓦各種	宇野洋瓦株式會社
A	裝飾織物	高島屋裝飾部
B. 1	コルク板	梁瀨商店
B. 2	美素	美素工業所
B. 3	ヤハズラス	富永鋼業株式會社
B. 4	人造大理石	旭マーブル研究所
C	KU式自働復式火難求助器	一柳商店機械部

建築と社會第18輯第5號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……42
旭硝子株式會社……35
朝日建材株式會社……表紙 2
淺野スレート株式會社……37
淺野物産株式會社……34
淺海商會……24
イ　岩元商店建材部……24
エ　榮進社……7
英進商會建材部……26
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
大阪伊丹商店……18
大阪組立コンクリート製作所……14
大野製作所……1
奥村重兵衛商店……21
岡田建材店……6
カ　關城化學工業株式會社大阪營業所……表紙 4
キ　木下謹三商店……40
桐田商會……25
協和製作所營業部……14
ク　黒川化學工業所……16
久保商店……12
ケ　建盛商會……32
コ　後藤商店……6
サ　佐渡島西店……33
シ　霜寅材木店……41
ス　須賀商會……29
セ　政正合資會社……31
清光社……12
タ　田中昌司商店……28
田島應用化學工業所大阪支店……43
田村商會……9
武智事務所……39
大洋組建材部……22
ダンロップ護謨株式會社……中挿
タカラ商會……36
チ　チヨイント商會大阪支店……30
ト　東洋リノリユーウム株式會社……17
ナ　内外土木建築材料合資會社……27
南滿鑛業株式會社……22
中野鐵平石店……18
ニ　日本建築紙工株式會社……33
日本金具株式會社……中挿
日本洋瓦株式會社……4
西原衛生工業所……10
西孫南店建築金物部……36
ノ　野澤幸三郎商店……5
ヒ　平松釣戸車製作所……26
日立製作所……38
美素工業所……2
フ　福島合名會社……8
藤田庄藏商店……44
ホ　ボルネオ物産商會出張所……32
ヘ　ベニス工房……30
マ　マスタ塗板……11
マルエス工業株式會社……15
丸善株式會社……3
松井商店……16
ミ　三井物産株式會社……19
ヤ　矢橋大理石商店……20
大和護謨製作所……13
山本東作商店……28
ヨ　横河橋梁製作所……23
米本榮商店……20
ラ　ライトラバー工業合資會社……表紙 3
レ　玲光社(木内眞太郎)……8